

追加調査 報告書

学勢調査2022



-大学統合と女子枠に関する追加調査 意見まとめ-

2023年7月 学勢調査スタッフ一同

学勢調査 2022

追加調査 報告書

—大学統合と女子枠に関する追加調査 意見まとめ—

2023 年 7 月

東京工業大学
学勢調査 2022 スタッフ一同



リーダーからの挨拶

2005 年に本格実施を開始した学勢調査は、学生が主体の活動として「学生の生の声を伝える」ことを掲げて活動を始め、今年の学勢調査 2022 で通算 9 回目を迎えています。学勢調査 2022 実施以降、本学では大きな決定が 2 つありました。「東京医科歯科大学との統合」と「学士課程入試における女子枠の導入」です。この 2 点は学勢調査 2022 のアンケート実施後に発表されたものです。学生生活への影響がとて大きいと考えられることから、学勢調査 2022 に新たなプロジェクトチームを立ち上げ、「追加調査」として学生への意識調査を緊急実施することになりました。

本追加調査は、学生スタッフによって作成された設問を用いてアンケートを実施し、計 1,623 人の方から回答をいただきました。設問には、東京医科歯科大学との統合、学士課程入試における女子枠の導入の 2 点についての質問が含まれています。両改革についての自由記述式の設問を設けることで、幅広い意見を募りました。いただいた数多くの回答をもとに、多くの学生からの意見を反映できるようクロス集計による数値データ分析に加えて、膨大な自由記述を複数のスタッフで細かくチェックして分析することで、より良い報告書を作成できたと考えています。

「学生の多様な意見を学生自身が集約することは、学勢調査の果たすべき役割ではないか！」との思いから、本プロジェクトを立ち上げる運びとなったのですが、私たち学生スタッフは、ご回答いただいた 1,623 件にのぼる学生の意見を集約して分析する中で、本報告書が与えうる影響に、大きな責任を感じていました。多くの人の目で 1 つ 1 つの設問をチェックし、丁寧な分析に徹するよう注力して参りました。また、理学院・工学院の総合型入試の制度変更についての新たな情報・国際卓越研究大学候補選定・QS 世界大学ランキング等の目まぐるしく変わる動向を、可能な限り慎重に追いながら、分析を実施しました。また、調査実施期間中(2022 年 12 月 27 日から 2023 年 1 月 27 日)に大学新名称の発表(2023 年 1 月 19 日)がある点も考慮して、柔軟な対応を心がけつつ、スピーディーに進められる大学改革に追随し、なるべく早くこの報告書を作成するため、プロジェクト発足からわずか半年という短い期間で集中して作業を進め、なんとか完成まで辿り着きました。慎重さとスピーディーさを両立すべく、学生スタッフ全員が一丸となり、密なコミュニケーションと授業や研究の合間に膨大な分析・執筆作業・修正を繰り返し行いました。プロジェクト実施期間半年、提言ではなく意見まとめのみを執筆、学勢調査 2022 からの継続メンバーが大半など、初めてづくしのプロジェクトで、私自身至らない点もたくさんありましたが、他の学生スタッフメンバーの協働作業と教職員の皆様の手厚いサポートを受けて、報告書を完成することができました。

最後になりますが、追加調査に回答してくださった学生の皆様に深く感謝いたします。皆様からの回答が私たちの分析と執筆に取り組む原動力です。今回の追加調査では未熟な点も沢山ありますが、学勢調査スタッフは、本調査 2024 以降も、皆様の声を大学へ届けるべく、その時々学生メンバーが全力で取り組んでくださると思いますので、ぜひ今後とも協力いただければ幸いです。

厳しいスケジュールでも共に作業に尽力してくれた学生スタッフの皆様、いつも学勢調査の活動を支えてくださっている教職員 WG メンバーの皆様、大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

学勢調査 2022 追加調査リーダー

環境・社会理工学院 融合理工学系 地球環境共創コース 修士課程 1 年

渡部 晃子

目次

リーダーからの挨拶	1
1 調査概要	4
1.1 調査目的	4
1.2 調査主体	4
1.3 調査時期・調査対象・調査事項	4
1.4 調査方法・分析方法	4
1.5 回答者の属性	5
1.6 全体会議の記録	7
1.7 公表と報告	8
2 統合関連	9
意見まとめ 2-1 統合後の新大学はどのようにあるべきですか(複数選択可)	9
意見まとめ 2-2 統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性を教えてください(複数選択可)	11
意見まとめ 2-3 統合による、あなた自身にとってのメリットはどこにあると思いますか(複数選択可)	13
意見まとめ 2-4 統合による、あなた自身にとってのデメリットはどこにあると思いますか(複数選択可)	16
意見まとめ 2-5 東京医科歯科大学で行われている部活・サークル・学生団体などの活動について知っていますか、また参加したい活動はありますか	19
意見まとめ 2-6 統合によって学士課程入試の受験倍率は現在の東京工業大学と比べてどうなと思いますか	23
意見まとめ 2-7 統合によって世界大学ランキングは現在の東京工業大学と比べてどうなと思いますか	25
意見まとめ 2-8 統合はあなた自身の就職活動に良い影響を与えますと思いますか	28
意見まとめ 2-9 統合後の新大学が学外に対して積極的にアピールするべきだと感じるポイントを教えてください(複数選択可)	31
意見まとめ 2-10 あなたは統合を楽しみにしていますか	34
意見まとめ 2-11 統合に対する周囲(東工大生以外、家族など)の反応は好意的だと思いますか	37
意見まとめ 2-12 あなたは東京工業大学という名称が変更されることについて受け入れていますか	40
意見まとめ 2-13 現行の東工大の制度のうち、統合後も変えないで欲しい制度は何かありますか、またそれはなぜですか(自由記述式)	42
意見まとめ 2-14 現行の東工大の制度のうち、統合を機に変えて欲しいものは何かありますか、またどう変わって欲しいですか(自由記述式)	46
意見まとめ 2-15 統合後、異なる所属の学生間の交流を推進するために継続または新設してほしい制度はありますか(自由記述式)	48
意見まとめ 2-16 統合後、情報基盤システムに関して何か要望はありますか(自由記述式)	50
意見まとめ 2-17 統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか	53
意見まとめ 2-18 統合について、意見があれば自由に記入してください(自由記述式)	55
3 女子枠関連	58
意見まとめ 3-1 女子学生の比率が増えることについてどう思いますか	58
意見まとめ 3-2 女子枠の導入によって、学生の学力はどうなと思いますか	60
意見まとめ 3-3 女子枠の導入によって、学生の研究力はどうなと思いますか	63
意見まとめ 3-4 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子枠を導入するという取り組み全体についてどう思いますか	66
意見まとめ 3-5 女子枠の導入によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか	71
意見まとめ 3-6 女子枠の導入について、意見があれば自由に記入してください(自由記述式)	74
4 調査資料集	77
4.1 基本情報	77

4.2	東京医科歯科大学との統合	81
4.3	女子枠導入	88
4.4	学勢調査 2022 追加調査 設問一覧(日本語)	91
4.5	Questions of Student Survey 2022: Additional Questions	95
5	謝辞	99
6	学勢調査 2022 学生スタッフ	100
7	学勢調査 2022 WG 教職員スタッフ	101
	索引	102

1. 学勢調査概要

1.1 調査目的

学勢調査 2022 のアンケート実施後、本学では大きな決定が 2 つありました。「東京医科歯科大学との統合」と「学士課程入試における女子枠の導入」という大きな決定がありました。この 2 点は学生生活への影響がとても大きいと考えられることから、学勢調査 2022 の追加調査として現在の学生への意識調査を追加実施することにしました。

1.2 調査主体

学生支援センター未来人材育成部門に置かれている学勢調査 2022WG が、学生スタッフを募集し、アンケート調査を実施しました。

1.3 調査時期・調査対象・調査事項

本追加調査は 2022 年 12 月 27 日から 2023 年 1 月 27 日の間に実施しました。調査対象は本学に在籍する全学生(正規課程学生だけでなく、科目等履修生、研究生などを含む)です。調査事項については、「4. 調査資料集」に掲載しましたので、そちらをご参照ください。

1.4 調査方法・分析方法

本追加調査は、教務 Web システムのアンケート機能を利用して行われました。本学学生のみが回答でき、個人は特定できない仕組みになっています。

調査項目は設問検討会議を通じて学生スタッフが決定しました。回答データの解析についても、学生スタッフが主体的にデータの分析、議論を行い、その結果をまとめました。

1.5 回答者の属性

表 1-5.1 所属課程、留学生、性別、2024 年度以降在学予定見込みについての各回答者数

所属課程		留学生		性別		2024 年度以降 在籍予定見込み	
学士課程	837	留学生	350	男性	1,263	はい	896
修士課程	428			女性	299	進学を希望 している	218
博士後期課程	294			回答しない	47	いいえ	454
その他	64	非選択	1,273	非選択	14	非選択	55
総計	1,623		1,623		1,623		1,623

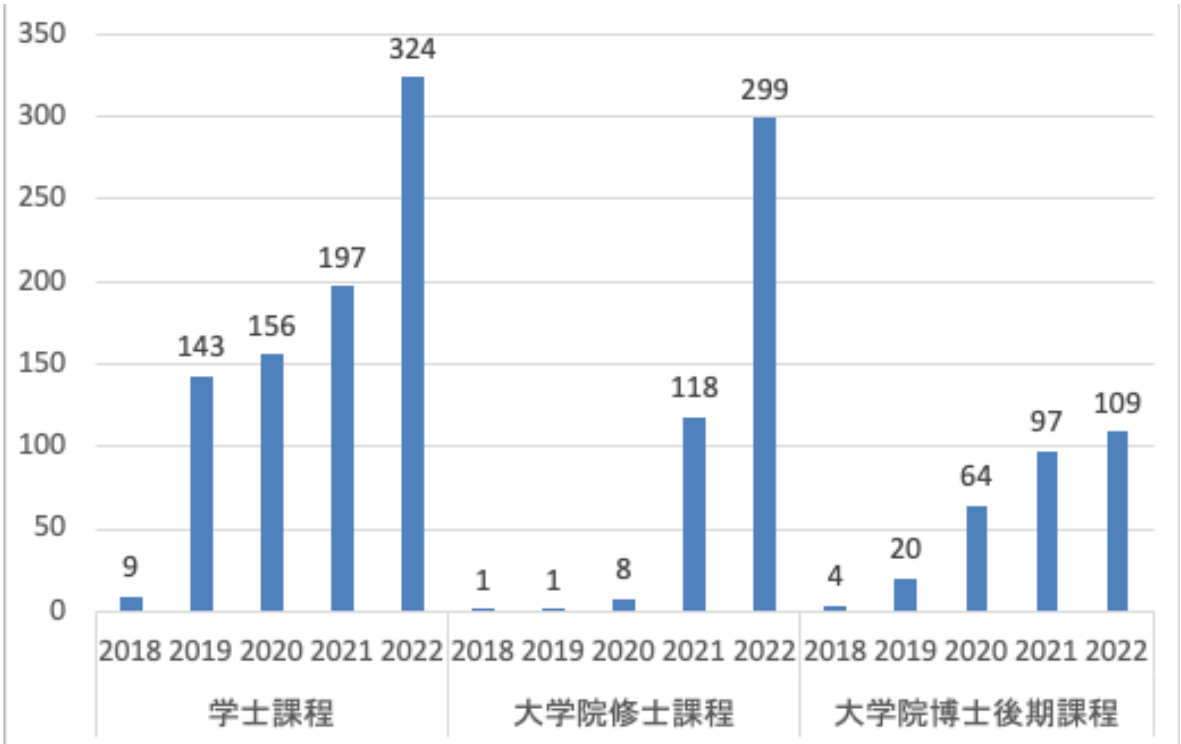


図 1-5.1 学士課程/修士課程/博士後期課程の入学年度ごとの回答者数

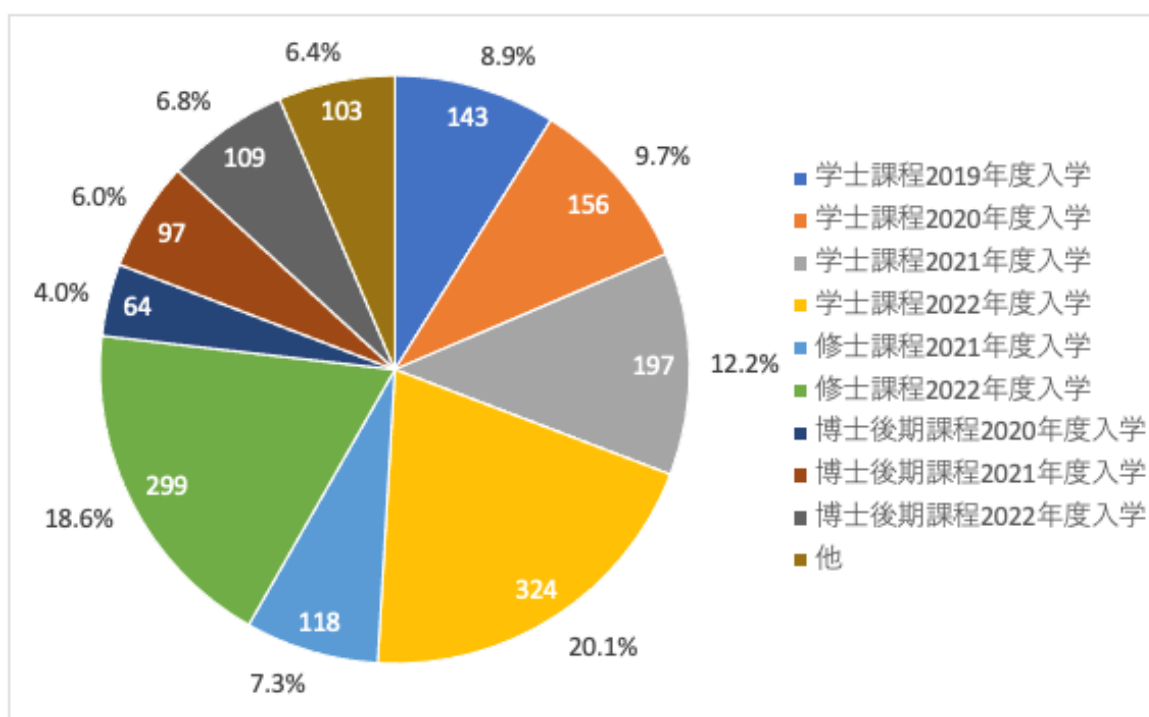


図 1-5.2 学士課程/修士課程/博士後期課程の入学年度ごとの回答者数の割合
(注: 白字は回答者数)

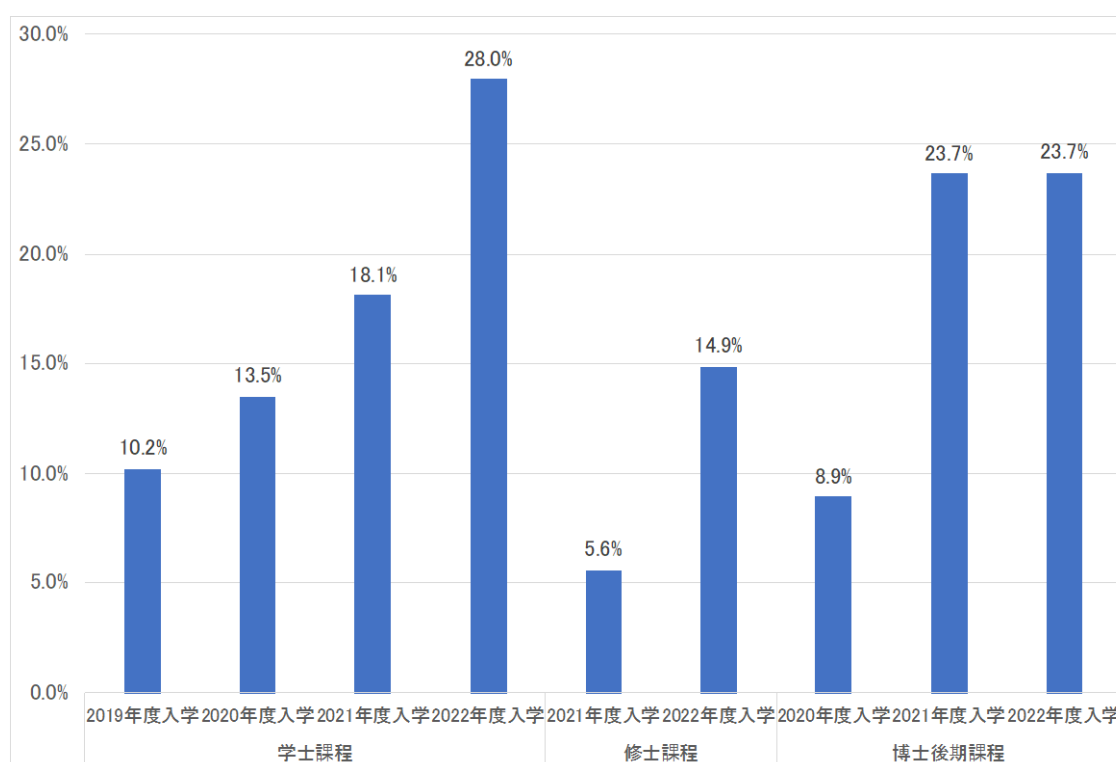


図 1-5.3 学士課程/修士課程/博士後期課程のそれぞれの入学年度の数に対する回答者数の割合
(各学年の所属人数は本学公表データに基づく¹⁾)

¹ 東工大 HP 東工大について 統計データ <https://www.titech.ac.jp/public-relations/about/disclosure/facts> (最終閲覧: 2023 年 3 月 28 日)

図 1-5.1 と大学が出している統計データ¹をもとに、入学年度ごとの回答者数の割合を算出しました(図 1-5.2 と図 1-5.3 を参照)。2022 年度入学の学士課程、すなわち学士課程 1 年の回答者数割合は 28.0%であり、約 4 人に 1 人が回答しています。学士課程、修士課程、博士後期課程どの課程においても、学年を追うごとに回答者数が減ります。博士後期課程への進学割合が少ないため、大学の統合と女子枠の導入の変化の影響を在学中に受ける人が少ない、修士課程 2 年(修士 21)の回答者数の割合は、わずか 5.6%と関心が低いことがわかりました。

表 1-5.1 における回答者の人数比は、留学生 14.8%、性別においては男性 8,823 人、女性 1,845 人、回答しない 47 人であり、「男性:女性=4.78:1」の比率は大学全体の人数比(留学生: 1,810/10,648 人=17.0%)、男女比(男性:女性=4.22:1)と大きな差がなかったため、性別と留学生の比率という観点では回答者に偏りはほとんどないと見られます。ただし、大学全体における所属人数の情報は、性別の区分が「男性」「女性」の 2 つである点に注意が必要です(学勢調査における性別の区分は「男性」「女性」「回答しない」の 3 つとなっており、性別について回答が非選択の場合であっても次の回答へ進むことができます。)

2024 年度とは、統合と女子枠の導入が実施される初年度です。2024 年度以降も、在籍の予定または見込みがある学生か否か、によって回答結果に影響があると予測しており、こちらの区分についても、今後クロス集計を行っております。

1.6 全体会議の記録

● 設問検討会議

計 2 回にわたり調査項目の検討を、第 1 回は対面開催、第 2 回は Zoom を用いたオンラインと対面のハイブリット形式により行いました。学生スタッフで議論を重ね、教職員の方々からアドバイスをいただきながら、設問検討会議を実施いたしました。会議の実施年月日と議題は以下の通りです。

第 1 回	2022 年 11 月 21 日(月)	追加調査実施目的および設問項目の検討
第 2 回	2022 年 11 月 24 日(木)	追加調査実施目的および設問項目の検討

● 報告書作成会議

計 10 回にわたり、本報告書作成に関しての議論等を行いました。第 1 回から第 7 回までは Zoom を用いたオンラインと対面のハイブリッド形式、第 8 回から第 10 回は Zoom を用いたオンライン形式により行いました。追加調査報告書作成会議の実施年月日と議題は以下の通りです。

第 1 回	2023 年 2 月 24 日(金)	データのまとめ方と公表方法確定、概略作成確定、概略と数値分析データ分担
第 2 回	2023 年 3 月 22 日(水)	概略と数値分析データ解析結果共有
第 3 回	2023 年 4 月 20 日(木)	自由記述解析方法検討
第 4 回	2023 年 5 月 1 日(月)	自由記述解析
第 5 回	2023 年 5 月 17 日(水)	数値分析データ解析結果共有
第 6 回	2023 年 5 月 22 日(月)	データまとめ方法再検討
第 7 回	2023 年 6 月 20 日(火)	報告書の内容検討
第 8 回	2023 年 6 月 26 日(月)	報告書の内容検討
第 9 回	2023 年 6 月 28 日(水)	報告書の内容検討
第 10 回	2023 年 6 月 29 日(木)	報告書の内容検討

1.7 公表と報告

本報告書は、学長への奉呈後、インターネットの学勢調査専用サイトおよび冊子で公表される予定です。冊子は大岡山とすすかけ台の両キャンパス附属図書館で閲覧可能となる予定です。

※学勢調査専用サイト:<http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/>

学勢調査 2022 追加調査データを利用する際には、学内外に関わらず、事前に学生支援センター未来人材育成部門 `gakuseichousa1[at]jim.titech.ac.jp([at])`を@で置き換えてください。)へご連絡ください。

2. 統合関連

2 設問番号 9

意見まとめ
2-1

統合後の新大学はどのようにあるべきですか
(複数選択可)

現状分析

本問では、統合後の新大学がどのようにあるべきと思うかについて、大学統合の発表の際に示された 4 つの「新大学の目指す姿」¹である「両大学の尖った研究をさらに推進する大学」、「部局等を超えて連携協働し『コンバージェンス・サイエンス』を展開する大学」、「総合知に基づき未来を切り開く高度専門人材を輩出する大学」、「イノベーションを生み出す多様性、包摂性、公平性を持つ文化を有する大学」と自由記述から複数選択形式で調査しました。

1. 数値分析

図 2-1.1 からわかるように、大学が統合後に回答者が在籍予定か否かは目指すべき大学像の回答にさほど影響を及ぼしておらず、総計においては「両大学の尖った研究をさらに推進する大学」が 70.0%、「部局等を超えて連携協働し『コンバージェンス・サイエンス』を展開する大学」と「総合知に基づき未来を切り開く高度専門人材を輩出する大学」がともに 42.0%、「イノベーションを生み出す多様性、包摂性、公平性を持つ文化を有する大学」が 36.0%でした。全体としては、「両大学の尖った研究をさらに推進する大学」であることが他の選択肢より 28 ポイント以上高く希望されていることがわかりました。

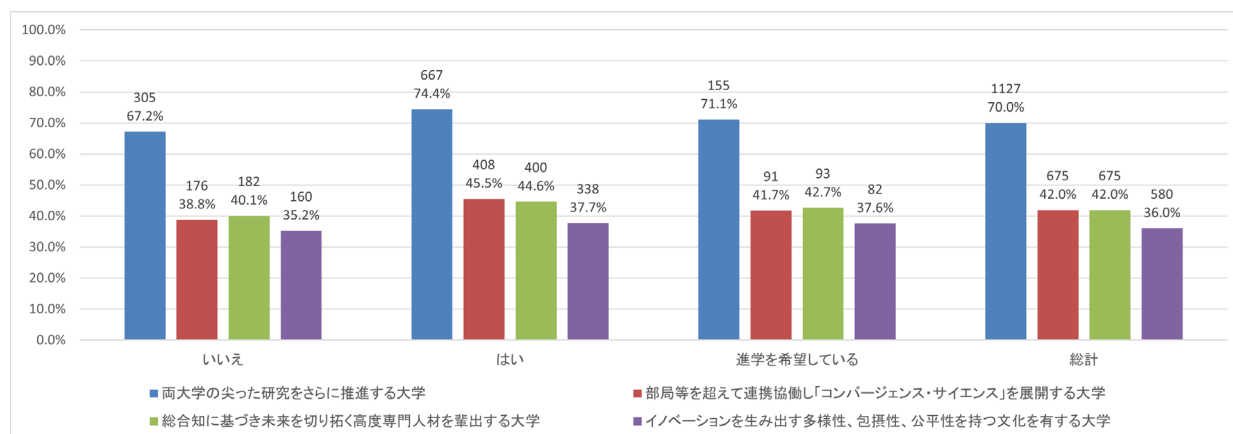


図 2-1.1 設問番号 8「2024 年度に大学が統合後、在籍予定ですか」とのクロス集計

所属学院別でみると図 2-1.2 のようになりました。どの学院においても割合の前後はあるものの「両大学の尖った研究をさらに推進する大学」が最も多い結果となりました。環境・社会理工学院のみ、「イノベーションを生み出す多様性、包摂性、公平性を持つ文化を有する大学」が 4 つのなかで 2 番目に多い結果となりましたが、その他の学院では「部局等を超えて連携協働し『コンバージェンス・サイエンス』を展開する大学」と「総合知に基づき未来を切り開く高度専門人材を輩出する大学」が同程度の割合で、「イノベーションを生み出す多様性、包摂性、公平性を持つ文化を有する大学」がそれらより若干少ない、という結果となりました。

¹ 東京工業大学「法人統合および大学統合について」: <https://www.titech.ac.jp/news/pdf/tokyotechpr20221014-integration2.pdf> (最終閲覧日: 2023 年 6 月 9 日)

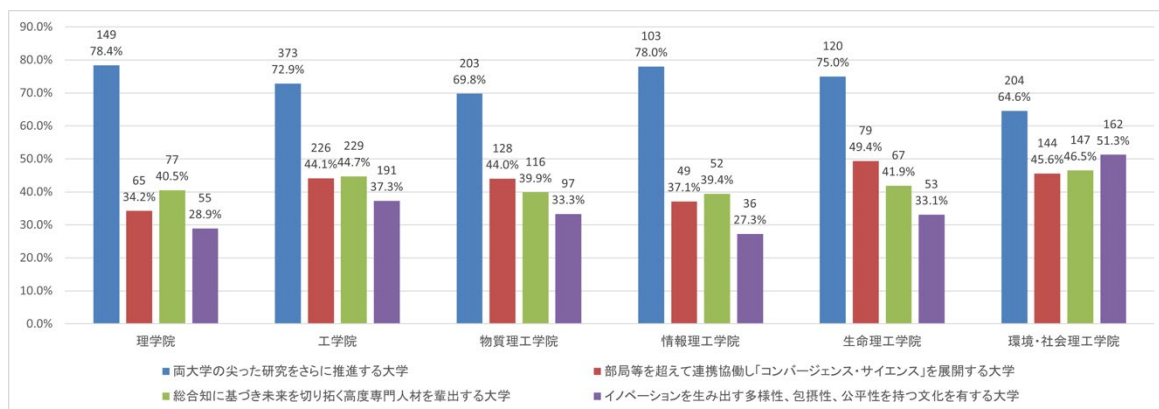


図 2-1.2 所属学院によるクロス集計

2. 自由記述分析

自由記述は、59 件ありました。統合後の新大学における学内外の連携強化や、世界的にレベルの高い大学を目指すことなどが挙げられていました。

- 内外問わずスムーズに連携できる大学 (同様意見 16 件)
- 両大学の専門性や研究を共有する大学 (同様意見 9 件)
- 国内・世界レベルで高い水準に位置する大学 (同様意見 5 件)

まとめ

大学が示した統合後の新大学が目指す姿についてどれかが極端に少ないという状況はなく、いずれの方向性も実現されるべきだということが学生全体の意見として表れていました。その中でも特に「両大学の尖った研究をさらに推進する大学」という方向性には、一際高い関心が寄せられていました。自由記述においては、統合によるメリットの1つである連携・共有について多くの意見が寄せられました。統合後の新大学には現在示されているような姿を目指して進んでいくことを、学生たちも願っているのではないかと推察されます。

現状分析

本問は、2022 年 6・7 月に実施した学勢調査 2022 の設問番号 13「あなたが思う東工大の人材育成における進むべき方向性を教えてください。(複数選択可)」¹をもとに設定しています。学勢調査 2022 本調査の選択肢である「グローバルな人材」「高度な専門力を有する人材」「理工系全域の見地を持った人材」「文理融合型の人材」「リーダーシップのある人材」「就職に強い人材」「その他(自由記述)」に加えて、統合のキーワードである「医工連携の人材」を新たに選択肢に追加した7つの人材育成の方向性(複数選択可)と自由記述から、新大学が目指すべき人材育成の方向性について尋ねたものです。

1. 数値分析

図 2-2.1 を見ると 4 割以上の学生が「医工連携の人材」を選択していることがわかり、これは「高度な専門力を有する人材」「理工系全域の見地を持った人材」に次いで 3 番目に多い結果となりました。本調査と追加調査で標本集団が異なり、追加調査の選択数は全体的に 10%ほど上昇しているので、単純な比較はできませんが、表 2-2.1 を見ると「理工系全域の見地を持った人材」の割合が 18.1%増加しており、従来の東工大の理工系の見地に加えて医科歯科大の医歯系の見地も加えて、理工系全域を総合的かつ俯瞰的に捉えたいという学生の期待がうかがえます。

表 2-2.1 学勢調査 2022 本調査と追加調査の回答選択割合の比較(順位と選択者数/全体)

	グローバルな人材	高度な専門力を有する人材	理工系全域の見地を持った人材	文理融合型の人材	リーダーシップのある人材	就職に強い人材	医工連携の人材
本調査	3 位 (27.6%)	1 位 (61.2%)	2 位 (35.0%)	5 位 (12.9%)	6 位 (12.6%)	4 位 (14.4%)	—
追加調査	4 位 (37.0%)	1 位 (71.0%)	2 位 (53.1%)	7 位 (19.8%)	5 位 (23.0%)	6 位 (21.7%)	3 位 (40.9%)

¹ 学勢調査「学勢調査 2022 提言書」http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/2022_gakusei_teigensho.pdf
(最終閲覧日:2023 年 6 月 9 日)

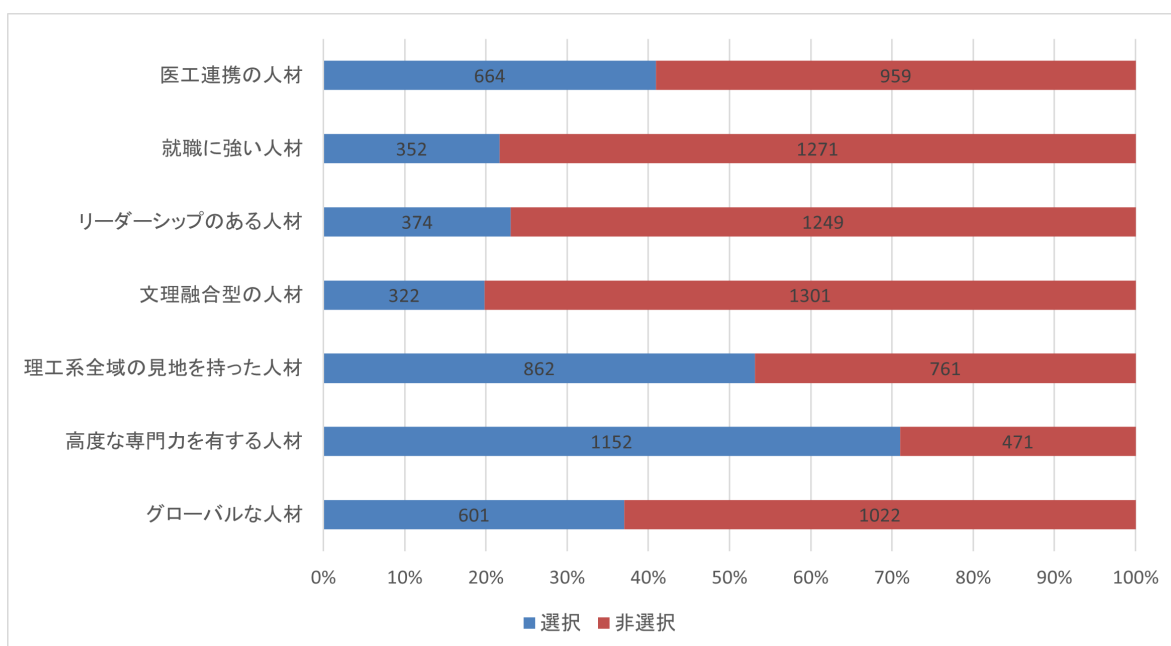


図 2-2.1 追加調査設問番号 10「統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性を教えてください(複数選択可)」の集計結果

学院別でみると、医歯系と近いと思われる生命理工学院で他学院よりも「医工連携の人材」の選択数割合が 55.0%と多いです。「医工連携の人材」の選択数割合は、工学院 43.0%、環境・社会理工学院 42.4%、情報理工学院 37.9%、物質理工学院 37.1%、理学院 32.1%と続きます。

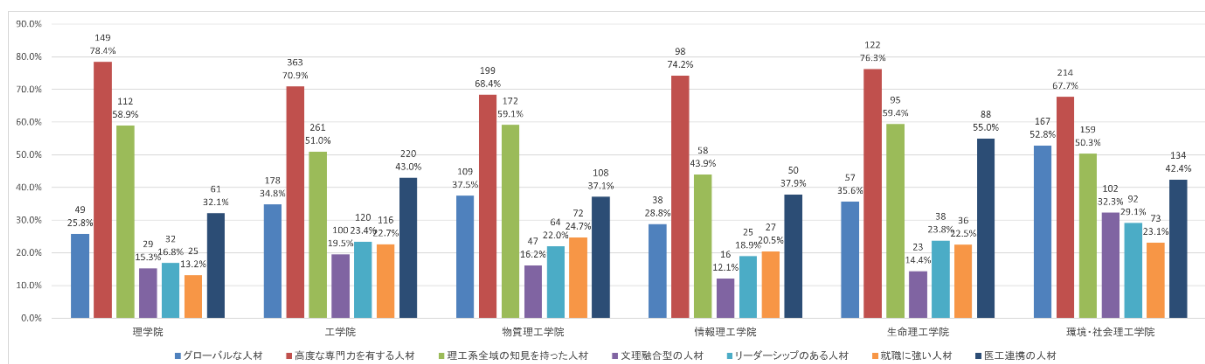


図 2-2.2 追加調査設問番号 10 と所属学院とのクロス集計

2. 自由記述

自由記述は、20 件ありました。理工系の専門力や医科歯科大と連携することで得られる便益を活かす方向性を志向している回答が数件ありました。

- 理工系の専門力を持った人材 (同様意見 5 件)
- 医工連携を始めとして幅広く他分野と連携できる人材 (同様意見 5 件)

まとめ

追加調査で回答選択肢に加えた「医工連携の人材」は、「高度な専門力を有する人材」や「理工系全域の見地を持った人材」、「グローバルな人材」という本調査で回答の選択割合が多かった人材像と並んで選ばれました。新大学では、専門力と理工系・医歯系の全体を俯瞰できる総合力を兼ね備えた人物になれるであろうことを思い描いている学生が多いのだと考えます。このような学生の期待に沿った新大学運営がなされることを願います。

現状分析

設問番号 11 では「統合による、あなた自身にとってのメリットはどこにあると思いますか?」という設問に対して、「研究」「教育(授業など)」「生活(キャンパス移動や部活動など)」「特になし」の 4 つの選択肢と自由記述欄を設けました。以下、数値部分と自由記述部分を分けて分析を行いました。

1. 数値分析

設問番号 11 統合による、あなた自身にとってのメリットはどこにあると思いますか? (複数選択可)

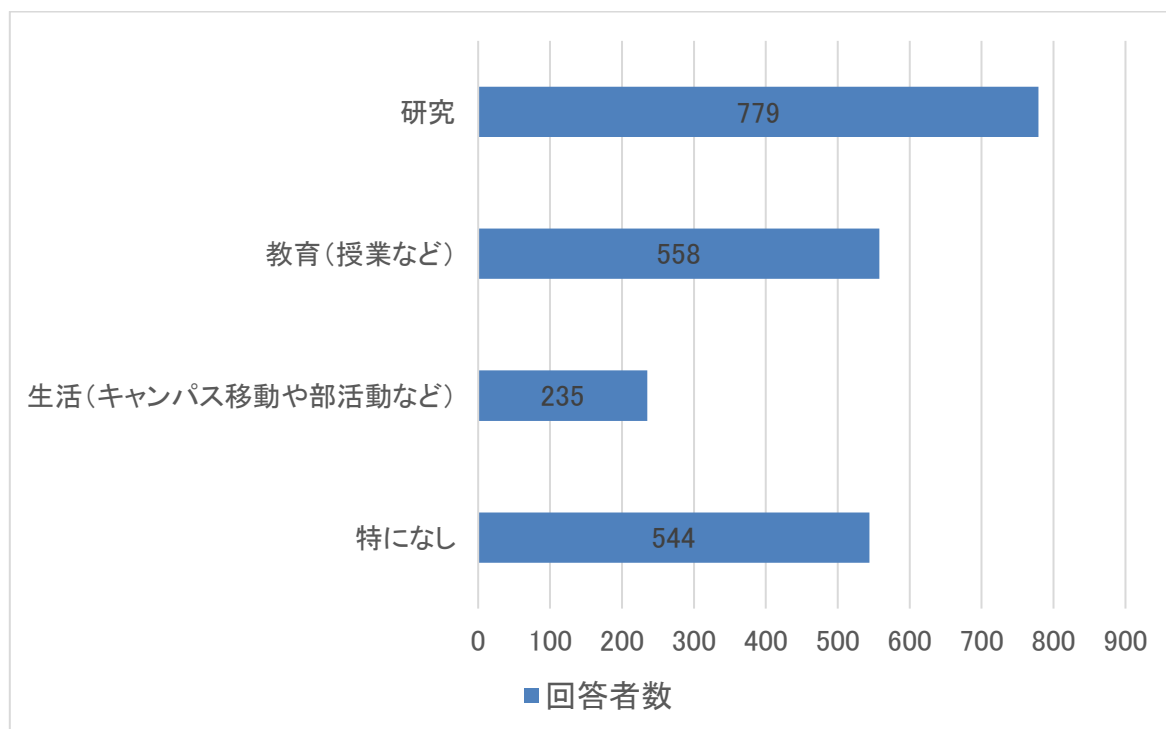


図 2-3.1 統合によるメリット

学生が最もメリットであると感じている項目は「研究」であり、ついで「教育(授業など)」でした(図 2-3.1 を参照)。おそらく医学分野との共同研究や分野横断的な取り組みへの期待感が反映されていると考えられます。また国際卓越研究大学への申請が進んだ段階でのアンケート実施であったことが、さらなる研究の活性化に注目する学生が多くなった要因ではないかと考えられます¹。

¹ 10兆円「大学ファンド」の支援候補、東大・京大・東北大に絞られる…秋には1～2校を認定へ。読売新聞オンライン。2023.6.27 (最終閲覧日: 2023 年 7 月 9 日)

<https://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/kyoiku/news/20230627-OYT1T50148/>

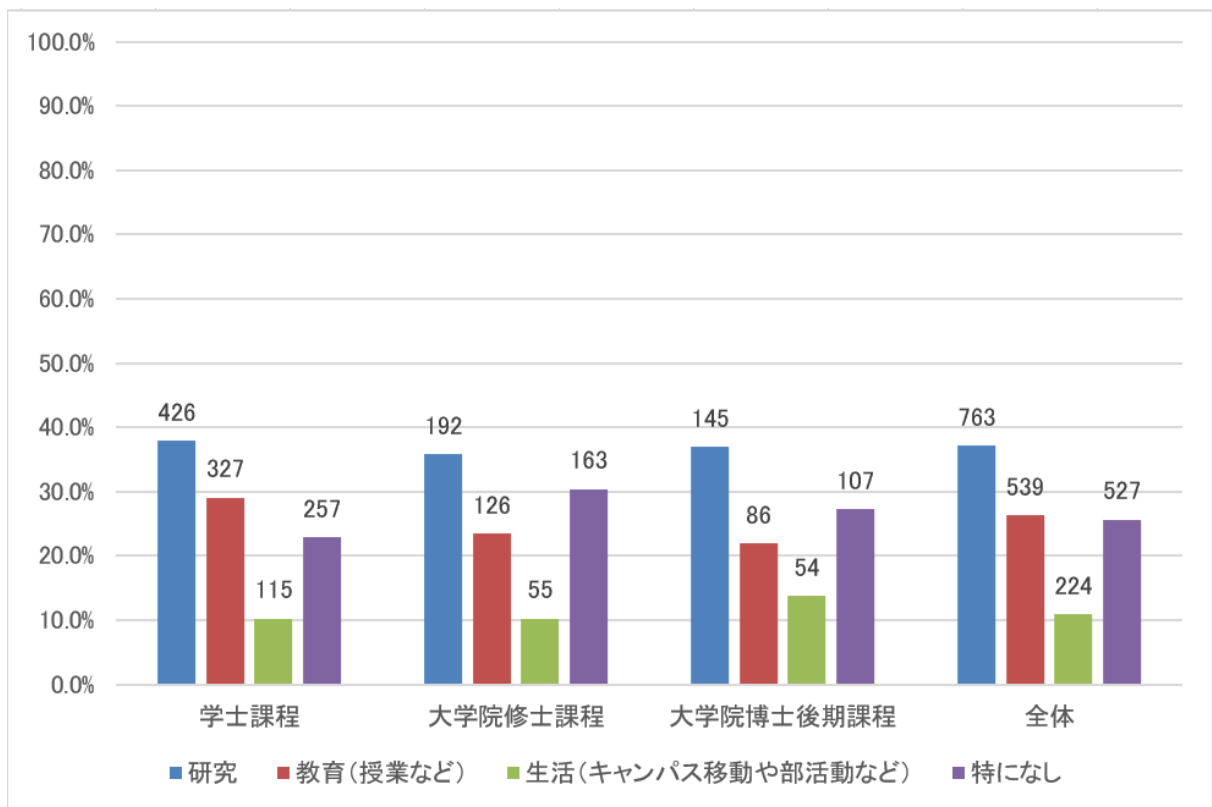


図 2-3.2 統合によるメリットと所属課程のクロス集計

図 2-3.2 を見ると学士課程の学生は、その他の課程の学生に比べて、「教育(授業など)」に対してメリットを感じていることが読み取れます。

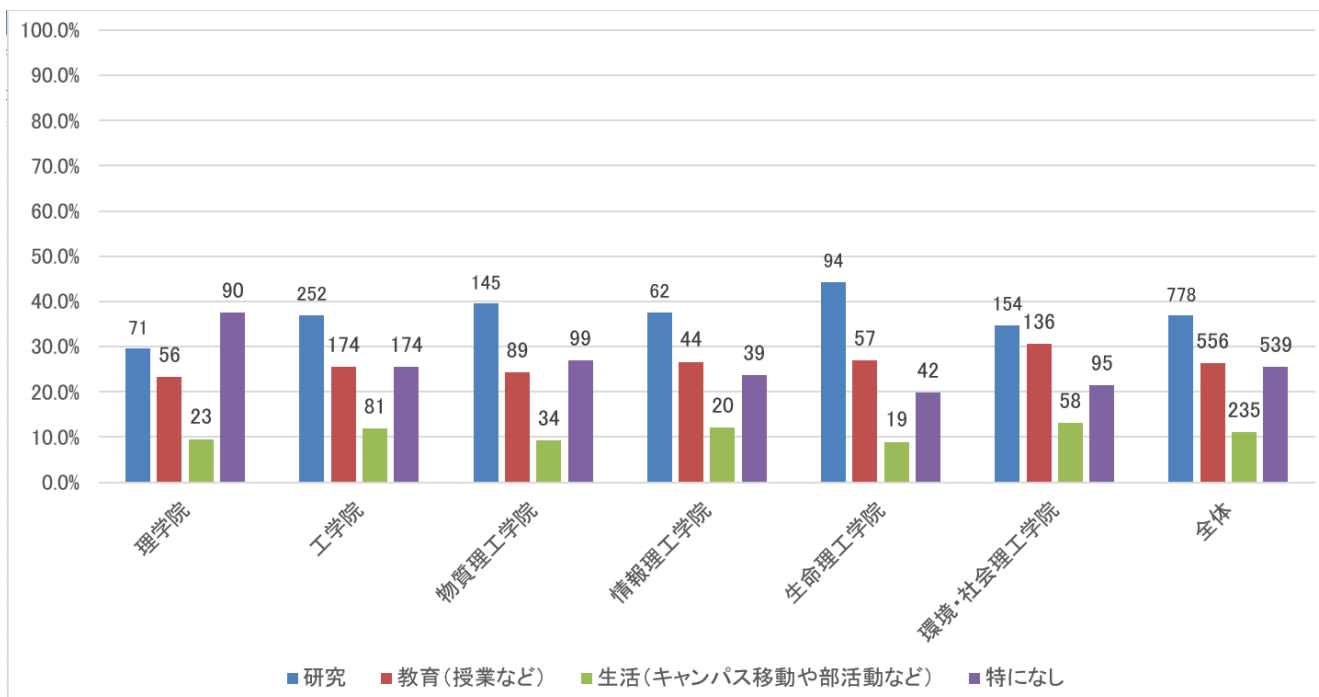


図 2-3.3 統合によるメリットと所属学院のクロス集計

図 2-3.3 からは、生命理工学院の学生は他学院の学生に比べて「研究」に関して特にメリットを感じていることが読み取れます。これは生命科学分野と医学分野が近いことや、すでに共同研究が行われていることもあり、今後の研究への期待感が現れていると考えられます。一方理学院の学生は統合がメリットであると感じている割合が 47.3% (調査に回答した理学院の学生 190 人中 90 人がメリットは「特になし」と回答し他学院と比べて高値)と最も低いことが挙げられます。

2. 自由記述分析

自由記述欄には 38 件の意見が寄せられました。

- 異分野間の交流促進 (同様意見 17 件)
- ネームバリューや話題性の向上 (同様意見 7 件)

その他にも件数は少ないですが、研究費の増額が見込めるため研究の活性化につながるという意見(同様意見 2 件)や医学分野の知識を学ぶことができる(1 件)などの声が上がりました。

まとめ

統合に関して、追加調査に回答した学生の多くがメリットを感じていることがわかりました。一方で、追加調査に回答した 1625 人のうち、544 人はメリットを感じる項目は「特になし」であると回答していました。今後学生間の交流を促していくこととなりますが、大学統合に関してすでに高い期待を寄せている生命理工学院の学生だけが交流を活発に行うのではなくて、東京医科歯科大学の専門分野とあまり近くないと考えられる理学院などの学生たちがどのように医学分野の学生と交流を深めていくのかを考えていく必要があります。

現状分析

設問番号 12 では「統合による、あなた自身にとってのデメリットはどこにあると思いますか?」という設問に対して、「研究」「教育(授業など)」「生活(キャンパス移動や部活動など)」「特になし」の 4 つの選択肢と自由記述欄を設けました。以下、数値部分と自由記述部分を分けて分析を行いました。

1. 数値分析

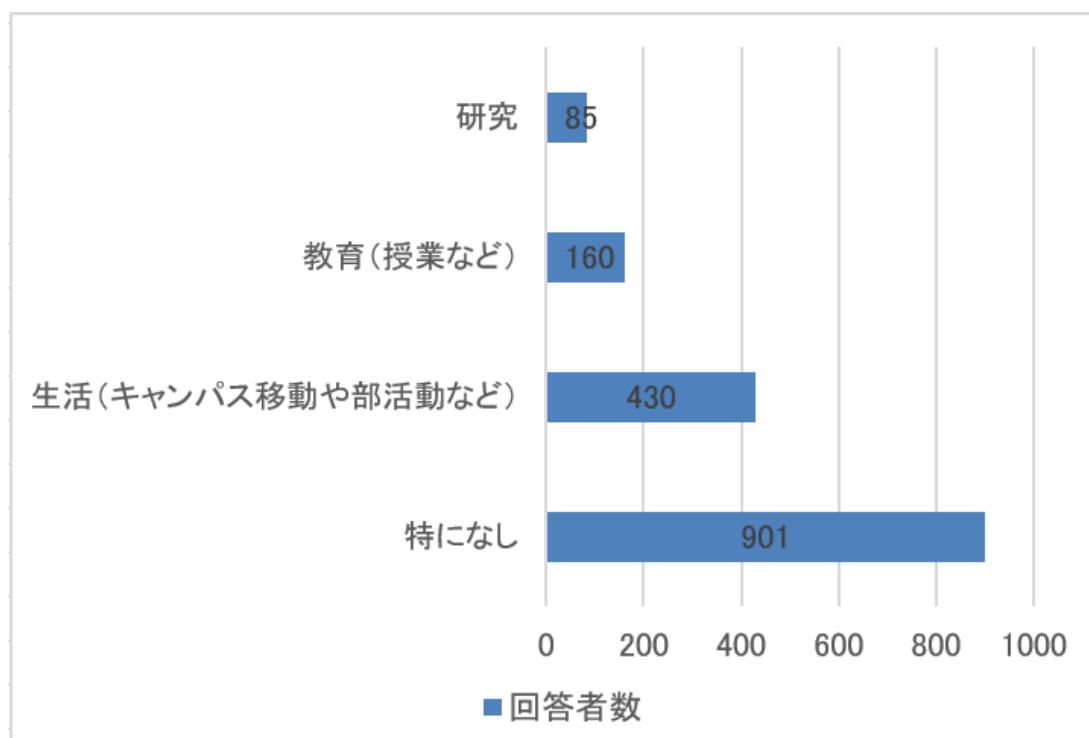


図 2-4.1 統合におけるデメリット

大学統合に関して、901 人(／1624 人)と追加調査回答者の半数以上の学生は「特になし」と回答しています(図 2-4.1 を参照)。

最も大きいデメリットとして挙げられていたのが「生活(キャンパス移動や部活動など)」の項目でした。おそらく多くの学生はキャンパス間の移動距離や移動時間を気にしているのだと考えられます。東京工業大学大岡山キャンパスから東京医科歯科大学の湯島キャンパス・駿河台キャンパスまでは約 50 分、すずかけ台キャンパスから湯島キャンパス・駿河台キャンパスへは約 1 時間 20 分ほどかかります。このように距離が大きく離れたそれぞれのキャンパスに通う学生たちの交流は可能であるのか、不安に思う学生が多いことを反映していると考えられます。

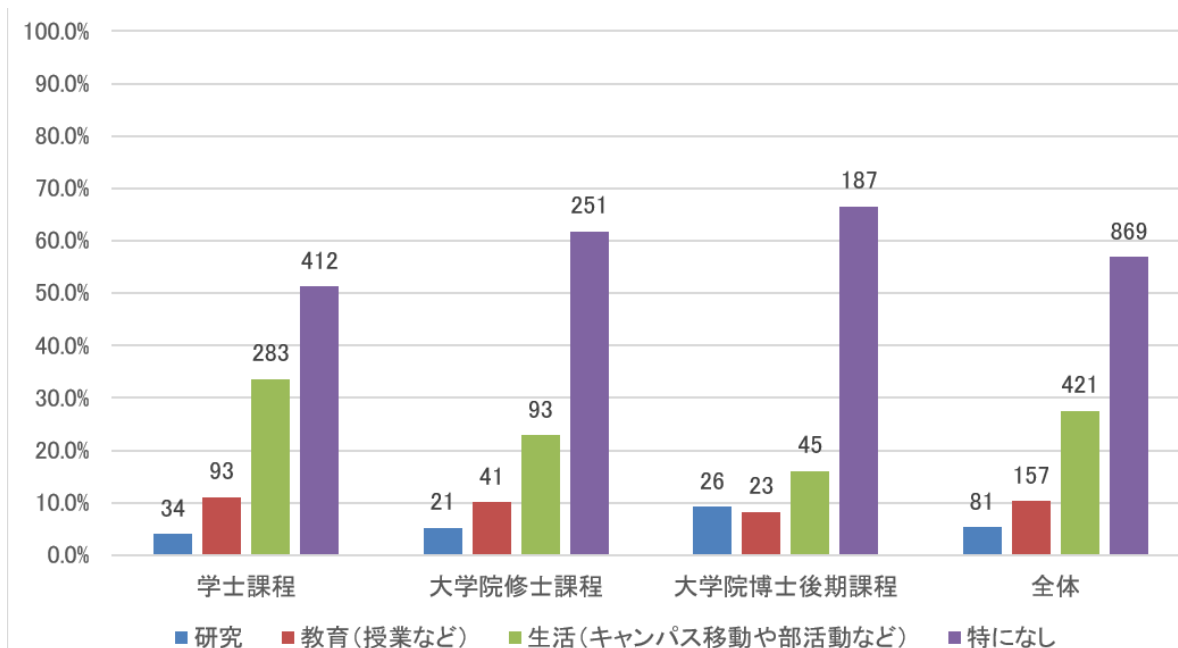


図 2-4.2 統合におけるデメリットと所属課程のクロス集計

図 2-4.2 によると、学士課程の学生が最もデメリットを感じていることが読み取れ、その中でも「生活(キャンパス移動や部活動など)」の項目でデメリットを感じている学生が多いことがわかりました。一方、博士後期課程の学生からは「研究」の項目でデメリットを感じている学生が他の課程と比べて若干多いことが読み取れます。

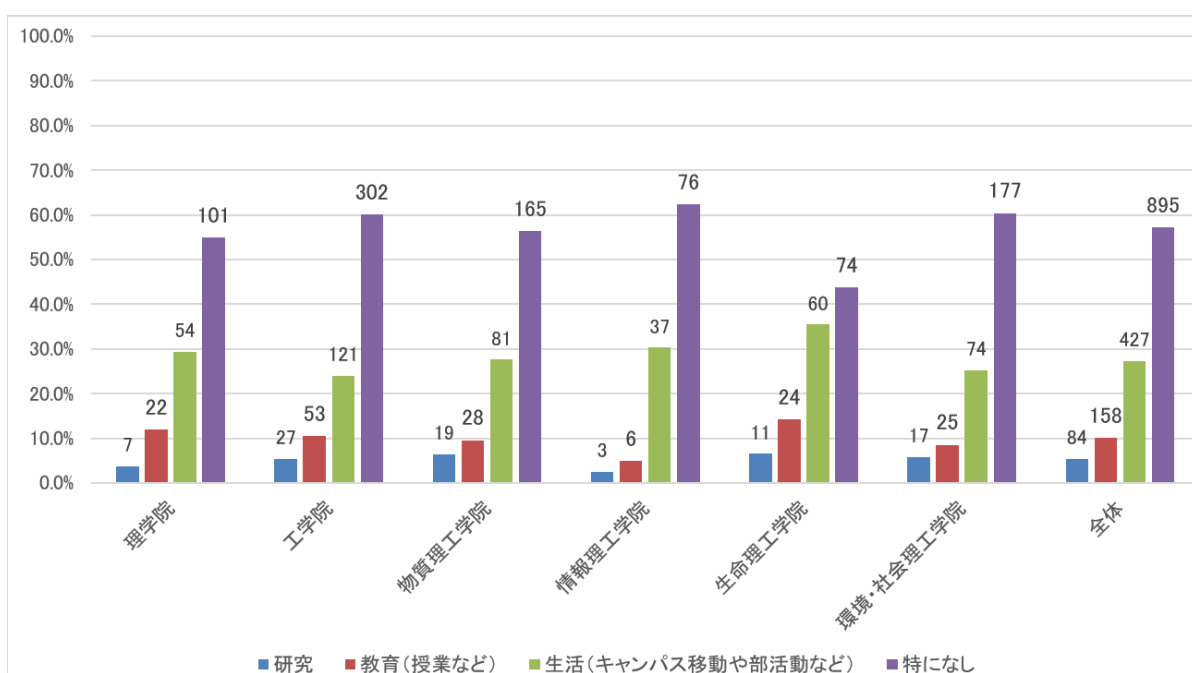


図 2-4.3 統合におけるデメリットと所属学院のクロス集計

図 2-4.3 によると、生命理工学院以外の学院においては、大学統合に関してデメリットを感じている学生は半分を下回っています。一方、生命理工学院のみが「研究」「教育(授業など)」「生活(キャンパス移動や部活動など)」のどの項目においても他学院の学生よりもデメリットを感じている学生の割合が多いことが読み取れます。意見まとめ 2-3 で取り上げた通り、生命理工学院の学生は統合に関心が大きく、期待値が高い傾向がありますが、その分期待通りの交流ができるのか不安に思っている学生も多いのではないかと考えられます。

2. 自由記述分析

自由記述欄には 151 件の意見が挙げられました。特に多かった意見を以下に取り上げます。

- 名称の変更 (同様意見 75 件)
- 知名度・ブランド力の低下 (同様意見 22 件)
- 帰属意識の低下 (同様意見 7 件)
- 就職力の低下 (同様意見 7 件)

自由記述からは、名称の変更に対する反発が強く読み取れる結果となりました。また名称の変更に連なって、東京工業大学としてのブランド力の低下や、東京科学大学という新しい大学名の知名度に対する不安を感じている学生も多いようです。また、すずかけ台-大岡山-御茶ノ水キャンパス間の移動の利便性がないことを心配する声がいくつか挙がりました(同様意見 3 件)。

まとめ

統合に関してデメリットは「特になし」と回答している学生は半数を下回っているなど、多くの学生が統合を受け入れているであろうことが読み取れる一方、「生活(キャンパス移動や部活動など)」の項目なのでデメリットを感じている学生も少なからず存在することがわかりました。また統合によるメリットを一番感じている生命理工学院の学生が、デメリットを感じている学生の割合が最も高く半数を超えているという結果が出ています。これはすずかけ台キャンパスと湯島キャンパス・駿河台キャンパスの距離の遠さから交流に関して不安を感じている学生が多いのではないかと考えられます。このような不安を払拭することが、2 大学間の交流を深めていくためには必要だといえます。

東京医科歯科大学で行われている部活・サークル・学生団体などの活動について知っていますか、また参加したい活動はありますか

現状分析

設問番号 13 は「東京医科歯科大学で行われている部活・サークル・学生団体などの活動について知っていますか、また参加したい活動はありますか」という設問です。「知っていて、参加したい活動がある」「知っているが参加したい活動は今のところ見つからない」「知らない」「既に参加している活動がある」の4つの回答選択肢に対して、回答非選択を除き、1578 件の回答をいただきました。

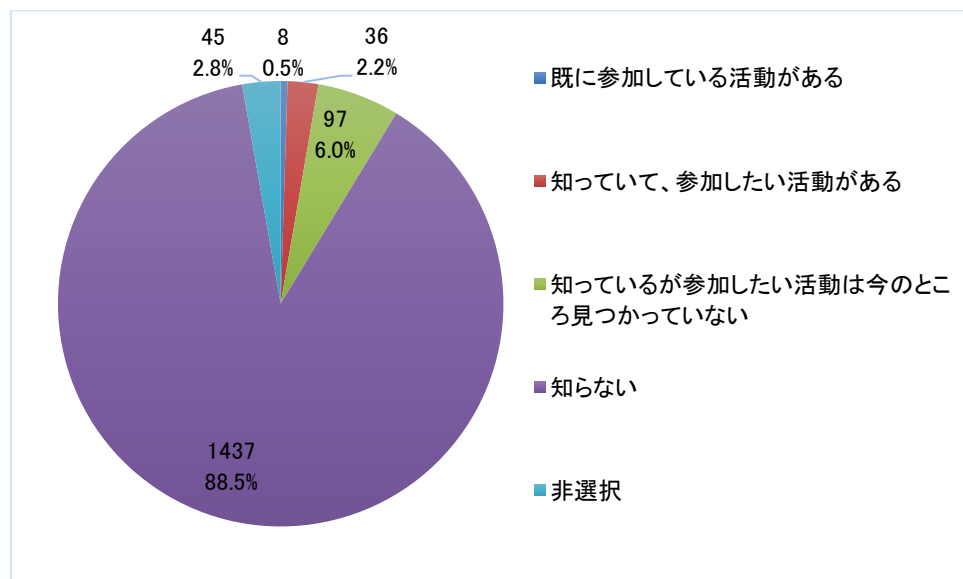


図 2-5.1 東京医科歯科大学で行われている部活・サークル・学生団体などの活動について知っていますか、また参加したい活動はありますか

図 2-5.1 は設問番号 13 の回答割合です。東京医科歯科大学で行われている活動について、既に参加していると答えた人を含めて知っていると回答した人は約 8.6%となり、ほとんどの学生に知られていないことがわかりました。

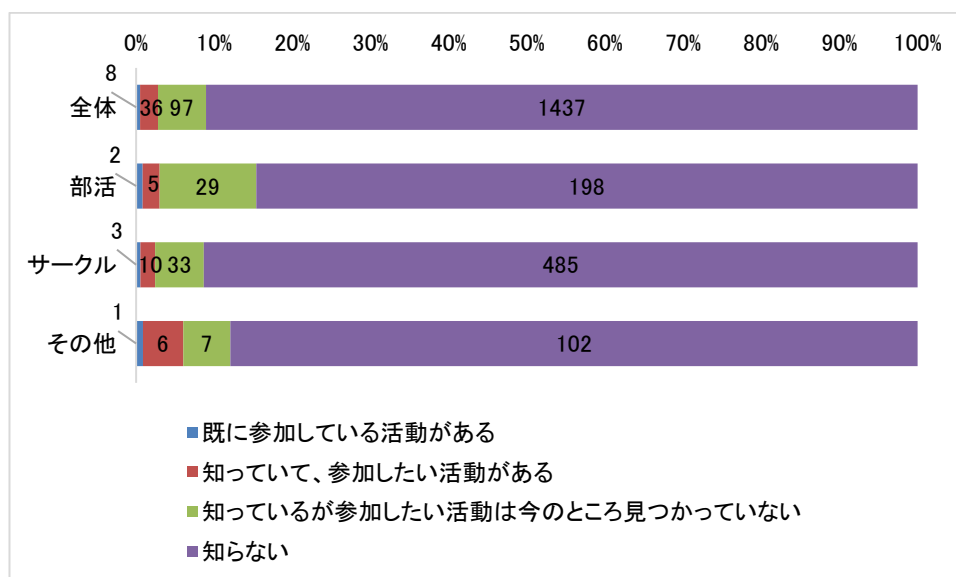


図 2-5.2 部活・サークル・その他等の課外活動に参加している人の回答

図 2-5.2 はサークル等の課外活動に参加していると答えた学生のうち、設問 13 について回答した割合です。知っている
と答えた割合は、部活に参加している学生が最も多いことがわかりました。また、知っていて、参加したい活動があると
答えた 36 人のうち 16 人は、本学内で課外活動を行なっていると答えていないため、本学にはない東京医科歯科大学の
課外活動に参加したいと考えているのではないかと考えられます。

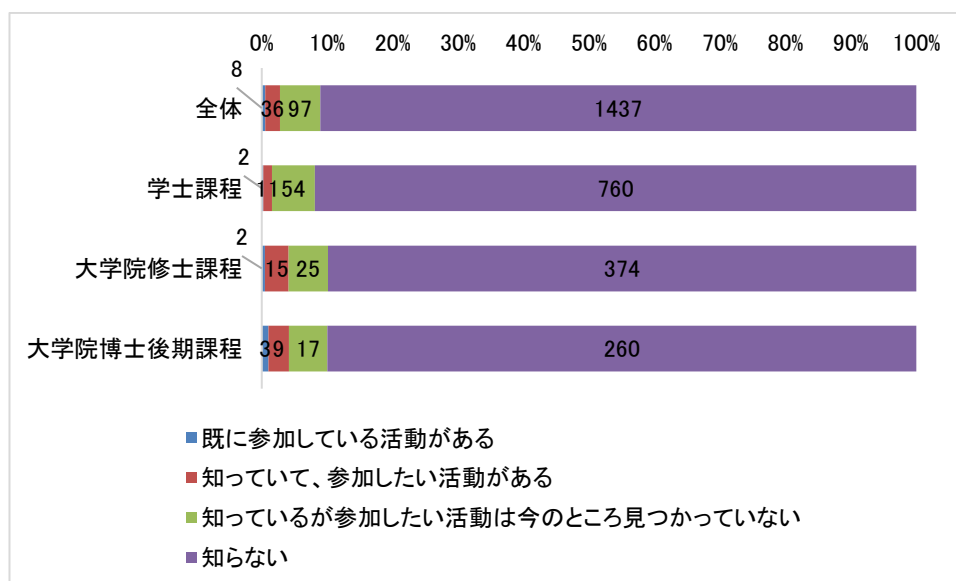


図 2-5.3 所属課程別でみた設問番号 13 の回答

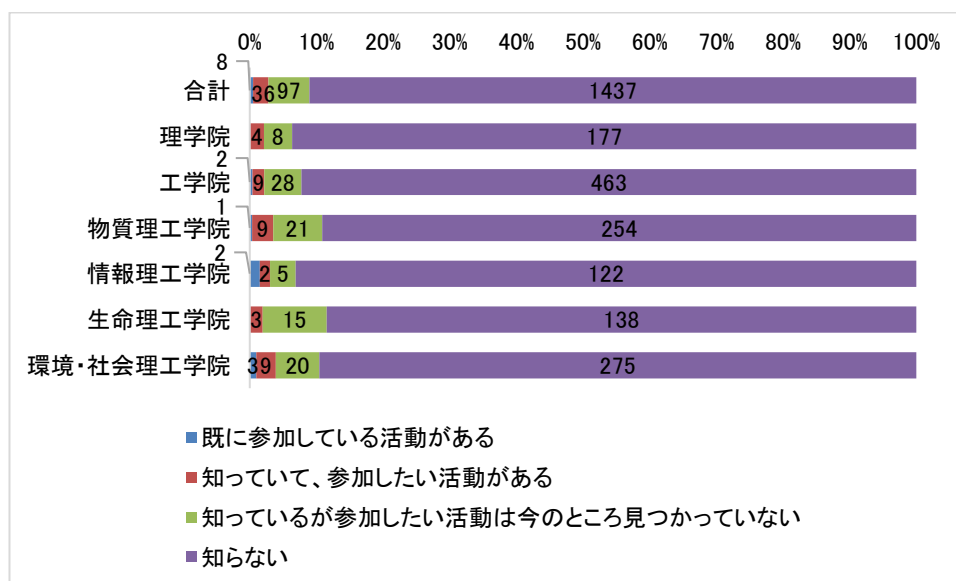


図 2-5.4 所属学院別でみた設問番号 13 の回答

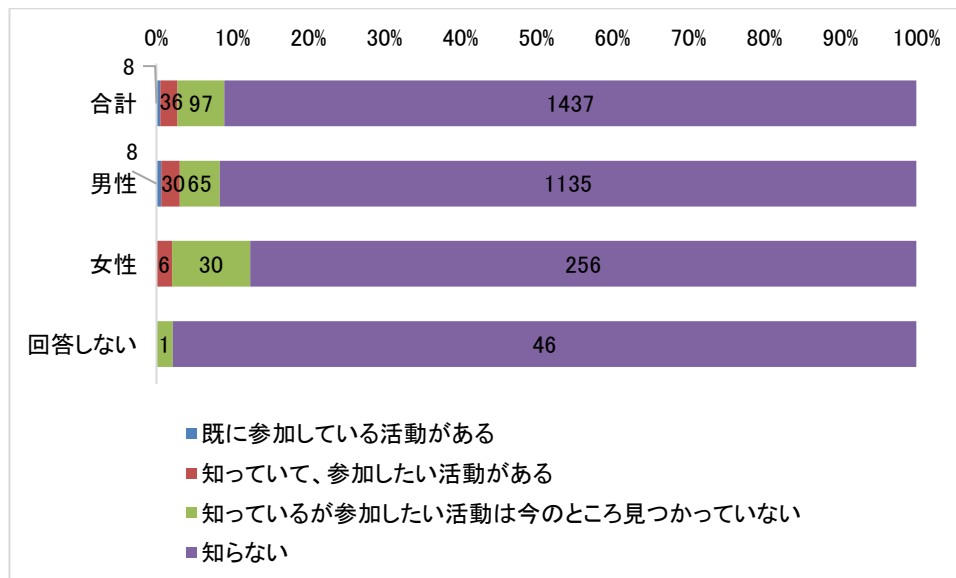


図 2-5.5 性別でみた設問番号 13 の回答

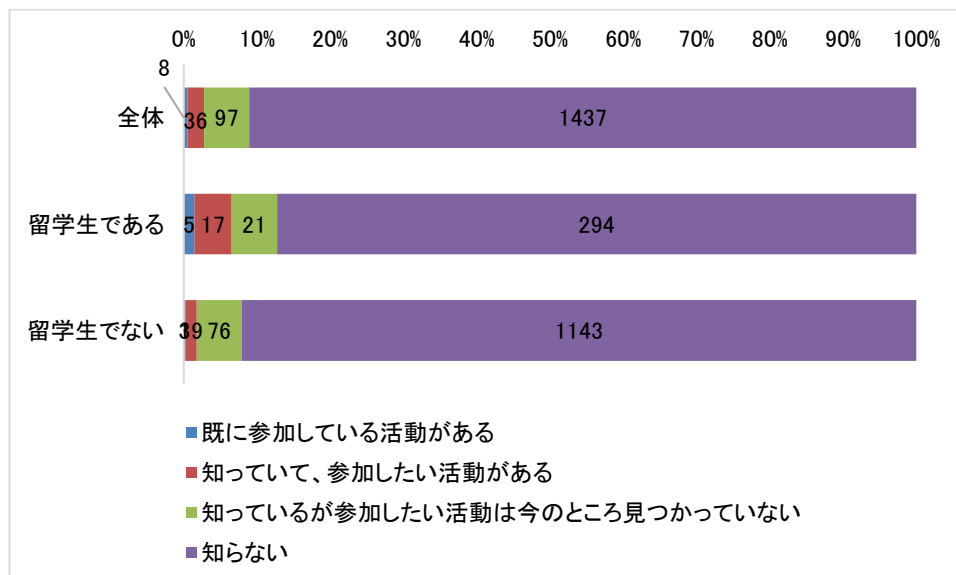


図 2-5.6 留学生である人とそうでない人における設問番号 13 の回答

この他にも、所属課程別(図 2-5.3)・所属学院別(図 2-5.4)・性別(男性・女性・回答しない)区分(図 2-5.5)・留学生(留学生か否か)区分(図 2-5.6)の分析を行いました。女性の方が「知っているが参加したい活動は今のところ見つかっていない」の回答割合が比較的多いことがわかりました。また、留学生の方が「既に参加している活動がある」、「知っていて、参加したい活動がある」、「知っているが参加したい活動は今のところ見つかっていない」の 3 つの選択肢全てにおいて留学生でない人よりも回答割合が多いことなどがやや見受けられました。しかし、区分によって結果に大きな違いは見られず、どの場合においても「知らない」と回答した人数が、8 割から 9 割を占めました。

まとめ

現状では、東京医科歯科大学で行われている部活・サークル・学生団体の活動認知度が、大学全体で非常に低いことがわかりました。「知らない」と回答した学生は、どの区分の分析結果でも 8 から 9 割でした。新大学の目指す姿¹を実現

¹ 新大学の目指す姿

1. 両大学の尖った研究をさらに推進
2. 部局等を超えて連携協働し「コンバージェンス・サイエンス」を展開
3. 総合知に基づき未来を切り拓く高度専門人材を輩出

するにあたり、統合後の活発な交流、すなわち、大学間の学生同士の交流も 1 つ大きな鍵となるであろうと考えます。東京医科歯科大学の既存の学生団体への認知度の向上は、学生同士の交流を促進する上で重要な課題であると思われます。

部活やサークルなどは、両大学で同じ活動を行っている団体も多いことから、統合後にそれらの団体が合同で活動するか合併するかといった議論を、各活動団体の考えを尊重したうえで大学側がサポートしていくことを希望します。

4. イノベーションを生み出す多様性、包摂性、公平性を持つ文化

国立大学法人東京工業大学と国立大学法人東京医科歯科大学の統合に向けた基本合意書を締結:
<https://www.titech.ac.jp/news/2022/065089> (最終閲覧日: 2023 年 6 月 25 日)

現状分析

設問番号 14 は「統合によって学士課程入試の受験倍率は現在の東京工業大学と比べてどうなと思いますか」という設問です。「高くなる」「少し高くなる」「あまり変わらない」「少し低くなる」「低くなる」の 5 段階で、非選択を除き、1571 件の回答をいただきました。

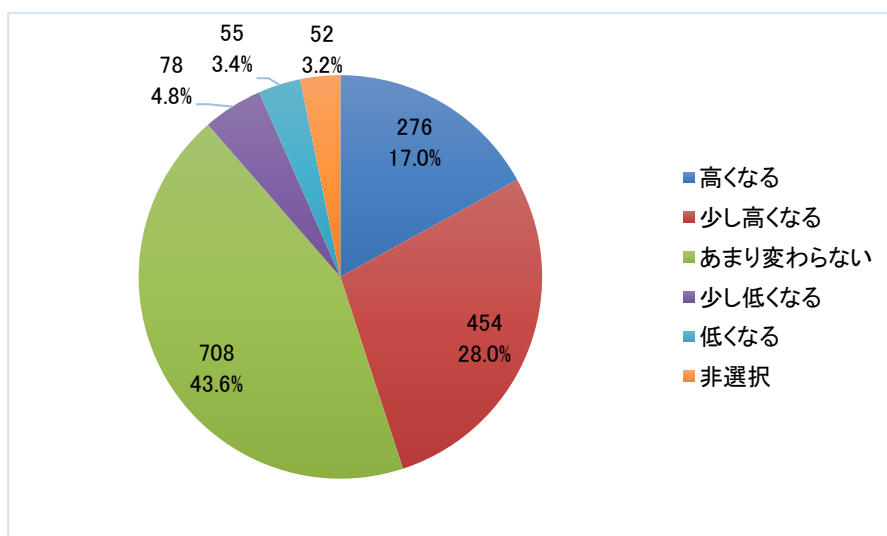


図 2-6.1 統合によって学士課程入試の受験倍率は現在の東京工業大学と比べて
どうなと思いますか

図 2-6.1 は設問番号 14 の回答割合です。「高くなる」「少し高くなる」と回答した人は全体の約 45%、「あまり変わらない」と回答した人は全体の約 44%、「低くなる」「少し低くなる」と回答した人は全体の約 8.2%という結果となり、ほとんどの多くの学生は、統合による学士課程入試に与える影響についてネガティブな印象を持っていないのではないかと思います。

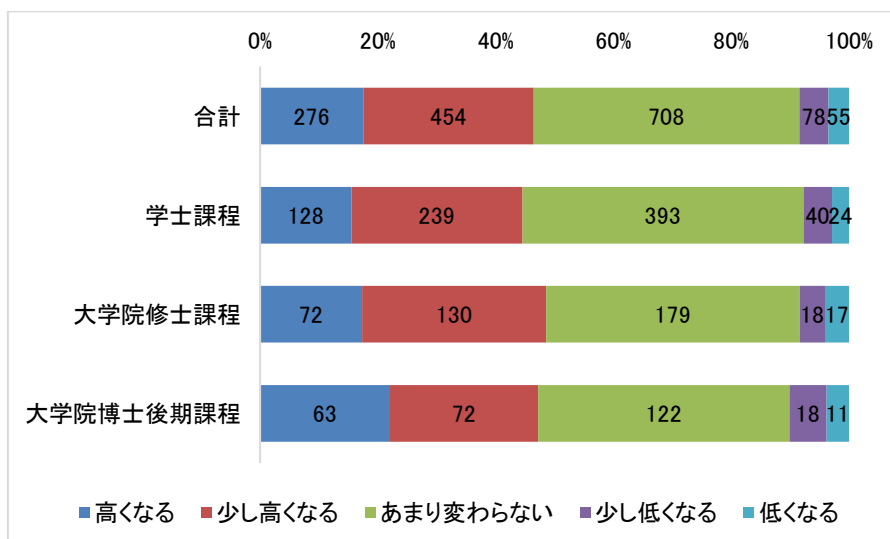


図 2-6.2 所属課程別でみた設問番号 14 の回答

図 2-6.2 は所属課程別でみた設問番号 14 の回答です。課程ごとの大きな差はほとんどありませんでしたが、「高くなる」と答えた大学院博士後期課程の割合が他の課程よりも若干多いことがわかりました。

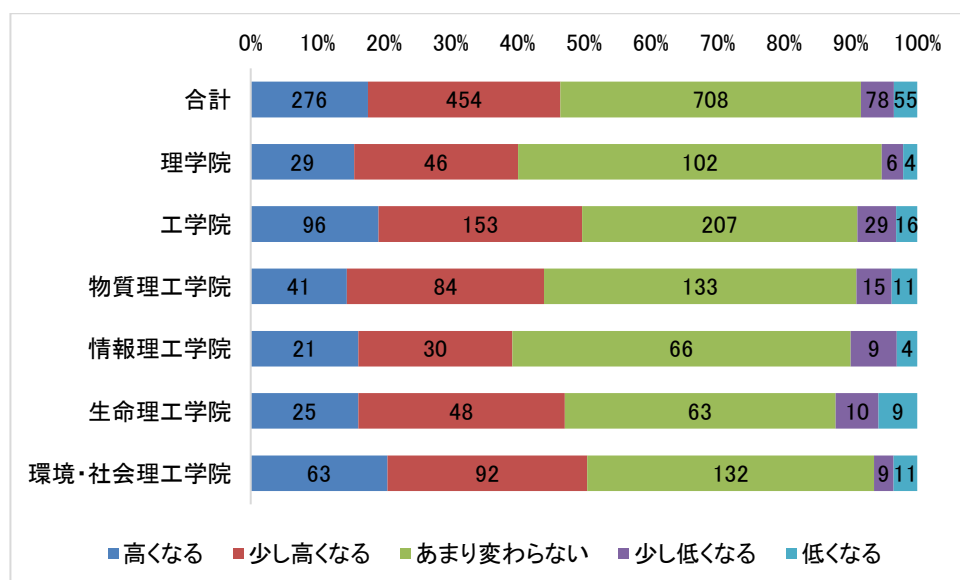


図 2-6.3 所属学院別でみた設問番号 14 の回答

図 2-6.3 は学院別でみた設問番号 14 の回答です。学院別では、課程別よりも大きな差が見られ、「高くなる」「少し高くなる」と回答した人の割合は多い方から環境・社会理工学院、工学院、生命理工学院、物質理工学院、理学院、情報理工學院の順となりました。

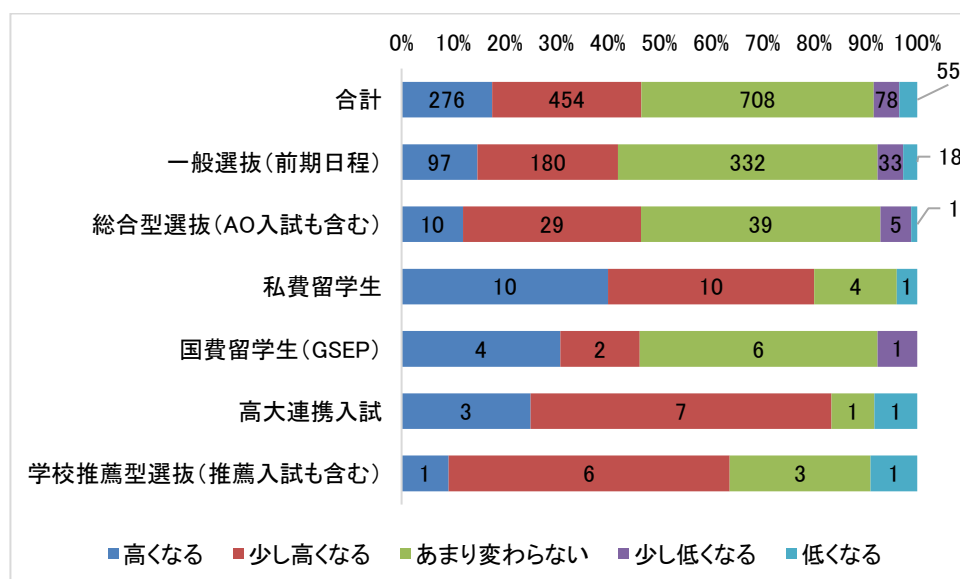


図 2-6.4 受験方式別でみた設問番号 14 の回答

図 2-6.4 は 10 人以上が回答した、回答者の入学時の受験方式について、設問番号 14 の回答をまとめたものです。一般選抜(前期日程)以外は回答数が少ないですが、一般選抜(前期日程)に比べて、他の受験方式で入学した学生の方が受験倍率は「高くなる」「少し高くなる」と答えた割合が多いことがわかりました。

まとめ

「統合によって学士課程入試の受験倍率は現在の東京工業大学と比べてどうなると思いますか」という設問で、「低くなる」「少し低くなる」と回答した人は全体の約 8.2%と少数であることがわかりました。女子枠の導入という大きな入試制度改革に関する公式発表はありますが、東京医科歯科大学との統合による入試制度の変更に関する公式発表は無いため、入試倍率への影響に対してネガティブな印象を持っていないのではないかと考えます。

現状分析

設問番号 15 は「統合によって世界大学ランキングは現在の東京工業大学と比べてどうなると思いますか」という設問です。「上がる」「少し上がる」「あまり変わらない」「少し下がる」「下がる」の 5 段階で、非選択を除き、1579 件の回答をいただきました。

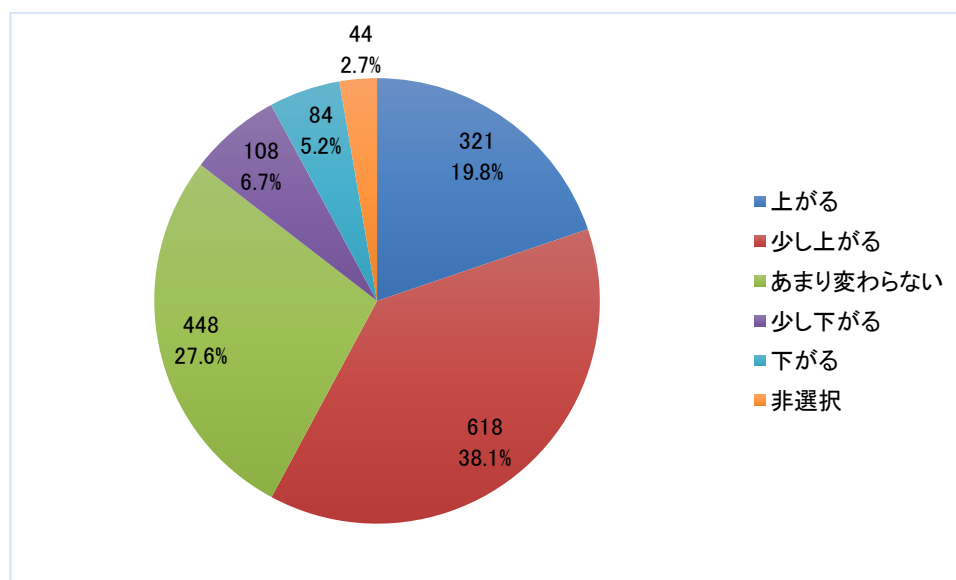


図 2-7.1 統合によって世界大学ランキングは現在の東京工業大学と比べてどうなると思いますか

図 2-7.1 は設問番号 15 についての回答割合です。「上がる」「少し上がる」と回答した人は約 58%となり、半数以上の学生が統合によって世界大学ランキングが現在より上がると考えていることがわかりました。

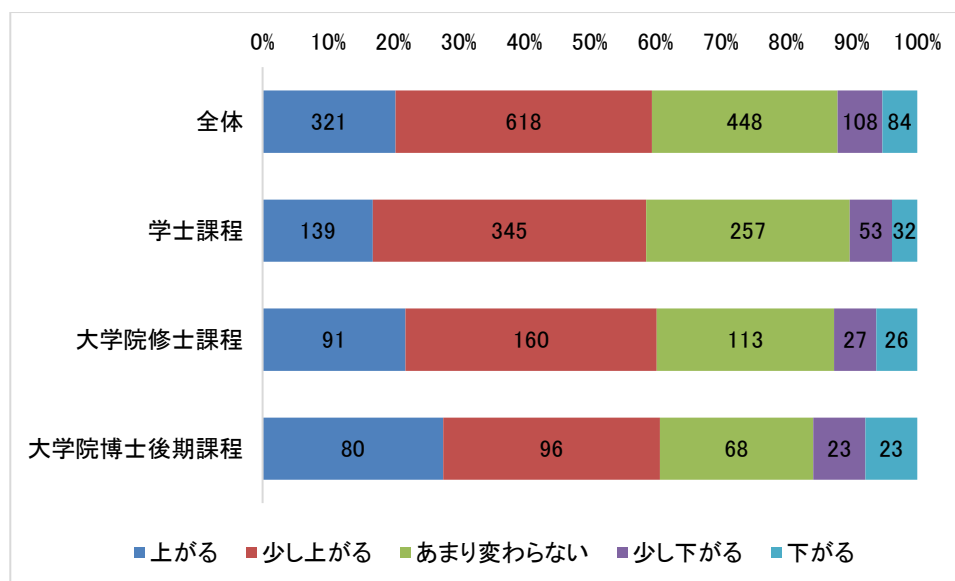


図 2-7.2 所属課程別でみた設問番号 15 の回答

図 2-7.2 は、所属課程別でみた設問番号 15 の回答割合です。課程別の分析では、「上がる」「下がる」と回答した人が学士課程、大学院修士課程、大学院博士後期課程の順に多くなっていることがわかりました。

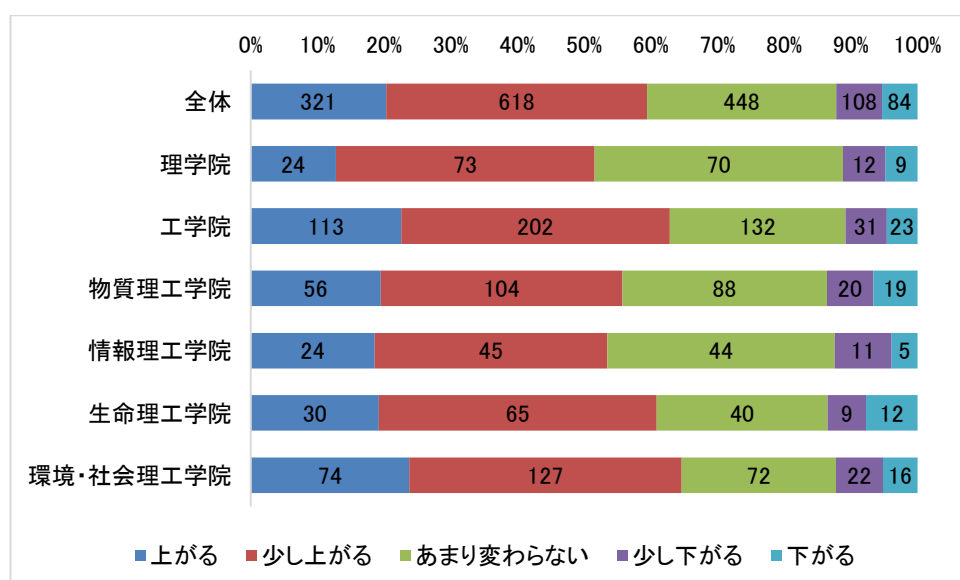


図 2-7.3 所属学院別でみた設問番号 15 の回答

図 2-7.3 は、所属学院別でみた設問番号 15 の回答割合です。図 2-7.2 の課程別での回答割合と比べ、学院別での回答割合の差異は大きいことがわかります。「上がる」「少し上がる」と回答した割合の合計は多い方から環境・社会理工学院、工学院、生命理工学院、物質理工学院、情報理工学院、理学院という順になり、最も多い環境・社会理工学院と最も低い理学院との差は、およそ 10%となりました。

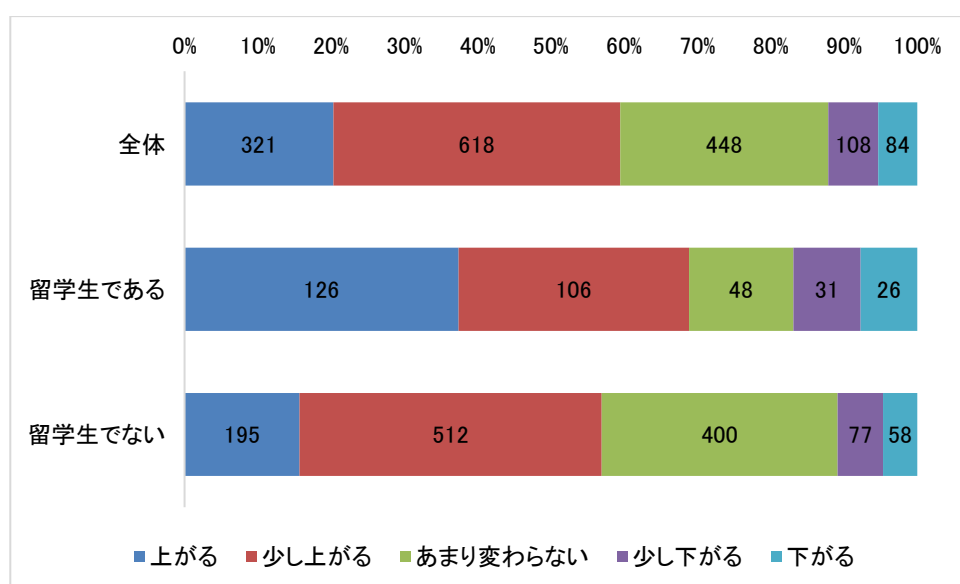


図 2-7.4 留学生とそうでない人の設問番号 15 の回答

図 2-7.4 は設問 15 における留学生とそうでない人を比較した回答割合のグラフです。「上がる」と回答した留学生の割合は、その他の学生と比べ 2 倍近く大きい結果となり、グローバルレベルでの新大学の地位向上が向上するだろうという期待感が高いことがわかります。また、「あまり変わらない」と回答した学生が少なく、留学生の方が世界大学ランキングへの関心が強いのではないかと考えられます。

まとめ

現状では、全体分析した場合も、所属課程や所属学院といった区分で分析した場合でも、比較的多くの学生が統合によって世界大学ランキングが現在の東京工業大学より上がると回答しています。どの区分の分析結果でも、「上がる」「少し上がる」と回答する学生の合計は 60%前後、「少し下がる」「下がる」と回答する学生の合計は 10%から 20%前後でした。新大学のグローバルな地位の向上への期待感が、学生全体で高いと見てとれます。

中でも、留学生という区分においては、あまり変わらないと答えた人の合計割合は非常に少なく、かつ、平均よりも「上がる」「少し上がる」と答えた人の合計割合が高いです。新大学の地位が、グローバルなレベルで向上することへの、留学生の関心の高さ・期待感の高さが伺えます。

世界的に有名な世界大学ランキングの一つに QS 世界大学ランキングが挙げられます。QS 世界大学ランキング 2024¹では、東京工業大学は前年の 55 位から 36 位下げて 91 位になりました。今までの評価軸の Academic reputation(学術的評判)、Employer Reputation(雇用者の評判)、Faculty/student ratio(教員/学生の比率)、Citations per faculty(教員一人当たりの被引用数)、International student ratio & International faculty ratio(留学生比率と外国人教員比率)に加えて、今回から新たに Sustainability(持続可能性)、Employment Outcomes(雇用の結果)、International Research Network(国際研究ネットワーク)²の 3 つが追加され、その 3 つの数値が低かったため順位が下がったのではないかと考えます。東京医科歯科大学に関しては、392 位から 611-620 位へ下落しており、両大学にとって QS 世界大学ランキングが下がったことは課題となりますが、学生は統合により世界大学ランキングの順位が上がることを期待しているため、これからの大学の取り組みに期待します。

¹ QS World University Rankings 2024: Top global universities:

<https://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2024>

(最終閲覧日:2023 年 6 月 29 日)

² QS World University Rankings methodology:Using rankings to start your university search :

<https://www.topuniversities.com/qs-world-university-rankings/methodology> (最終閲覧日:2023 年 6 月 29 日)

現状分析

設問番号 16 は「統合はあなた自身の就職活動に良い影響を与えますか」という設問です。「非常にそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「全くそう思わない」の 5 段階で、非選択を除き、1581 件の回答をいただきました。

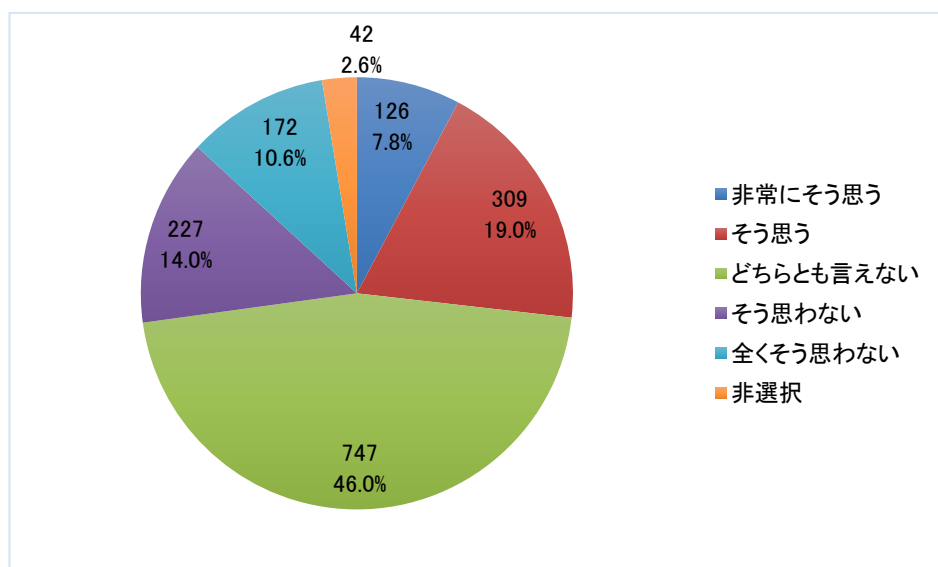


図 2-8.1 統合はあなた自身の就職活動に良い影響を与えますか

図 2-8.1 は設問番号 16 についての回答割合です。「どちらとも言えない」と回答した学生は約 46%、「非常にそう思う」「そう思う」は約 27%、「全くそう思わない」「そう思わない」は約 25%という結果になりました。「どちらとも言えない」の回答割合が約半数を占めていることから、多くの学生が統合による就活への影響に対して明確な予測が難しかったのではないかと考えられます。

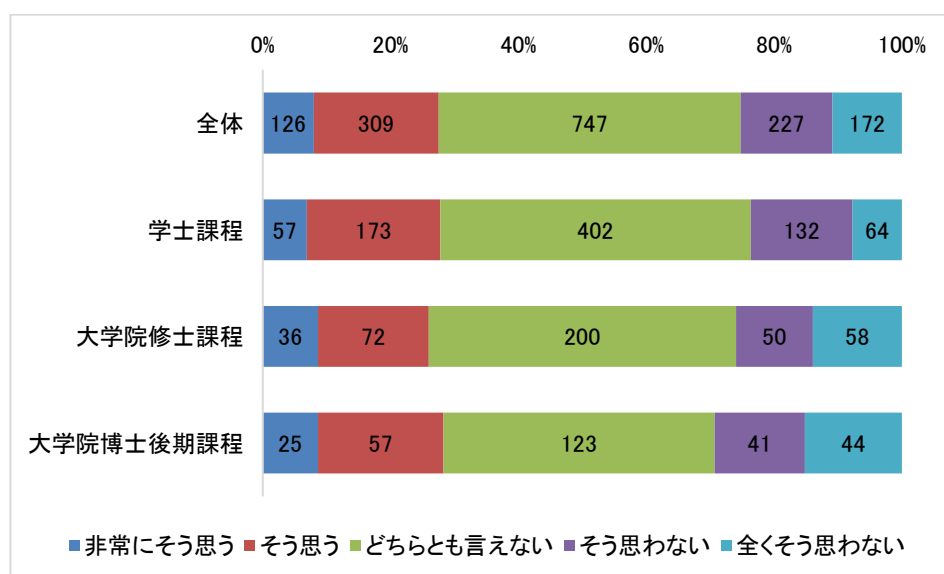


図 2-8.2 所属課程別でみた設問番号 16 の回答

図 2-8.2 は所属課程別でみた設問番号 16 の回答です。「非常にそう思う」「そう思う」の肯定的な意見に差異はないですが、「全くそう思わない」「そう思わない」という否定的な意見は、学士課程、大学院修士課程、大学院博士後期課程と課程が上がるにつれて増えていることがわかります。

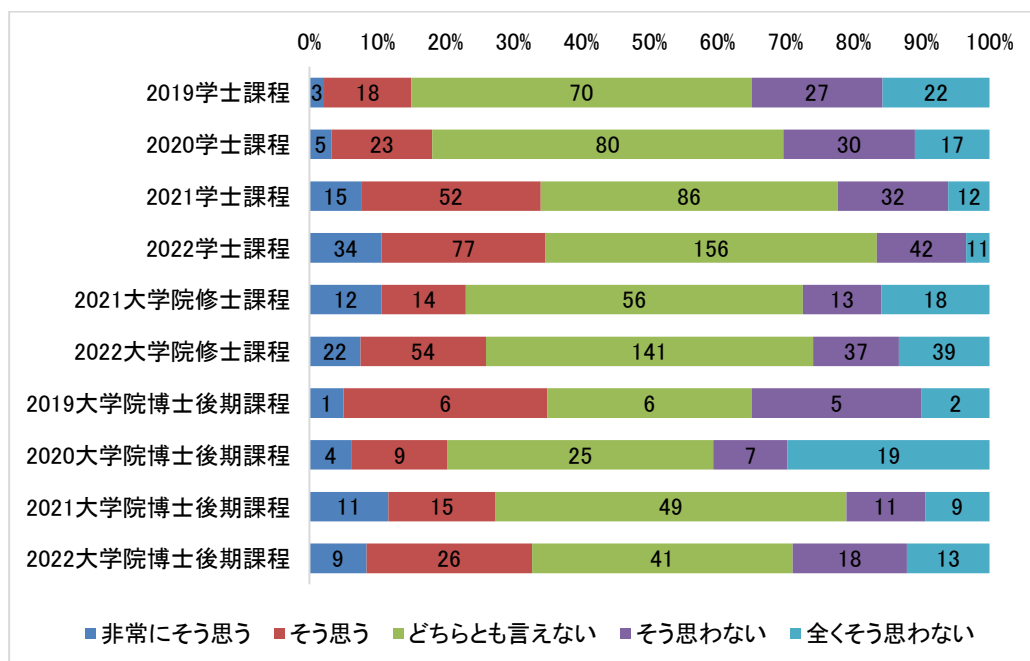


図 2-8.3 所属課程の入学年度別でみた設問番号 16 の回答

図 2-8.3 はさらに所属課程の入学年度で細分化したグラフです。

学士課程では、「非常にそう思う」「そう思う」の回答割合が 2022 年度入学(アンケート実施当時学士課程 1 年中心)から 2019 年度入学(アンケート実施当時学士課程 4 年中心)にかけて少なくなっています。また、「全くそう思わない」「そう思わない」では 2022 年度入学から 2019 年度入学にかけて回答割合が多くなっています。特に 2020 年度入学、2021 年度入学と 2020 年度入学、2019 年度入学とで回答割合に大きな変化があります。

大学院修士課程では軽微であります、2022 年度入学より 2021 年度入学の方が、「非常にそう思う」「そう思う」の回答割合が少なく、「全くそう思わない」「そう思わない」の回答割合が多くなる学士課程と同様の傾向が見られます。

大学院博士後期課程の標準修業年限内の 2022 年度入学(アンケート実施当時博士後期課程 1 年中心)から 2020 年度入学(アンケート実施当時博士後期課程 3 年中心)においても、学士課程、大学院修士課程の特徴とほぼ同一の傾向が見受けられます。また、特徴的な点として 2020 年度入学の大学院博士後期課程の「全くそう思わない」の回答割合が最も高いことが挙げられます。

図 2-8.3 から、どの課程においても、学年が上がるごとに「非常にそう思う」「そう思う」という肯定的な回答者が減っている、すなわち就活の時期が近づくほどに、統合が与える就活への影響を危惧する割合が増えていることがわかりました。

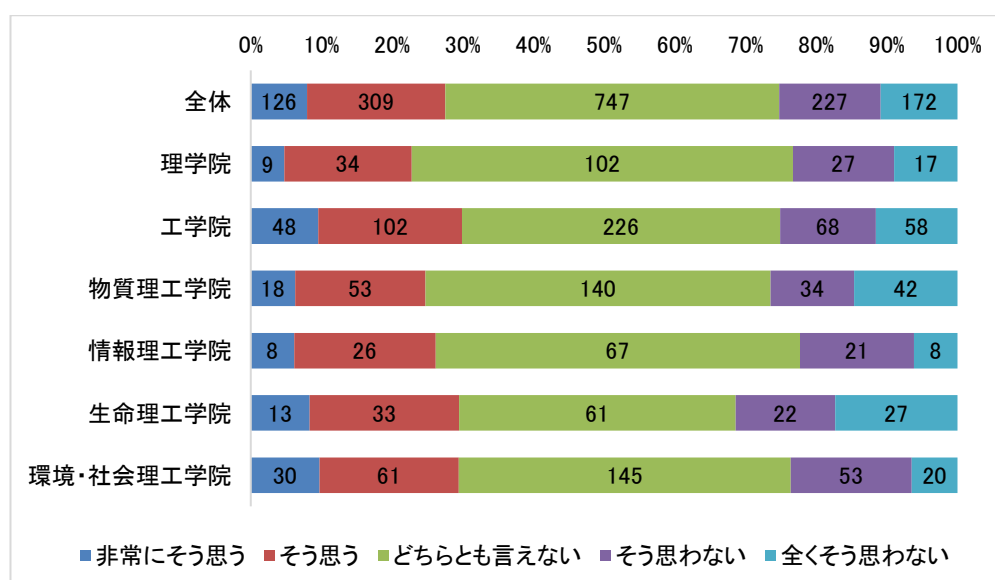


図 2-8.4 所属学院別でみた設問番号 16 の回答

図 2-8.4 は所属学院別でみた設問番号 16 の回答です。特徴的な点として、生命理工学院は、「非常にそう思う」「そう思う」の回答割合は他と大きな差異はないものの、「全くそう思わない」[「そう思わない」]と回答した割合が他と比べて大きいことがわかりました。また、情報理工学院、環境・社会理工学院は、「全くそう思わない」の回答割合が他と比べて小さいことがわかりました。

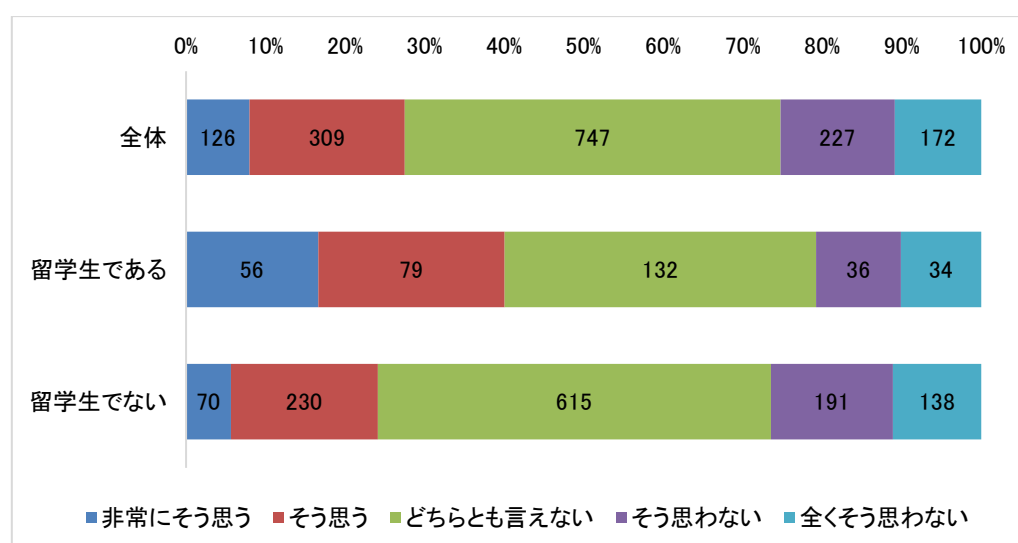


図 2-8.5 留学生と留学生でない人の回答の比較

留学生は、留学生でない人と比べて「非常にそう思う」「そう思う」の肯定的意見が多く、「全くそう思わない」「そう思わない」の否定的意見が少ない結果となりました。留学生は、統合により就職活動が良い影響を与えていると考えている人が多いことがわかりました。

まとめ

統合によって就職活動に良い影響を与えるかという設問において、入学年度や所属学院によって多少の差はあるものの、全体の約半数(46%)の学生は「どちらとも言えない」と回答し、統合による就職活動への影響について予測するのが難しかったことがわかりました。一方で留学生は、統合によって就職活動に良い影響を与えていると考えている人が多いことがわかりました。統合により知名度が下がることによる就職活動への危惧を懸念する声もあるため、大学側は学生が安心して就職活動に取り組めるように適切なサポートを提供する必要があると考えます。知名度に関する内容は、詳しくは意見まとめ 2-18「統合について、意見があれば自由に記入してください」をご覧ください。

統合後の新大学が学外に対して積極的にアピールすべきだと感じるポイントを教えてください (複数選択可)

現状分析

設問番号 17 は「統合後の新大学が学外に対して積極的にアピールすべきだと感じるポイントを教えてください(複数選択可)」という設問です。「学修環境」「偏差値」「研究成果」「就職力」「立地」「その他」の 6 つの項目のうち、「その他」の選択肢は自由記述回答です。この設問全体へは 1623 件の回答をいただきました。

1. 数値分析

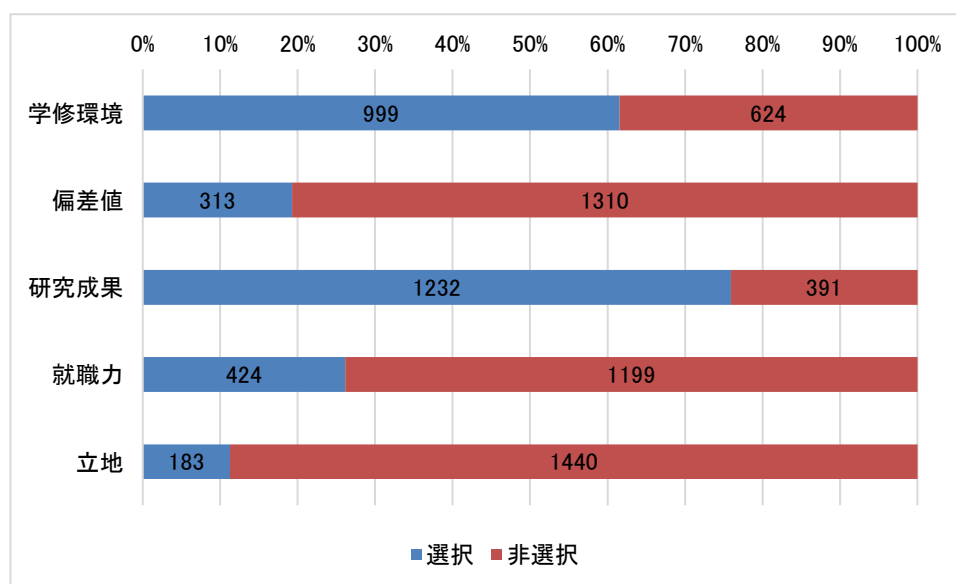


図 2-9.1 統合後の新大学が学外に対して積極的にアピールすべきだと感じるポイントを教えてください(複数選択可)の選択率

設問番号 17 の結果は図 2-9.1 のようになりました。学生が統合後に新大学にアピールすべきポイントとして挙げたものは選択率順に、研究成果、学修環境、就職力、偏差値、立地という順番になりました。

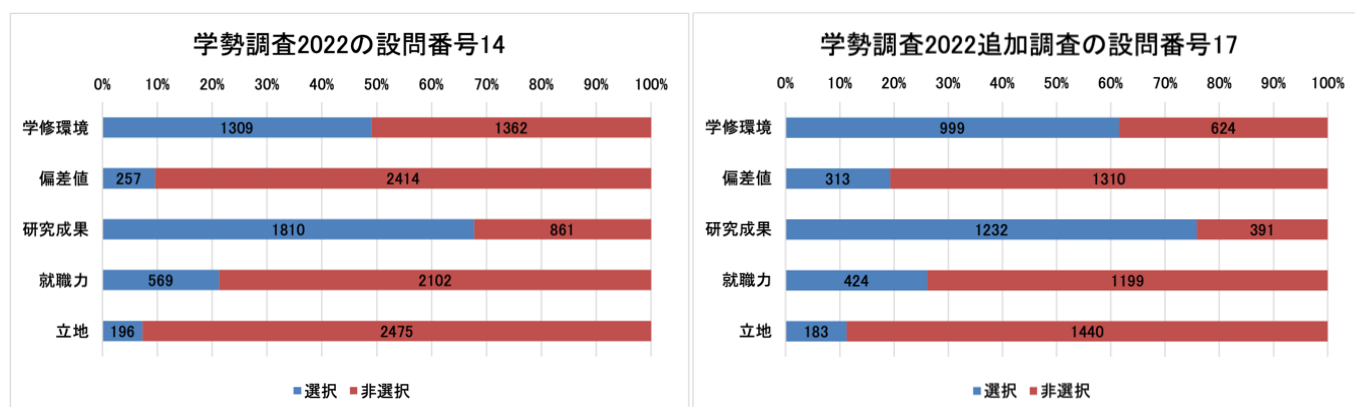


図 2-9.2(左図) 学勢調査 2022 本調査: 東工大が学外に対して積極的にアピールすべきだと感じるポイントを教えてください。(複数選択可)の選択率

図 2-9.3(右図)(図 2-9.1 再掲)追加調査: 統合後の新大学が学外に対して積極的にアピールすべきだと感じるポイントを教えてください(複数選択可)の選択率

学勢調査 2022 の本調査で「東工大が学外に対して積極的にアピールすべきだと感じるポイントを教えてください」という質問をしています。左図 2-9.2 と右図 2-9.3 は本調査と追加調査の結果比較を表したものです。追加調査ではどの項目も選択率が上がっていますが、特に「学修環境」の選択率が顕著に上がっていることがわかりました。東京医科歯科大学との統合により、学修環境の面からも医学系との連携によるメリットが期待されていることがわかりました。また、「学修環境」「偏差値」「研究成果」においては約 10%選択率が上昇しているのに対し、「就職力」「立地」に関しては約 5%の上昇にとどまっています。「就職力」に関しては、統合による知名度の低下を恐れている声もあるため、このような結果となったと考えます。

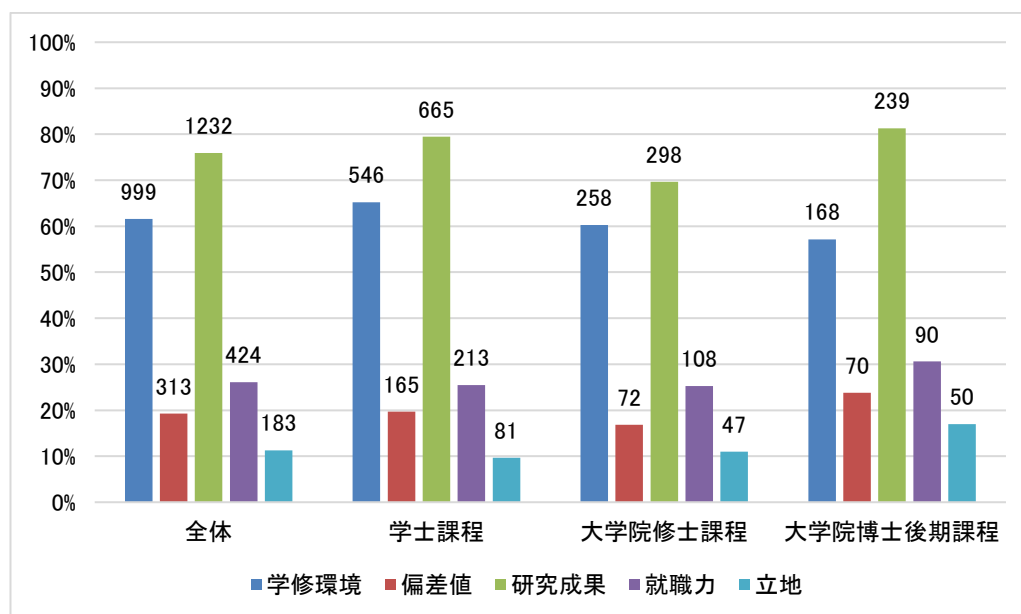


図 2-9.4 所属課程別でみた設問番号 17 の各項目の選択率

図 2-9.4 は所属課程別でみた各項目の選択率です。どの課程も全体で見た場合と同様の結果で「研究成果」を最も重要視していることがわかりました。「研究成果」において、大学院博士後期課程、学士課程、大学院修士課程の順で選択率が高い結果となりました。「学修環境」においては、学士課程、大学院修士課程、大学院博士後期課程の順で選択率が高い結果となり、項目により、所属課程による選択率の順序が違うことがわかりました。

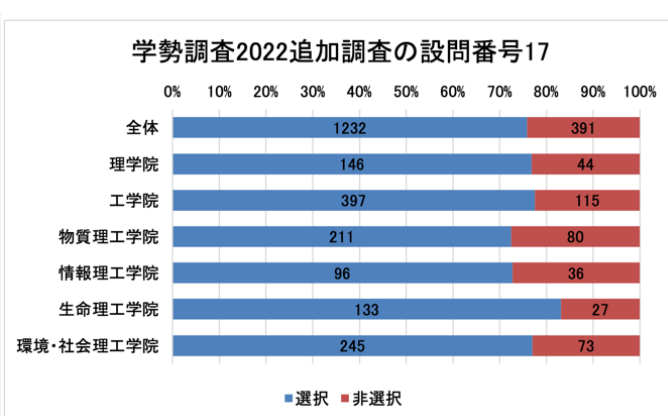
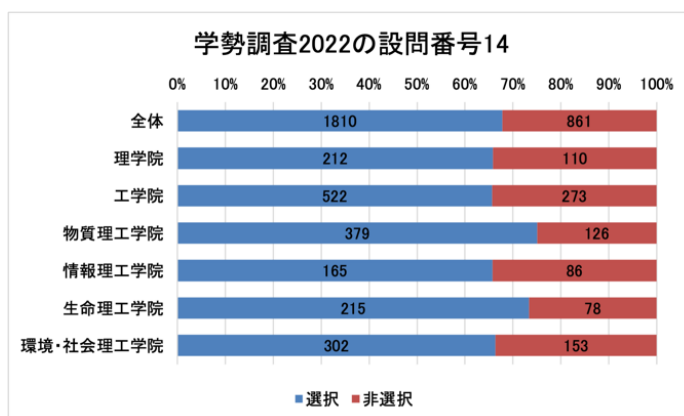


図 2-9.5(左図) 学勢調査 2022 本調査における所属学院別「研究成果」の選択率

図 2-9.6(右図) 学勢調査 2022 追加調査における所属学院別「研究成果」の選択率

右図 2-9.6 は、設問番号 17 における「研究成果」の選択率を所属学院別にまとめたものです。「研究成果」の選択率が最も高い学院は生命理工学院であり、東京医科歯科大学と研究分野が類似している部分があるため、多くの人が選択したのではないかと考えられます。また、左図 2-9.5 は学勢調査 2022 本調査における「研究成果」の選択率を所属学院別でまとめたものです。物質理工学院が最も選択率が高く、統合以前から「研究成果」をアピールすべきという意見が多いことがわかります。左図 2-9.5 と右図 2-9.6 と比較すると物質理工学院を除き、その他のすべての学院で 10%以上回答割合が上がっていることがわかりました。すなわち、全ての学院において統合後の新大学の研究成果をアピールすべきとする意見が多く、研究に対しての期待が大きいことが推測されます。

2. 自由記述

自由記述は、全部で 60 件回答いただきました。全体としては、研究力、研究環境、研究資金など研究に関連する記述がみられました。そのうち、設問番号 17 に関連する特に多かった意見は以下の通りです。

- 医工連携について

(同様意見 9 件)

自由記述部分で統合後の新大学のアピールポイントとして、東京医科歯科大学の医学分野と東京工業大学の理工学分野の連携をあげる学生がいました。

まとめ

設問番号 17 に関しては、回答者の約 76%が「研究成果」をアピールポイントとして選んでおり、また自由記述において医工連携に期待する声もあることから、新大学に対して研究成果を期待する人が多いことがわかりました。また、学勢調査 2022 本調査の同様の設問と比較して選択率が最も増加した項目は「学修環境」でした。研究成果とともに多くの学生が新大学の学修環境に期待していることがわかりました。

現状分析

設問番号 18 は「あなたは統合を楽しみにしていますか」という設問です。「非常にそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「全くそう思わない」まで 5 段階で統合に対する素朴な期待感を問う設問で、1230 件の回答をいただきました。回答割合を円グラフにした図 2-10.1 を見ると、「非常にそう思う」「そう思う」の合計が 45.8%、「そう思わない」「全くそう思わない」の合計が 20.3%という結果となっており、楽しみにしていないという意見が比較的少ないことが分かります。一方で「どちらとも言えない」を選択した学生が約 33.9%を占めており、回答者のおよそ 3 分の 1 が統合に対する期待感について判断を保留していることも伺えます。

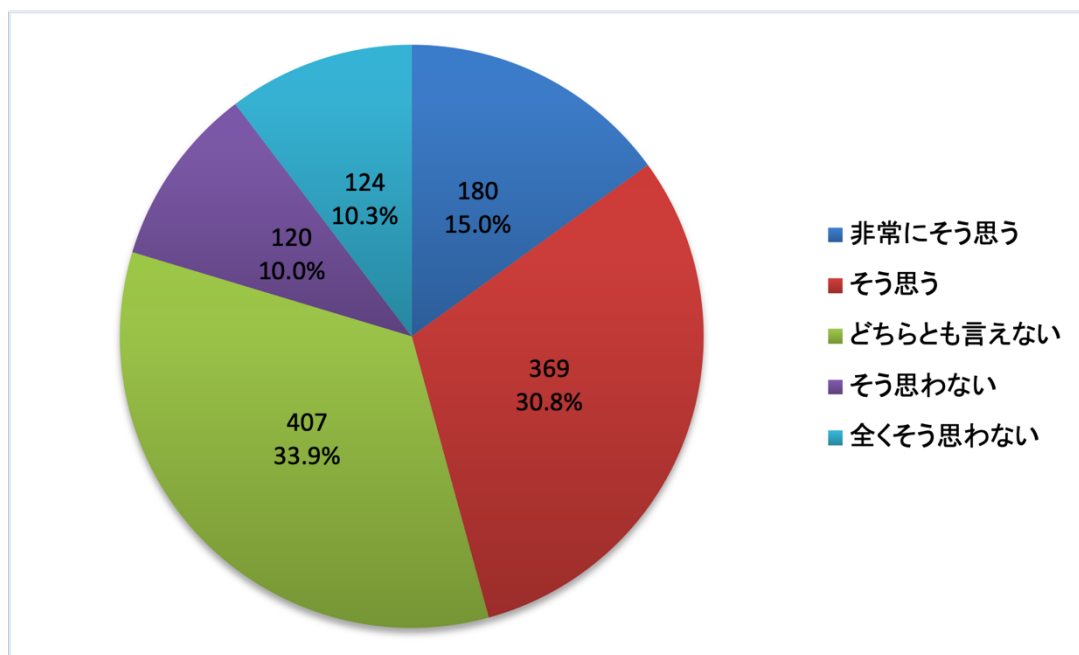


図 2-10.1 設問番号 18「あなたは統合を楽しみにしていますか」に対する選択肢ごとの回答割合

この設問の回答結果に関して、性別による回答の違い(図 2-10.2)および所属課程による回答の傾向(図 2-10.3)の分析を行いました。

図 2-10.2 からは、女性の方が男性よりも統合に対する期待感が薄いことが読み取れます。「非常にそう思う」「そう思う」と回答した割合が男性は 49.4%であるのに対し、女性は 33.0%にとどまっています。また、男性のうち 32.9%、女性のうち 38.1%がどちらとも言えないと回答しており、男女どちらも一定数判断を保留していることが分かります。このことから、回答全体では期待感を示す回答が最大多数である一方で、女性のみ注目するとどちらとも言えないと回答する人が最大多数であることがわかります。

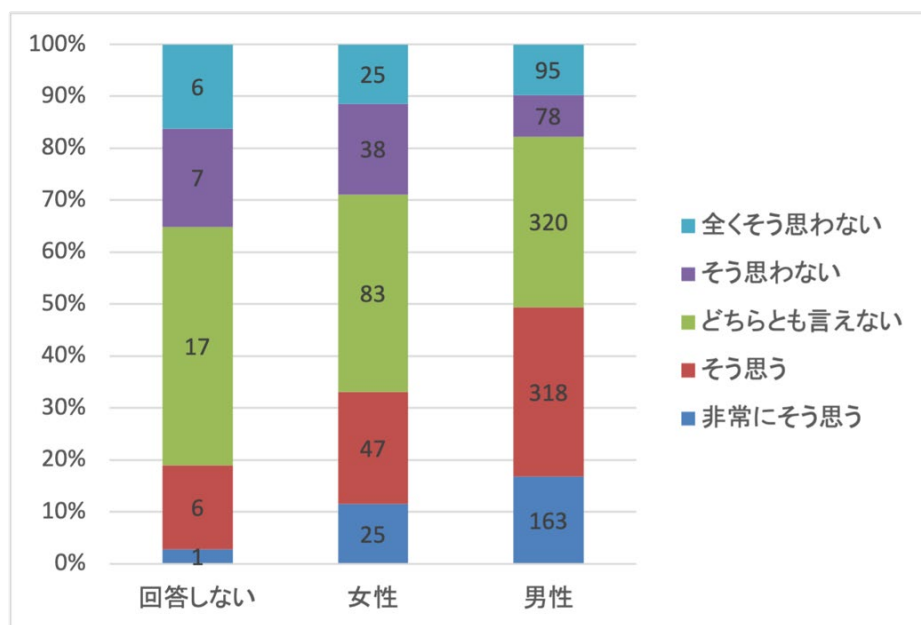


図 2-10.2 性別による回答の割合

一方、課程ごとの回答の割合を見てみると、肯定的な意見（そう思う、非常にそう思う）の割合について、学士課程、大学院修士課程、大学院博士後期課程の順に、肯定的な意見が減少するのに対し、否定的な意見（そう思わない、全くそう思わない）の割合はほとんど変化がないことが分かります。一方で、どちらとも言えない、すなわち判断を保留する回答者は、学士課程、大学院修士課程、大学院博士後期課程の順に増加していることが分かります。

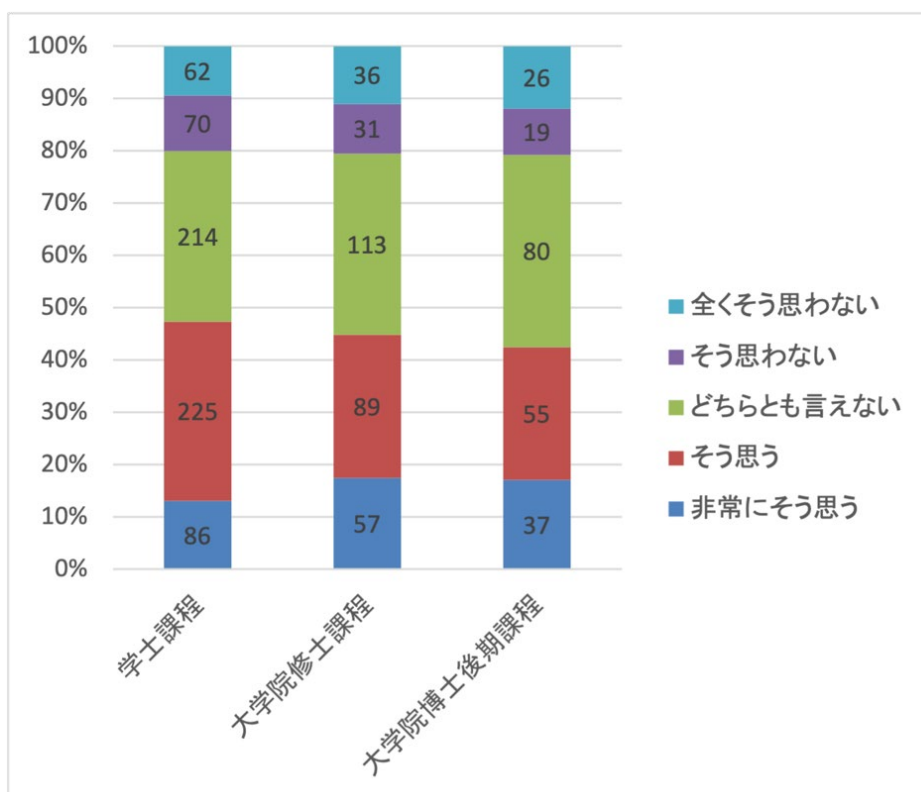


図 2-10.3 課程ごとの回答の割合

まとめ

東京工業大学と東京医科歯科大学の統合に関して、その期待感を調査したところ、全体としては肯定意見が多く、否定意見は肯定意見に比較して少ないことが分かりました。一方で判断を保留する回答も多く、統合に対しての関心が薄い、あるいは統合によってどのような変化が起こるかを回答段階であまり把握していない層が一定数存在することが推測されます。

また、性別や課程によって回答傾向の差が認められたことも興味深い結果であると思われます。具体的には、男性が統合に期待感を示す割合が高い一方で、女性は期待感を示す割合が男性に比べ 16.4%低く、どちらとも言えないと回答する割合が最大多数となることや、学士課程、大学院修士課程、大学院博士後期課程の順に期待感を示す割合が減少していくことなどが分かりました。

現状分析

設問番号 19 は「統合に対する周囲(東工大生以外、家族など)の反応は好意的だと思いますか」という設問です。「非常にそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「全くそう思わない」まで 5 段階で学生の周りの人の反応を調査しました。回答割合を円グラフにした図 2-11.1 を見ると、「非常にそう思う」「そう思う」の合計が 39.8%、「そう思わない」「全くそう思わない」の合計が 18.6% という結果となっており、周囲の反応は概ね好意的であることが伺えます。

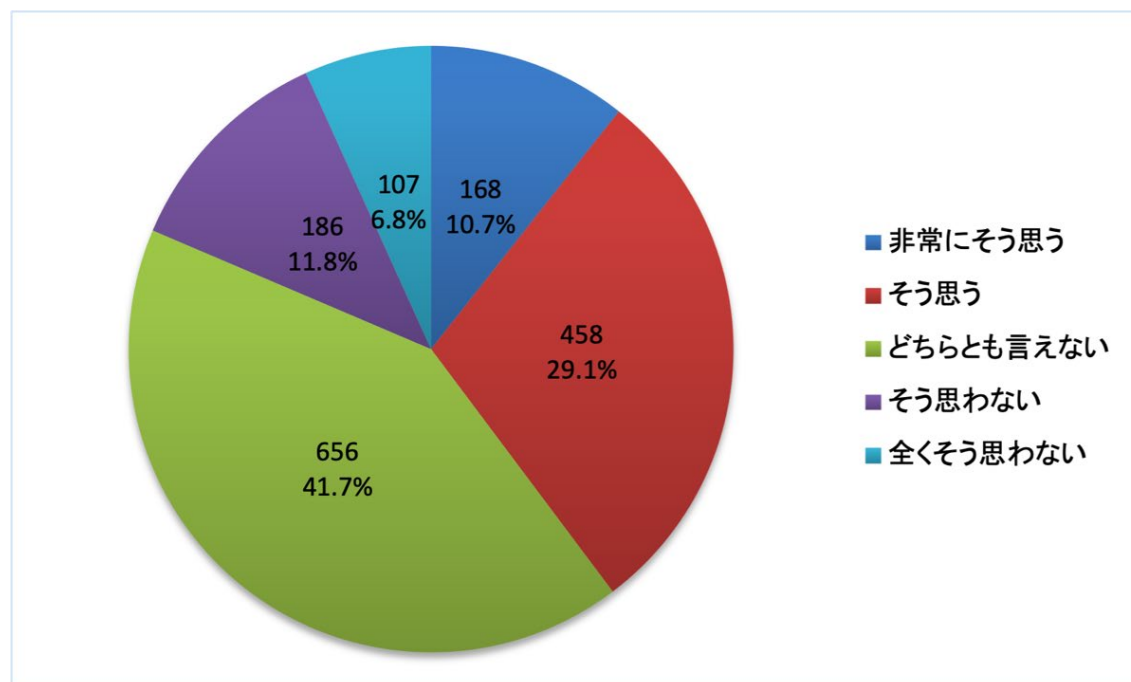


図 2-11.1 選択肢ごとの回答割合

本設問の回答を性別ごと、課程ごとにクロス集計を行なった図が以下の図 2-11.2 及び図 2-11.4 です。回答者の周囲の反応について聞いているため、回答者の属性による集計はそれほど直接的な意味を持ちませんが、興味深いことに設問番号 18「あなたは統合を楽しみにしていますか」の回答(図 2-11.3 及び図 2-11.5)と回答傾向が類似していることが分かります。

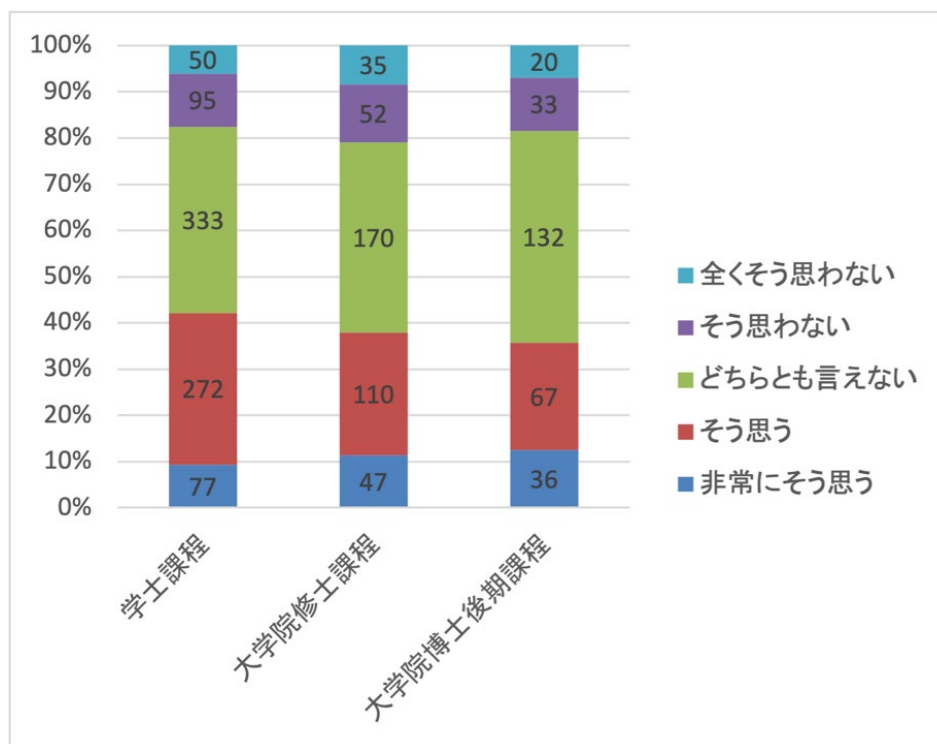


図 2-11.2 設問番号 19「統合に対する周囲(東工大生以外、家族など)の反応は好意的だと思いますか」への課程ごとの回答の割合

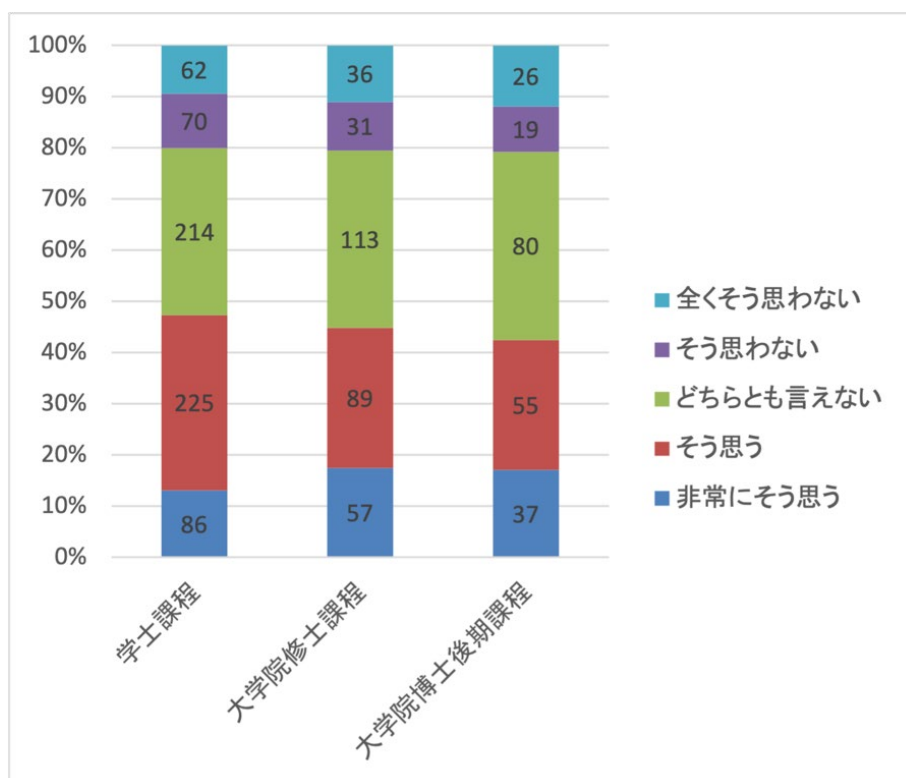


図 2-11.3 設問番号 18「あなたは統合を楽しみにしていますか」への課程ごとの回答の割合

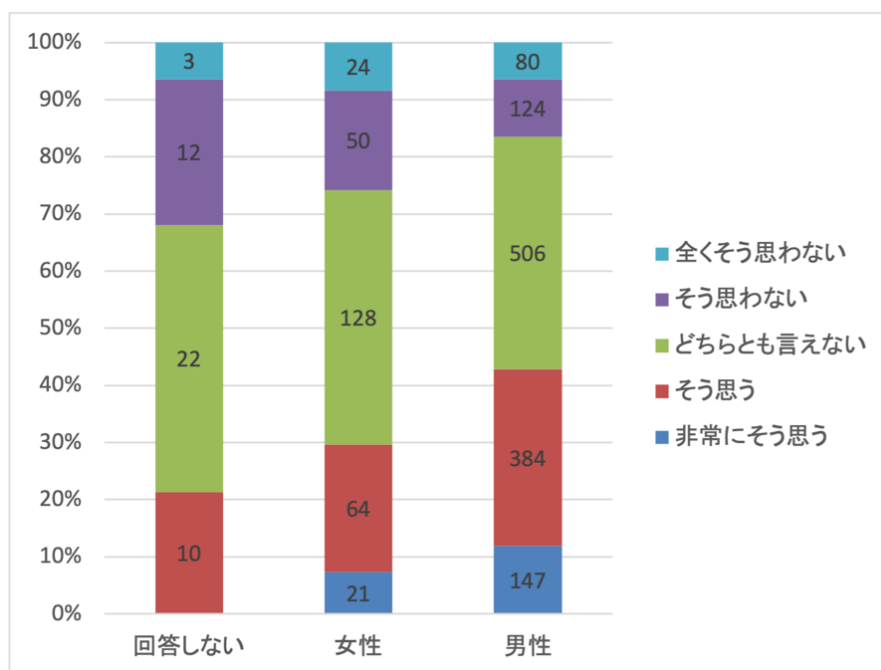


図 2-11.4 設問番号 19「統合に対する周囲（東工大生以外、家族など）の反応は好意的だと思いますか」への性別による回答の割合

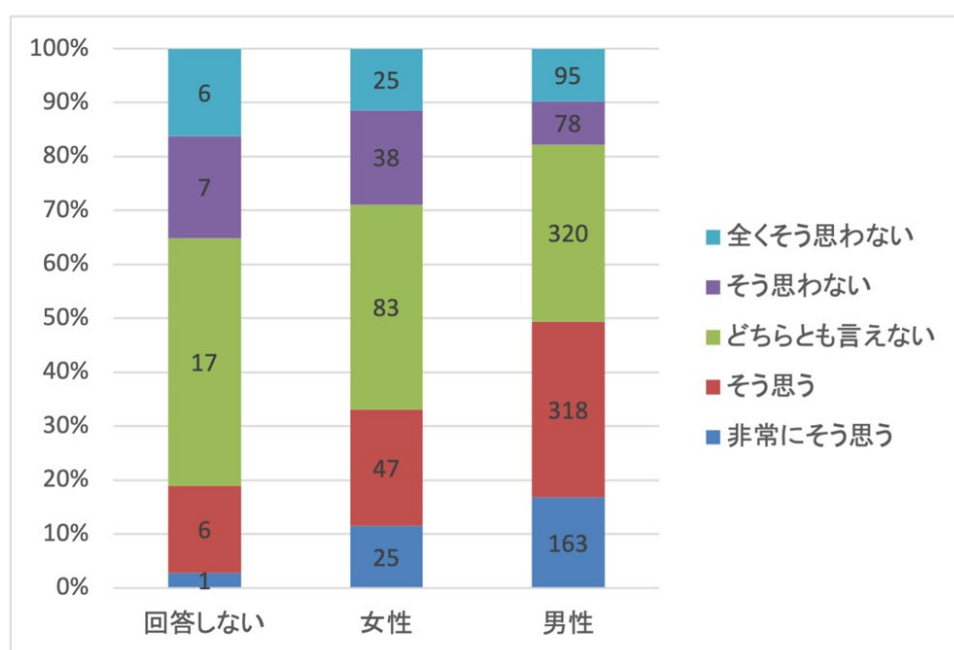


図 2-11.5 設問番号 18「あなたは統合を楽しみにしていますか」への性別による回答の割合

まとめ

東京工業大学と東京医科歯科大学の統合に関して、周囲の反応を調査したところ、全体としては好意的な反応が多く、否定な反応は肯定的な反応に比較して少ないことが分かりました。また設問番号 18「あなたは統合を楽しみにしていますか」と回答傾向の類似性が認められたことから、周囲の反応が回答者に影響を与えている、または回答者による周囲の反応の捉え方に対するバイアスがかかる、などの要因が存在していると推察されます。

現状分析

設問番号 20 は「あなたは東京工業大学という名称が変更されることについて受け入れていますか」という設問です。「受け入れている」「受け入れていない」「関心がない」の 3 択で統合後の名称についての意見を問う設問で、1623 件の回答をいただきました。回答割合を円グラフにした図 2-12.1 を見ると、「受け入れている」「受け入れていない」が共に回答の約 40%を占めており、名称変更に関しての受け止め方は大きく意見が二分していることが分かります。

なお、本調査は 2022 年 12 月 27 日から 2023 年 1 月 27 日にかけて行われており、調査期間中の 2023 年 1 月 19 日に新名称の発表があったため、その前後での調査結果であることをあらかじめご了承ください。

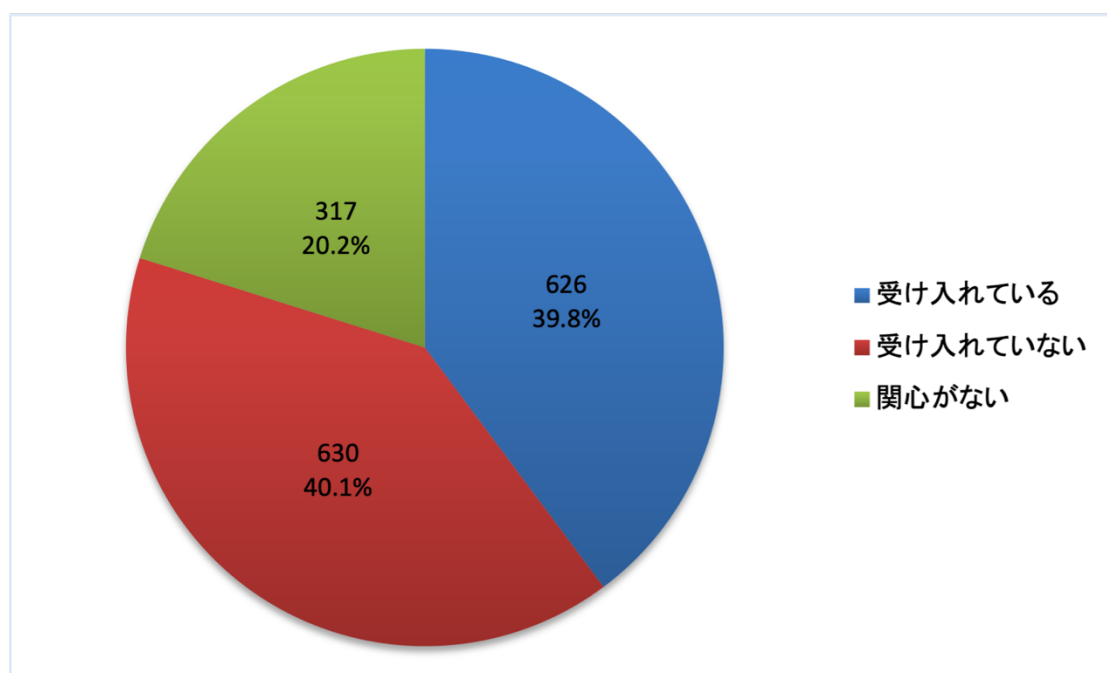


図 2-12.1 名称変更への受け入れ度合い

この設問の回答結果に関して、性別による回答の変化(図 2-12.2)および現在所属している課程への入学年度による回答の変化(図 2-12.3)の分析を行いました。図 2-12.2 からは、男性の方が名称変更に対して受け入れる割合が高く、女性の方が受け入れていない割合が高いことが分かります。

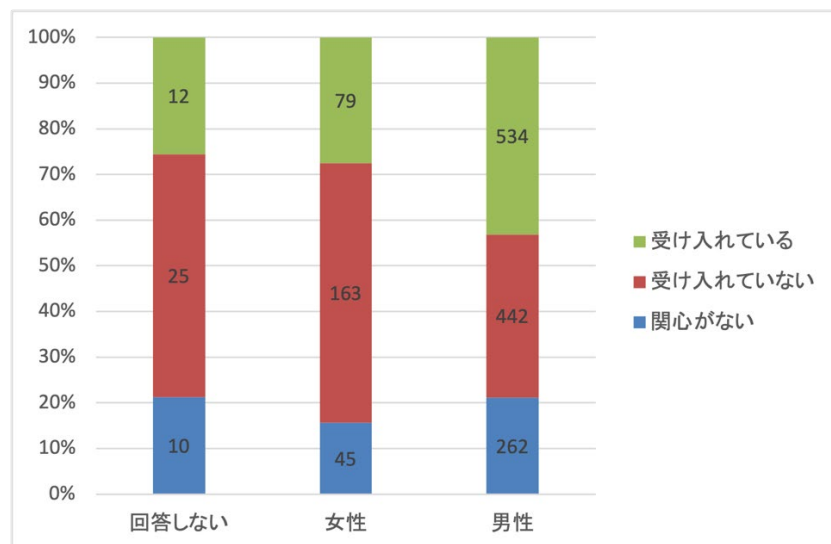


図 2-12.2 性別による回答の割合

一方、現在所属している課程への入学年度による分類を行ってみると、有意な差は見られないことが分かりました。入学からの時間経過によって名称に対する愛着が増加するなどの仮説を持って分析を行いましたが、そのような仮説は支持できませんでした。

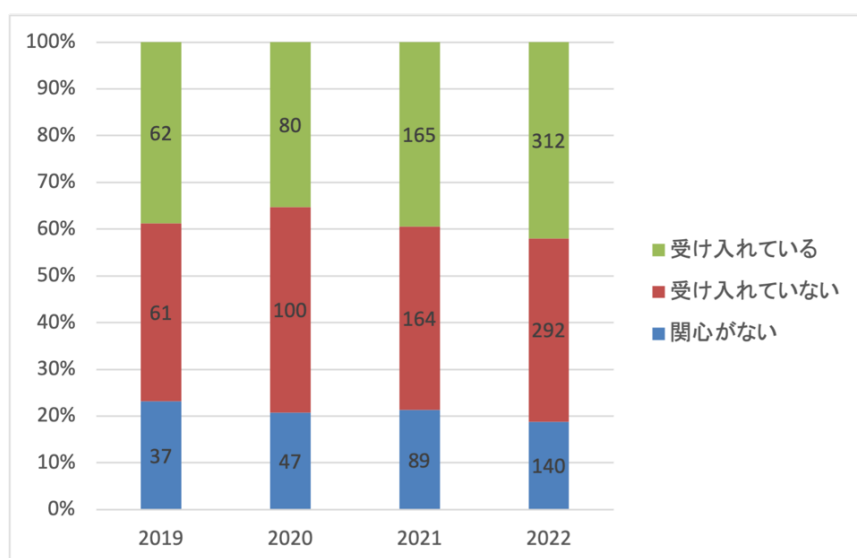


図 2-12.3 入学年度ごとの回答の割合

まとめ

東京工業大学と東京医科歯科大学の統合による名称変更について調査したところ、約 2 割の学生は名称に対して関心がないと回答しているものの、学生間で賛否がはっきりと分かれている(双方ともに全体の約 4 割)ことが分かります。

否定的な意見が 4 割存在しているということから、名称決定のフローや公募の扱い方などについて、より丁寧な説明を行なっていくことが、学生の理解の促進につながるのではないかと考えられます。具体的には、現在行われている説明(WG の設置、及び新名称の公募件数の公開¹⁾)のみならず、WG でどのように新名称の検討がなされたかの詳細や、公募によって集まった提案の内訳及びそれらをどのように参考にしたかなど、より詳しい説明が行われると良いのではないかと考えられます。

¹ 新大学名称を「東京科学大学(仮称)」として大学設置・学校法人審議会への提出を決定：
<https://www.titech.ac.jp/news/2023/065718> (最終閲覧日: 2023 年 6 月 26 日)

学生の意見

「現行の東工大の制度のうち、統合後も変えなくて欲しい制度は何かありますか、またそれはなぜですか」という設問に対する自由記述回答 521 件を、以下の表 2-13.1 にあるように区分分けをし、分類しました。各区分の回答数は下記の通りです。

表 2-13.1 「現行の東工大の制度のうち、統合後も変えなくて欲しい制度は何かありますか、またそれはなぜですか」に対する自由記述回答の区分分け

区分					学修カリキュラム			情報関連			
	名称 変更	学院制・ 系所属・ 研究室所属 制度	留学 制度	入 試	理工系 必修	教養 卒論	その他	学修 シス テム	ドメイン (m アドレス)	キャン パス	その他
回答数	37	135	43	97	8	3	59	92	9	84	74

名称変更

まず、名称自体を変えて欲しくないという意見が 37 件中 34 件ありました。追加調査は 2022 年 12 月 27 日から 2023 年 1 月 27 日にかけて行われ、その期間中である 2023 年 1 月 19 日に新大学の名称が「東京科学大学(仮称)」となることが発表されました¹。名称発表以前の回答は 28 件、名称発表後の回答は 9 件でした。名称発表以前の意見として、統合後の大学名に「工業」という言葉を残して欲しいという意見が 3 件ありました。また名称発表後の意見として、2022 年 11 月 25 日から同年 12 月 8 日まで行われた名称案公募²の結果を含めて、名称決定の流れを説明して欲しい、という意見がありました。

学院制・系所属・研究室所属制度

学士課程 1 年生から学士課程 2 年生になるタイミングで系所属をする現行のシステムを維持して欲しいという意見は 105 件ありました。この理由として、学士課程 1 年生のうちに幅広い理工系教養科目を学び、進路について考えることができる点(同様意見 5 件)と、所属学院により進路にある程度方向性を持たせつつ、専門となる系を決定できるという点(同様意見 8 件)が挙げられました。系所属後に、他系の講義を受講可能なシステムを維持して欲しいという意見は 3 件ありました。

研究室所属システムは現在、各系によって異なりますが、今のシステムを維持して欲しいという意見が 50 件ありました。所属学院ごとでは、理学院では 6 件、工学院では 20 件、物質理工学院では 9 件、情報理工学院では 4 件、生命理工学院では 3 件、環境・社会理工学院では 8 件でした。

¹ 東工大ニュース 新大学名称を「東京科学大学(仮称)」として大学設置・学校法人審議会への提出を決定
<https://www.titech.ac.jp/news/2023/065718> (最終閲覧日: 2023 年 6 月 14 日)

² 東工大ニュース 新大学の名称案をご提案ください <https://www.titech.ac.jp/news/2022/065365> (最終閲覧日: 2023 年 6 月 14 日)

留学制度

留学制度の維持を挙げた回答は 43 件ありました。留学制度のうち、グローバル理工人材育成コースの維持を求める意見は 2 件ありました。具体的なプログラムとしては、東京工業大学・清華大学大学院合同プログラムの維持を求める意見が 1 件ありました。このプログラムは、2004 年から開始された、大学院レベルでは日本初となるダブル・ディグリー・プログラムで、毎年、両大学から 10 人ずつが、両大学の学籍を有し、両大学で学修・研究を行い、両大学の修士の学位の取得を目指しています。¹

入試

入試システムのうち、学士課程の入試システムの維持を求める意見は 47 件ありました。具体的には、共通テストを第一段階選抜のみに用いる点や二次試験の数学の配点が高いという特徴を維持して欲しいという意見がありました。

修士課程入試システムの維持を望む意見は全 45 件ありました。特に、A 日程では出願書類と口述試験によって合格内定者を決定します²。この A 日程の維持を求める意見は 10 件ありました。大学院入試のために割く時間を減らし、より研究時間を増やすことができるからというものがありました。

理工系教養科目

学士課程 1 年生の理工系教養科目を残して欲しいという意見が 8 件ありました。具体的な意見として以下の意見がありました。

- 浅く広くでも、各理工系分野の基本知識を身につけさせることは、「理工系大学」を名乗る以上必要だと考える。
- 高度な理工系教育を提供することは、東工大のアイデンティティであり、存在意義であり、東工大を志した人間の多くが望んでいたものである。
- 初年次の幅の広い学修は、その後自身の教養を深めるにあたり重要だったと覚えていることがあったから

教養卒論

教養卒論の維持を求める意見が 2 件ありました。また、文系教養科目の選択必修を維持して欲しいという意見がありました。

その他(学修カリキュラム)

全学生に関わる制度への意見として、クォーター制の維持が 3 件ありました。2023 年現在、東京医科歯科大学は前学期と後学期の 2 学期制です³。クォーター制度により、あるクォーターは科目を多く履修し、それ以外のクォーターで、自習に取り組める時間を作ることができる点が理由にありました。

¹ 東京工業大学・清華大学大学院合同プログラム: <http://www.ipo.titech.ac.jp/tsinghua/> (最終閲覧日: 2023 年 6 月 9 日)

² 東京工業大学大学院修士課程 専門職学位課程 学生募集要項 <https://www.titech.ac.jp/admissions/pdf/2024-4-2023-9master.pdf> (最終閲覧日: 2023 年 6 月 9 日)

³ 国立大学法人 東京医科歯科大学 規則集第 1 編 学則等 東京医科歯科大学学則 <https://www.tmd.ac.jp/cmn/rules/houki/1hen/101gakusoku.pdf> (最終閲覧日 2023 年 6 月 9 日)

学修システム

T2SCHOLA の維持を求める意見が 70 件ありました。学修支援システムが変わることにより、在学生や教員が混乱する可能性があることが理由でした。東京工業大学では、Moodle を基盤とした学修支援システムである T2SCHOLA を利用しています¹。一方、東京医科歯科大学では、学修支援システムとして WebClass を利用しています²。四大学連合複合領域コースを利用し、両方のシステムを利用した方から、WebClass の方が使いにくかったという感想が 1 件ありました。他に OCW の存続を求める意見、TSUBAME 計算サービスの維持を求める意見がそれぞれ 1 件ずつありました。

ドメイン(m アドレス)

m アドレスを挙げた 9 件のうち、m アドレスの存続を求める理由として、CAD などのソフトウェアで登録を行っているため、変更しないで欲しいという意見が 1 件ありました。

キャンパス

キャンパスについては、講義室を現状の大岡山キャンパス中心のまま変えないで欲しいという意見が 14 件ありました。また、施設面では、ものづくりセンターの存続(2 件)、バリアフリー支援室、電話相談デスク、図書館(各 1 件)を存続して欲しいという意見がありました。

その他

本設問の回答における区分分けでその他となった項目について箇条書き形式でまとめました。

- どの制度も変えて欲しくない。(同様意見 20 件)
- ユニット制度の維持。興味・関心が異なる人と交流を持つことのできる良い機会になるから。(同様意見 15 件)
- 奨学金、授業料免除制度の継続(同様意見 7 件)
- 卓越教育院の維持(同様意見 7 件)
- 部活動は東工大として参加したい(同様意見 2 件)
- アドミッションポリシー(同様意見 2 件)
- 現在の就職キャリアセンターや蔵前工業会などの同窓会組織の仕組み(同様意見 2 件)
- 学外向け情報として、東京工業大学リサーチリポジトリ(T2R2)の維持
- 東工大の HP には、各系の HP があり、情報が分かりやすいので維持して欲しい。
- 水曜日の午後に基本授業が入らない現在の時間割を変えないでほしい。バイトやサークルとの両立が現行の制度はとてもしやすい。
- 教務課の素早い対応
- 本館の校章の扉は代々ミーム的に親しまれており東工大の写真スポットとなっているため、統合後も校章を書き換えることなく保存してほしい。

¹ T2SCHOLA 学生用操作ガイド(基本編)ver.2.5

https://docs.google.com/document/d/1e8VxvPhrY9t6iIyCquz_F9qHleq_ii0Qt4FNMXq64nY/view# (最終閲覧日: 2023 年 6 月 12 日)

² 東京医科歯科大学 情報システムポータル https://www.tmd.ac.jp/labs/TOGOjoho/toshokan-bumon/students_596f0418bf324_597fe59bb7ac7_59841c6818e78/ (最終閲覧: 2023 年 6 月 12 日)

まとめ

系所属システムや大学院入試システムなど、他大学には見られない東工大独自のカリキュラムを維持して欲しいという意見が目立ちました。

また、システム面は T2SCHOLA や m アドレスの維持がありましたが、共通して現在の制度から変わることによる混乱や使いにくくなる可能性を理由とした回答が主でした。

また、本設問では、統合にあたって変えないで欲しい制度について回答を得ましたが、一方で、統合を機に全く新しいものを取り入れて欲しいという意見が 2 件ありました。東工大や東京医科歯科大学でもともとあった制度のどちらが良い制度か主張しあったり、システムが統合しないまま終わったりするよりも、全て新しい制度で統合した方が良いという理由でした。また、Team 東工大 Slack のように新しいものを取り入れようとする姿勢を変えないで欲しいという意見もありました。

現行の東工大の制度のうち、統合を機に変えて欲しいものは何かありますか、またどう変わって欲しいですか

学生の意見

設問 22 は「現行の東工大の制度のうち、統合を機に変えて欲しいものは何かありますか、またどう変わって欲しいですか」と問うた質問で、527 件の回答をいただきました。以下の表のように回答を分類し、分析を行いました。各分類の回答数は以下の通りです。

表 2-14.1 東工大の現行制度のうち、統合を機に変えてほしいものの件数

区分	大学院入試・系所属・研究室配属	文系教養科目	T2SCHOLA	学修カリキュラム	その他	なし
件数	93	85	52	152	82	63

大学院入試・系所属・研究室配属

大学院入試については、A 日程(面接試験のみ)の枠を増やし、B 日程(学力試験あり)の枠を減らしてほしいと希望する声が 15 件ありました。

系所属・研究室配属については、それに関連して教養科目の成績評価方法のばらつきが大きいことに対する指摘(12 件)や、GPT を用いた制度から GPA を用いた制度にすること(13 件)、あるいは系所属や研究室配属の時期を早めるべきだという指摘(11 件)がありました。

文系教養科目

学士課程及び大学院で必修となっている文系教養科目について必修から外してほしいとの意見(41 件)や、学士 3 年生後期にある教養卒論について廃止してほしいとの意見が(12 件)ありました。しかし、一部からは、文系教養科目の種類を増やしてほしいなど建設的な方向に改善してほしいという指摘(26 件)もありました。

英語科目については、「使える英語」を授業で教えてほしいとの声や、大学院での英語講義について、内容の理解の促進が阻まれているとの意見がありました。

T2SCHOLA

T2SCHOLA について、使いにくい改善や廃止をしてほしいとの声(52 件)がありました。また、廃止する代わりに OCW-i を復活させてほしいとの意見(16 件)がありました。具体的には、課題の締切日をわかりやすく表示することや、東工大ポータルを経由してログインしなければいけないことなどが挙げられていました。

学修カリキュラム

学修カリキュラムについては、医科歯科大との統合を踏まえ、医歯系の科目を含め、幅広い科目を学ぶことができるカリキュラムとなるようにしてほしいとの意見が(57 件)ありました。また、それに限らず必修を少なくし、柔軟に自分の好きなことを学ぶことができる自由度の高いカリキュラムを望む声(12 件)もありました。

その他

留学制度について、大学の選択肢を増やしてほしいなど改善を求める意見が(18 件)ありました。また、CAP 制について、上限を廃止してほしいとの意見(6 件)や、医科歯科大の学生を含めた学生間での交流を促進してほしいとの意見(6 件)もありました。

まとめ

現行の東工大の制度について様々な意見が寄せられました。学勢調査 2022 においても学生の意見として挙がっているものが多くあり¹、統合を機に改善を求められている制度を見直し、学生から評価されている点は残していくということが必要だろうと考えます。

¹ 学勢調査「学勢調査 2022」:http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/2022/2022_gakusei_teigensho.pdf（最終閲覧日:2023 年 6 月 14 日）

学生の意見

設問番号 23 は「統合後、異なる所属の学生間の交流を推進するために継続または新設してほしい制度はありますか」と問うた質問で、351 件の回答をいただきました。以下の表のように回答を分類し、分析を行いました。各分類の回答数は以下の表 2-15.1 の通りです。

表 2-15.1 自由記述回答の分類

区分	ユニット制	転系制度	イベント (部活・学祭)		その他		無関係	合計
			継続	新設	継続	新設		
件数	112	80	4	3	14	83	55	351

ユニット制

ユニット制に関しては、現在東工大で行われているユニット制度を統合後も継続して続けて欲しいという意見(同様意見 112 件)が非常に多く見られました。多様な学院の学生たちが交流できる機会として、ユニットがとても有用であったという意見(同様意見 5 件)が寄せられています。また、統合後に東京医科歯科大学と混合してユニットを作って欲しいという意見(同様意見 10 件)もあり、ユニット制に関して、学生間の交流の場としての役割を期待する人が多いようです。

転系制度

ユニット制度同様、現在の転系制度を継続して行なって欲しいという意見(同様意見 80 件)が多く見られました。また、現在よりも転系のハードルを下げて欲しいという意見(同様意見 8 件)も散見されました。また、その他にも東工大の学士課程から医科歯科大の学部へ移ることが可能な制度を新設して欲しいという意見(同様意見 8 件)があり、統合による学びに広がり期待する声が挙がっていました。

イベント

(部活・学祭など)

イベント関連では、継続して欲しいものとして上がったのは工大祭に関するもの(同様意見 4 件)でした。工大祭をよりメジャーなイベントにして欲しいという意見の他には、新設イベントとして運動会やゲーム大会のような多くの学生が参加できるイベントの新設を求める声(同様意見 3 件)がありました。

その他

その他に分類された意見は大きく 2 つに分類されました。1 つは学修・研究に関連したもので、医科歯科の講義をより柔軟に受講できるような制度が欲しいと(同様意見 31 件)といった講義に関するものや、医科歯科大と東工大で共同の研究室の設立(同様意見 13 件)など、学修・研究における交流を求める意見でした。2 つ目は、特にこれといった特定の制度への言及はないものの、学生間の交流の機会が欲しいという意見(同様意見 9 件)でした。

まとめ

異なる所属の学生間の交流を促すための制度について調査したところ、ユニット制をあげる意見及び学修における専門分野での交流に関する意見が多く寄せられました。統合によるメリットを十分に活かすためにも、東工大及び医科歯科

大の学生を混合したユニット制度や、より柔軟な受講制度、あるいは転系制度などを導入することが学生間の交流を促進するきっかけとなると思われます。

また、特徴的な結果として、具体的な制度への言及はなくとも、何かしらの学生間の交流を促進する取り組みを行って欲しいという意見が多くあり、異なる所属間の学生の交流に対して比較的積極的な意見を持つ人が多いことが分かりました。

学生の意見

設問番号 24「統合後、情報基盤システムに関して何か要望はありますか」では、回答を自由に記述できる形式で、東京医科歯科大学との統合後の情報基盤システムに対する要望を募りました。設問文で例として挙げた、東工大のドメインネーム、東工大ポータル、T2SCHOLA、Slack/Box とその他のシステムについて、既存のシステムを引き続き活用して欲しいという要望（「継続」）と新しくシステムを作って欲しいという要望（「新設」）に分類して、解析を行いました。

各システムについての継続・新設要望の件数を表 2-16.1 にまとめます。東工大のドメインネームについての継続を望む声が多く、様々なサービスや出版済みの論文に登録してしまっているのも変更されたくないという点を理由に挙げる声が多かったです。東工大ポータル、T2SCHOLA や Slack/Box についても継続を望む声が多く、慣れ親しんだシステムが変更されることに不安を抱える学生も多いようです。一方で、T2SCHOLA や東工大ポータルについては、統合が決まる前から改善を求める声が多く上がっており、統合を機に新しい機能を新設して欲しいといった声が多く聞かれました。Slack/Box については運用開始から間もないこともあり、新設の機能を求める声は少なかったです。これら以外のその他のシステムへの要望も併せて、以下代表的な意見について詳述します。

表 2-16.1 各情報基盤システムについての継続・新設要望の件数

	ドメインネーム		東工大ポータル		T2SCHOLA		Slack/Box		その他	
	継続	新設	継続	新設	継続	新設	継続	新設	継続	新設
件数	114	5	84	28	87	43	77	4	43	56

ドメインネーム

（継続）

東工大で現在用いているメールアドレスのドメイン名を変えないで保持して欲しい、もしくは新しいメールアドレスとの併用をして欲しいという意見が多く上げられました。理由としては、

- 様々なサービスの登録に m アドレスを用いているため、変更が手間だから（同様意見 10 件）
 - 出版済みの論文に m アドレスを載せてしまっているため（同様意見 2 件）
 - 統合後も過去のメールを参照したいため（同様意見 2 件）
- などが挙げられました。

（新設）

ドメインネームについての新しい機能等の要望は多くありませんでしたが、

- メールアドレスが新しくなるなら、シンプルなものにして欲しい
 - 新しいメールアドレスに既存の m アドレスのメールをリダイレクトできる機能が欲しい
 - 新しい大学名に沿うメールアドレスにして欲しい
- という意見が挙げられました（各 1 件）。

東工大ポータル

(継続)

東工大ポータルについては、何も変えないで欲しいという意見の他に、東工大ポータルのような様々なサービスへのログインのハブとなるようなシステムは便利なので残して欲しい。という意見が挙げられました。

(新設)

東工大ポータルについては、過去の学勢調査でも取り上げている通り、ログインが煩雑だと考える学生が多く、統合を機に変更をして欲しいという声が 28 件の意見のほとんどでした。具体的には

- 自動ログイン機能を付けてほしい (同様意見 11 件)
 - マトリクスコードを廃止して欲しい (同様意見 9 件)
 - T2SCHOLA など、アクセス頻度が高く、教務 Web と違って高いセキュリティが要求されないものについてはログインの二段階認証を免除して欲しい (同様意見 3 件)
- といった意見が挙げられました。

T2SCHOLA

(継続)

T2SCHOLA についても、利用継続を望む声が多く挙がりました。理由としては、使い慣れたシステムを引き続き使いたいため、等でした。

(新設)

東工大ポータルと同様、T2SCHOLA についても過去の学勢調査で提言した通り、UI(ユーザーインターフェース)や機能についての不満がいまだにあり、統合を機に変更して欲しいという意見が挙がりました。具体的には

- 課題一覧機能の実装 (同様意見 12 件)
 - 週ごとの時間割表機能の実装 (同様意見 8 件)
 - 授業の表示を科目番号ではなく科目名にして欲しい (同様意見 5 件)
- の 3 つの意見にほとんど集約されます。

Slack/Box

(継続)

Slack については、授業やサークル、研究室などでの利用頻度が高いため、継続を望む声が多かったです。Box についても、Slack ほど意見は多くなく、具体的な理由はありませんでしたが、継続を望む声がありました。

(新設)

Slack や Box については、まだ学生が使い慣れていないこともあり、新しい機能などを望む声はほとんどありませんでしたが、Slack の機能制限を緩和して欲しいという意見が 1 件、課題の提出先を T2SCHOLA に統一し、Box を使わないで欲しいという意見が 2 件、Box の容量が 20GB では少ないという意見が 1 件挙げられました。

その他

(継続)

上述のシステム以外にも、様々なシステムの使い勝手が良いので継続して欲しいという意見が挙がりました。継続の要望があったものとしては

- 教務 Web (同様意見 4 件)
 - Adobe や office などのアカウントの無料配布 (同様意見 4 件)
 - SSL-VPN (同様意見 2 件)
- が代表的です。

(新設)

その他のシステムについても、統合を機に改修して欲しいという意見が挙げられました。具体的には、

- (T2SCHOLA が使いづらいので)OCW-i を復活させてほしい (同様意見 7 件)
 - 東工大メールシステムの UI を改善して欲しい (同様意見 6 件)
 - OCW の動作が重いので、軽くしてほしい (同様意見 4 件)
 - 読める論文の種類を拡大して欲しい (同様意見 4 件)
 - Wi-Fi の自動ログイン機能が欲しい (同様意見 3 件)
 - クラウドデータサービス (OneDrive, Dropbox, GoogleDrive など) のアカウントが欲しい (同様意見 2 件)
- 等について、意見が上がった他、T2SCHOLA について、システムを新設して欲しいという意見でもあった通り、既存のシステムの統合・一元化を求める声も目立ちました:
- 情報元としての T2SCHOLA、メールと Slack、課題提出先としての T2SCHOLA と Box など、既存のシステムを統合して一元化して欲しい。また、それらを集約した東工大公式の無料のスマホアプリを作って欲しい (同様意見 3 件)

まとめ

情報基盤システムは現在の学生生活において根幹をなす非常に重要なシステムです。そのため、使い慣れているから継続して欲しいという意見のほかにも、「こういった点について利便性が高いと考えているのでこのような機能は継続して欲しい」といった細かい要望が数多く寄せられました。一方で、T2SCHOLA の UI や東工大ポータルログインの煩雑さなど、過去の学勢調査でも取り上げてきた問題についてもいまだ学生の不満は完全に解消されていないため、東京医科歯科大学との統合を機に変えてほしいといった意見も多く挙がりました。

現状分析

本設問は、統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されるかを問うた質問であり、統合についてのセクションと女子枠についてのセクションで唯一共通して回答を求めた設問です。「非常にそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「そう思わない」「全くそう思わない」の 5 段階と未回答の(空白)の 6 種類の回答が得られました。

図 2-17.1 を見ると「どちらとも言えない」「未回答(空白)」という判断を留保する層が 46.3%と 1 番多く、「非常にそう思う」「そう思う」という肯定する層が 39.1%でした。「全くそう思わない」「そう思わない」という否定する層は、14.6%でした。

図 2-17.2 を見ると、女性と男性では総計とほぼ同じ割合となりました。また、性別を回答しないとした集団では、判断を保留する層が 53.2%、肯定する層が 19.1%、否定する層が 27.6%となり否定する層の割合が多くなっています。

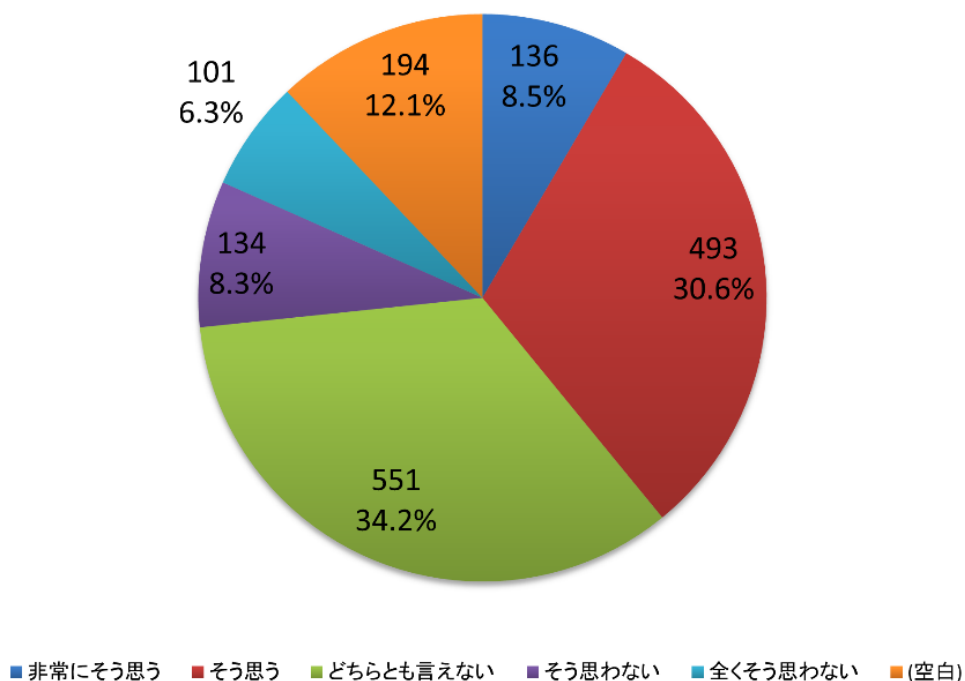


図 2-17.1 設問番号 25「統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか」
総計

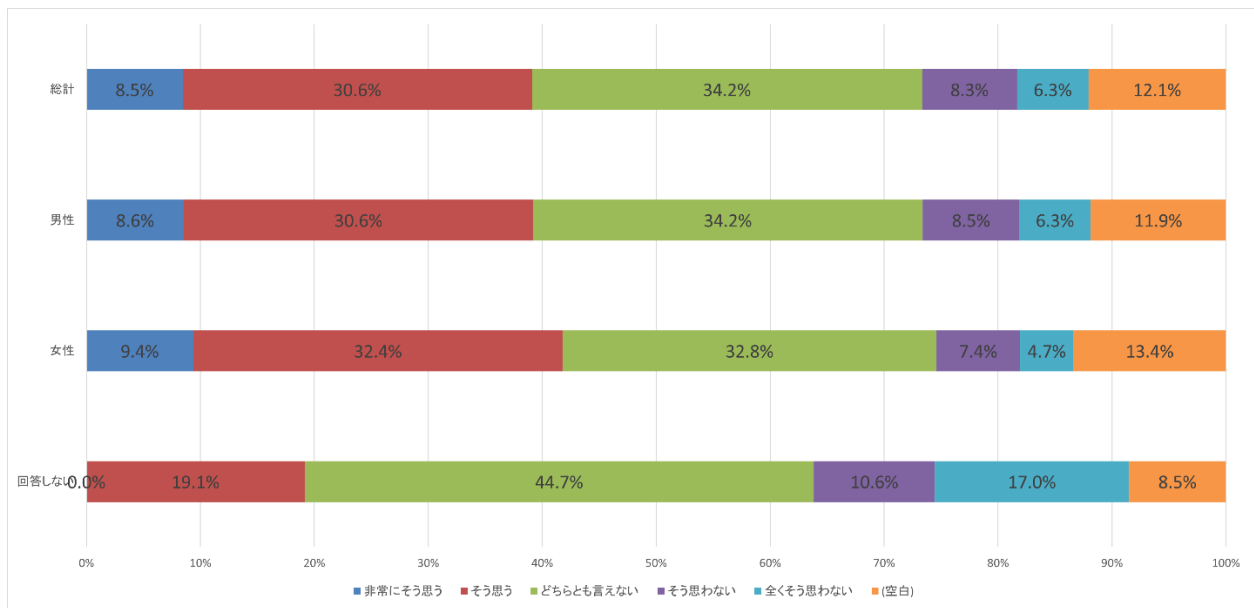


図 2-17.2 設問番号 25 性別による区分

図 2-17.3 を見ると、学院別では、情報理工学院、生命理工学院、理学院では肯定派がそれぞれ 34.1%、35.6%、29.5%で否定派が 17.4%、18.8%、22.1%と総計と比較して肯定する層が少なく、否定する層が多くなっていることがわかります。

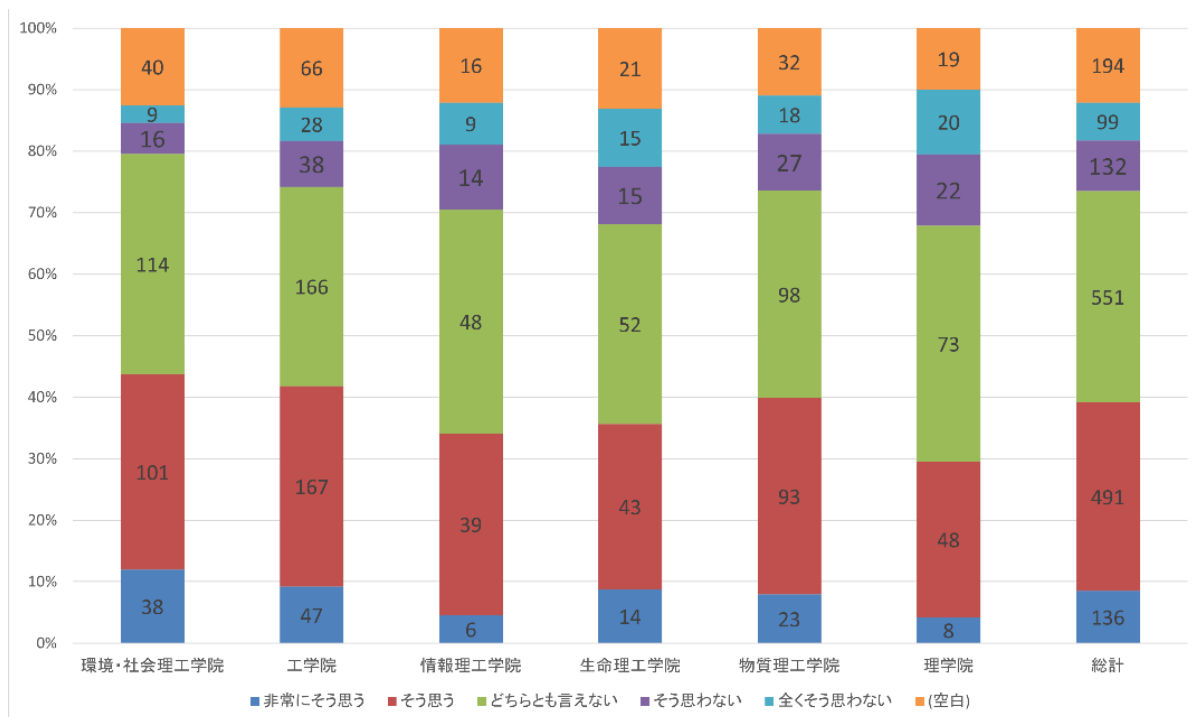


図 2-17.3 所属学院クロス集計

まとめ

統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されるかどうかについては、総計データからは判断を留保する層と肯定する層がそれぞれ 4 割程度存在し、否定する層は 2 割程度という結果になりました。性別や学院別では、肯定派が少なく否定派が多い場合もありました。統合における D&I の充実を図るためにこの調査結果が役立つことを願っています。

学生の意見

設問番号 26「統合について、意見があれば自由に記入してください」では、東京医科歯科大学との統合について、回答する学生が自由に記述できる形式で調査を行い、データを収集しました。

調査結果として、本設問に対して約 250 件の有効回答を頂きました。件数の多かった回答の大きな属性は表 2-18.1 のようにまとめられます。最も多かった回答は統合後の新大学の名称についての意見でした。次いで統合に関連して、大学の運営側の対応等に対する意見や、統合の意図が分からない等の疑問があるという意見、統合に際して新しい制度などを提案する声も聞かれました。統合自体についての賛成意見も 30 件ほど見られました。以下ではそれぞれについてどのような意見があったか、詳述します。

表 2-18.1 おおまかな回答属性とその件数

	賛成意見	大学名	ブランド力	大学運営 への意見	疑問	提案・ 要望	その他
件数	30	74	15	29	33	44	45

賛成意見

東京医科歯科大学との統合について、好意的な意見とその理由としては以下のようなものが代表的でした。（各数件）

- 医学を学びたいと思っていたのでうれしい
- 大学の使えるお金が増えるのは良いこと
- 学際的な研究が進むのが楽しみ
- 学生間の新しい交流に期待している

大学名

最も多くの意見が寄せられたのは統合後の新大学の名称についてでした。寄せられた意見の数だけから見ても、学生の関心が非常に高いことが分かります。新大学の名称については、2023 年 1 月 19 日に公式に仮称が発表されました¹。したがってここでは大学名についての意見を、新名称公表前（2022 年 12 月 27 日～2023 年 1 月 18 日）の回答と、新名称公表後（2023 年 1 月 19 日～2023 年 1 月 27 日）の回答に分けて記載します。

新名称公表前（2022 年 12 月 27 日～2023 年 1 月 18 日、41 件）

- 名称を変えないで欲しい（同様意見 13 件）
- ダサいのでカタカナを含む名称にだけはしないで欲しい（同様意見 5 件）
- 変えるのであれば両校の伝統を受け継ぐ、良い名称にして欲しい（同様意見 3 件）
- 両者の大学名を平等に保持してもらいたい（同様意見 2 件）

新名称公表後（2023 年 1 月 19 日～2023 年 1 月 27 日、33 件）

- 東京科学大学という名称が受け入れられない、もっといい名前にして欲しい（同様意見 18 件）
- 英語名称が不適当だと感じる（主に語順）（同様意見 8 件）
- 日英での略称が微妙に感じる（同様意見 2 件）

¹ 新大学名称を「東京科学大学（仮称）」として大学設置・学校法人審議会への提出を決定：

<https://www.titech.ac.jp/news/2023/065718>（最終閲覧日：2023 年 6 月 14 日）

ブランド力

大学統合後の新大学の知名度や、大学のブランディングなどについて、就職活動や大学のアイデンティティの観点から心配する意見が寄せられました。以下が代表例になります。

- 統合は各大学の持つ知名度を落とすことになる (同様意見 6 件)
- 就職活動で「東京工業大学」の名前が使えなくなることによる不利益を危惧している (同様意見 3 件)
- 一般の人にも浸透するよう、広報を継続的に行ってほしい (同様意見 3 件)
- 統合は東京工業大学の持つ伝統とアイデンティティを毀損するため反対である。 (同様意見 2 件)

大学運営への意見

統合の決定と名称の決定過程について、大学運営側のやり方について多くの懐疑的な意見が挙げられました。

- 統合の決定、新名称ともに大学からの正式公表に先んじてマスメディアに報道をされていたため、大学運営組織の情報管理体制に大きな不安がある (同様意見 7 件)
- 統合の決定まで、学生に議論の機会が与えられなかったのが残念 (同様意見 5 件)
- 名称を公募しておきながら名称の決定過程に透明性がない (同様意見 4 件)
- 説明がすべて事後的であり、不快感を覚えた (同様意見 2 件)
- 名称決定のプロセスを公表して欲しい (同様意見 2 件)

疑問

統合後の学生生活や統合そのものについて、学生の間にはいまだ多くの疑問点があるようで、統合に関して疑問に思っていることについても複数の回答がありました。

- 学士課程入学試験はどのような形式になるのか？ (同様意見 5 件)
- そもそも統合の目的が不明瞭(なぜ大学間の連合ではダメなのか明確な説明が欲しい) (同様意見 4 件)
- 統合のメリットが可視化されていない (同様意見 2 件)
- 統合をしたところで学生生活の何がどう変わるのか分からない (同様意見 2 件)
- 医学部に転系はできるようになるのか？ (同様意見 2 件)
- キャンパス間の移動は発生するのか？ (同様意見 2 件)
- 東京外国語大学や一橋大学との統合の可能性はあるのか？ (同様意見 2 件)

提案・要望

統合までに大学にして欲しい支援や、統合後のカリキュラム等についての要望や新システムの提案について以下にまとめます。統合までの要望としては、

- 具体的なカリキュラムの変更について知りたい (同様意見 4 件)
 - 統合のメリットを明確化して欲しい (同様意見 2 件)
 - 名称変更に伴う法手続き(法人登録済みのサークル名称など)に支援が欲しい (1 件)
- 等が挙げられました。

統合後への提案や要望としては、

- キャンパス間の移動はしたくない (同様意見 6 件)
- 医療系の先生の講義を気軽に聴講できるようにして欲しい (同様意見 3 件)
- 統合後も既存の研究領域の予算を減らさないで欲しい (同様意見 2 件)
- 各系の専門性は尊重し続けてほしい (同様意見 2 件)

その他

上述の意見のほかに、単に反対の意思を示しているもの、賛成とも反対とも言えないとしているものなどがありました。賛成とも反対ともできない理由としては、学生側が統合のメリット・デメリットについて十分に理解できていない点などが挙げられていました。

まとめ

東京医科歯科大学との統合について、最も多い意見は新大学の名称に関したものでした。新名称決定前の回答数の多さから、学生の関心が非常に高かったことが伺え、新名称決定後の回答から、一部学生は新名称にまだ不満を持っていることが見て取れます。一方で、統合自体については賛成意見も反対意見も多く見られ、学生の間でも意見が割れていることが分かります。

統合までの間や、統合した後の大学運営、カリキュラムについて多数の意見が寄せられており、これらを参考に統合後の大学の在り方が模索されていくことを期待します。

3. 女子枠関連

3 設問番号 27

意見まとめ
3-1

女子学生の比率が増えることについてどう思いますか

現状分析

設問番号 27 から 32 にかけては、東工大が 2024 年度から順次実施していく予定¹の学士課程入試の総合型および学校推薦型選抜における女子枠に関連した設問になっています。

ここでは設問番号 27「女子学生の比率が増えることについてどう思いますか」という質問について調査結果のまとめを行います。この質問は一旦女子枠という方策から離れて、女子学生が増加することそのものについて肯定的か否定的かを「賛成」、「どちらかという賛成」、「どちらとも言えない」、「どちらかという反対」、「反対」の 5 段階で訊いたものになります。

まず、全回答者からの回答比率と回答数、女性・男性別に見た回答比率と回答数を図 3-1.1 に示します。全体の回答比率から、過半数の学生は女子比率が増えることそのものについては肯定的な意見を持っていることが見て取れます。男女での差を見てみると、女性の方が男性よりも賛成する人も反対する人も多く、「どちらとも言えない」という回答の比率が少なかったことが分かります。

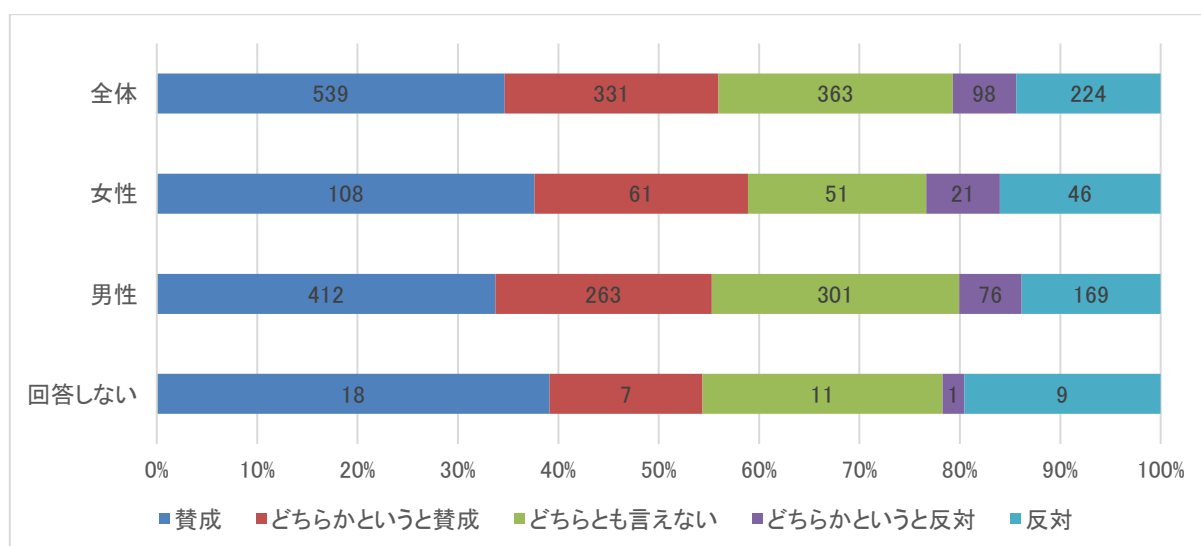


図 3-1.1 回答全体と性別ごとの回答比率と回答数

次に、課程ごとに見た回答比率・回答数を図 3-1.2 に示します。ここでは回答内訳の比率が意味を持つよう、ある回答数が多かった博士後期課程在籍学生、修士課程在籍学生、学士課程在籍学生の回答結果をこれら 3 課程の回答数の和(全体)と比較しながら示します。この結果から、女子学生の比率が増えることについては課程が上がるほどに否定的な意見が少なく、肯定的な意見が多くなる傾向にあることが伺えます。

¹ 東京工業大学が総合型・学校推薦型選抜で 143 人の「女子枠」を導入：<https://www.titech.ac.jp/news/2022/065237>
(最終閲覧日: 2023 年 6 月 11 日)

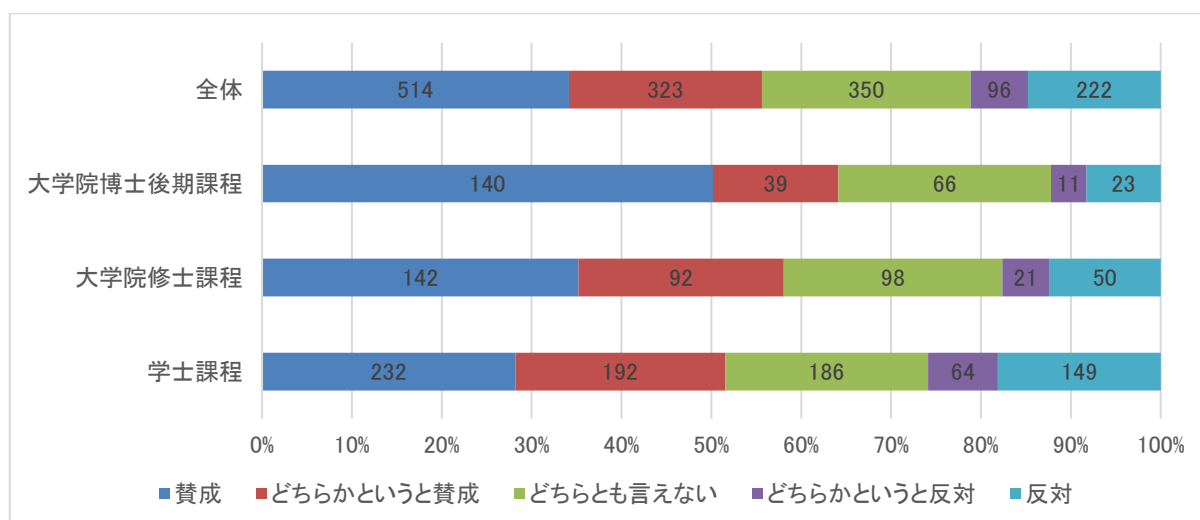


図 3-1.2 所属課程ごとの回答比率と回答数(回答数が多い3課程についてのみ比較)

最後に、所属学院ごとに回答比率を比較して図 3-1.3 に示します。比較対象として、全学院の解答の総和を「全体」として示してあります。結果を見てみると、環境・社会理工学院に所属する学生は全体に比べて賛成が多く、反対が少ない傾向にあり、理学院所属の学生には逆に賛成が少なく、反対が多い傾向にある事が見て取れました。

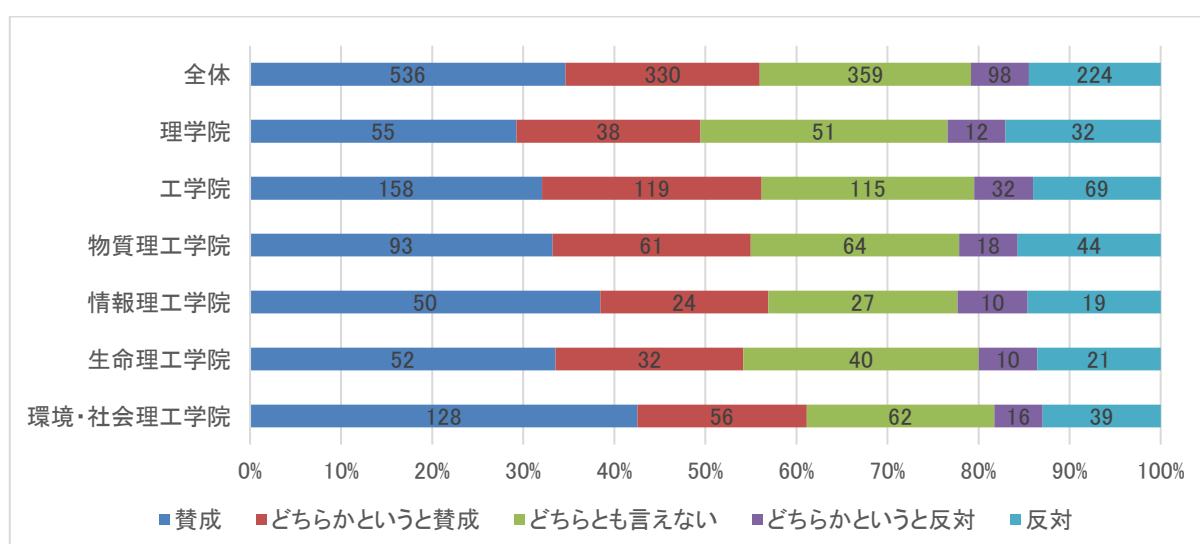


図 3-1.3 所属学院ごとの回答比率と回答数

まとめ

以上のデータをまとめると、設問番号 27「女子学生の比率が増えることについてどう思いますか」についての回答は以下のようにまとめられます。

- 回答全体では賛成寄りの意見が半数を超えている。
- 女子の方が男子より賛成も反対も多く、「どちらとも言えない」と回答した人が少ない。
- 課程が上がるほど回答は肯定的になる。
- 学院間の差は少ないが、環境・社会理工学院に所属する学生は賛成、理学院所属学生は反対の傾向がある。

現状分析

設問番号 28「女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか」では女子枠の導入の影響について、学生の学力に焦点を絞って調査を行いました。5 段階の選択肢「上がると思う」、「やや上がると思う」、「どちらとも言えない」、「やや下がると思う」、「下がると思う」によって女子枠導入後の学生の学力について訊きました。

まず、全回答者ならびに女性のみ、男性のみと、性別について「回答しない」と回答した学生からの回答データを図 3-2.1 に示します。回答全体のデータを見ると、最も回答数が多かった選択肢は「どちらとも言えない」であり、多くの学生が学力への影響を測りかねていることが分かる一方、「やや下がると思う」、「下がると思う」の和は全回答の半数に近い割合を占めており、学力の低下を懸念する学生が多いことが見て取れます。また、女性と男性で比べてみると、男性の方が、学力が上がるとは考えていないことが分かります。

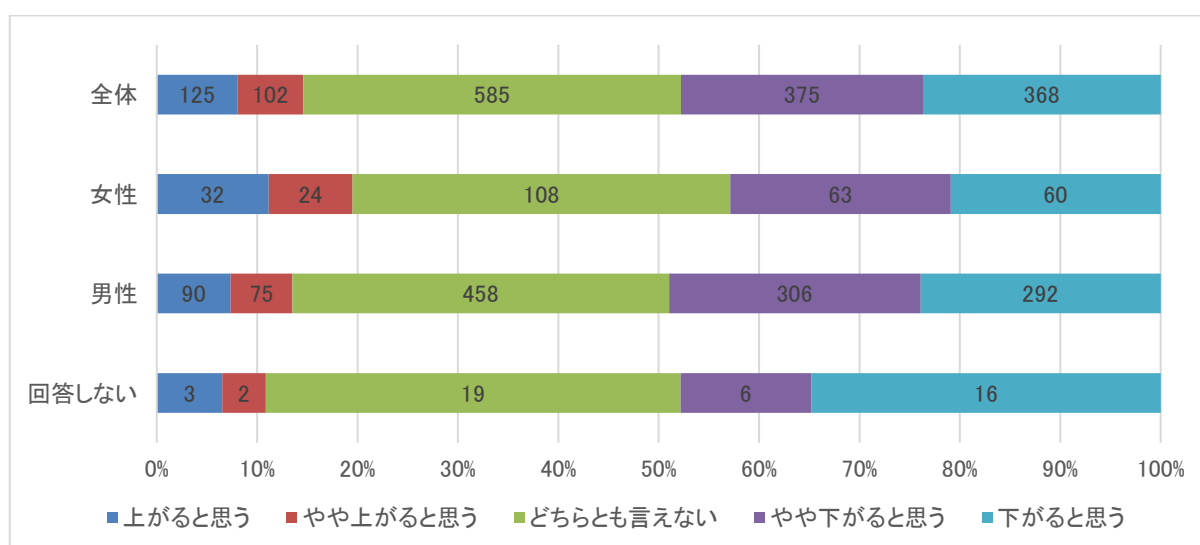


図 3-2.1 回答全体と性別ごとの回答比率と回答数

次に、博士後期課程、修士課程、学士課程所属学生からの回答データを図 3-2.2 に示します。結果を見ると、学士課程学生は学力が「やや下がると思う」と「下がると思う」の和が学士課程学生からの回答の 6 割を上回っている一方、博士後期課程学生の回答では 1/4 にも満たないなど、所属する課程によって回答に大きな違いがある事が分かります。所属する課程が上がるほど学力の低下に対する懸念が少なくなり、むしろ上がると考える傾向にあることが見て取れます。

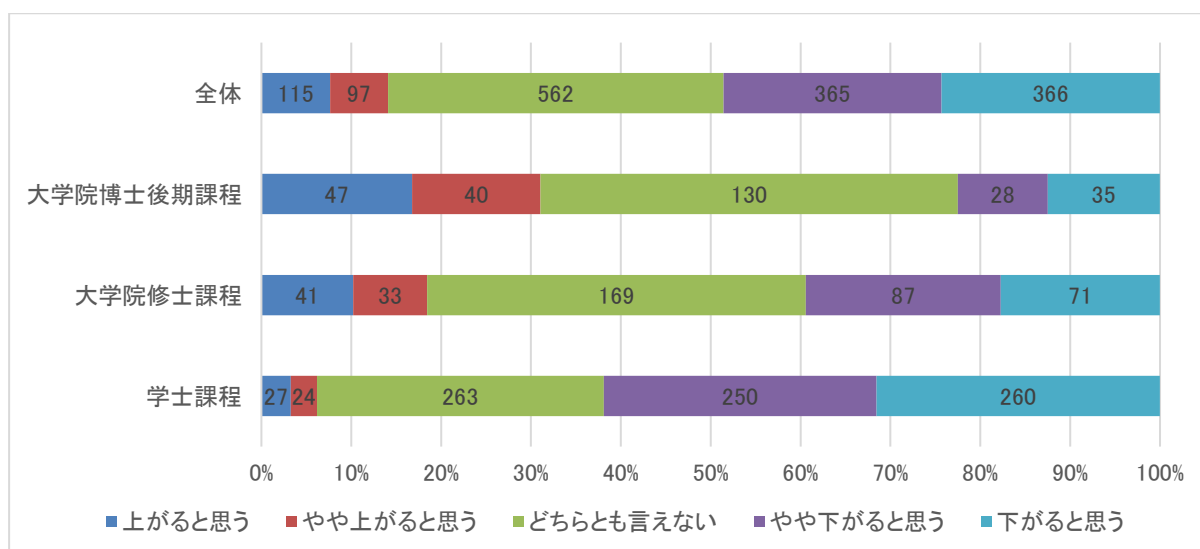


図 3-2.2 所属課程ごとの回答比率と回答数

次に、所属課程ごとの回答結果を図 3-2.3 に示します。環境・社会理工学院は「上がると思う」と「やや上がると思う」の和が回答の 1/4 を超え、「やや下がると思う」と「下がると思う」の和がおおよそ 40%程度と、他の学院と比較して如実に女子枠導入後の学生の学力低下についての懸念が小さいことが分かります。一方で、「上がると思う」と「やや上がると思う」の和は情報理工学院や理学院で特に少なく、特に理学院所属の学生は「やや下がると思う」と「やや下がると思う」の和が全学院の中で唯一過半数を占めるなど、学力低下への懸念が大きいことが分かります。

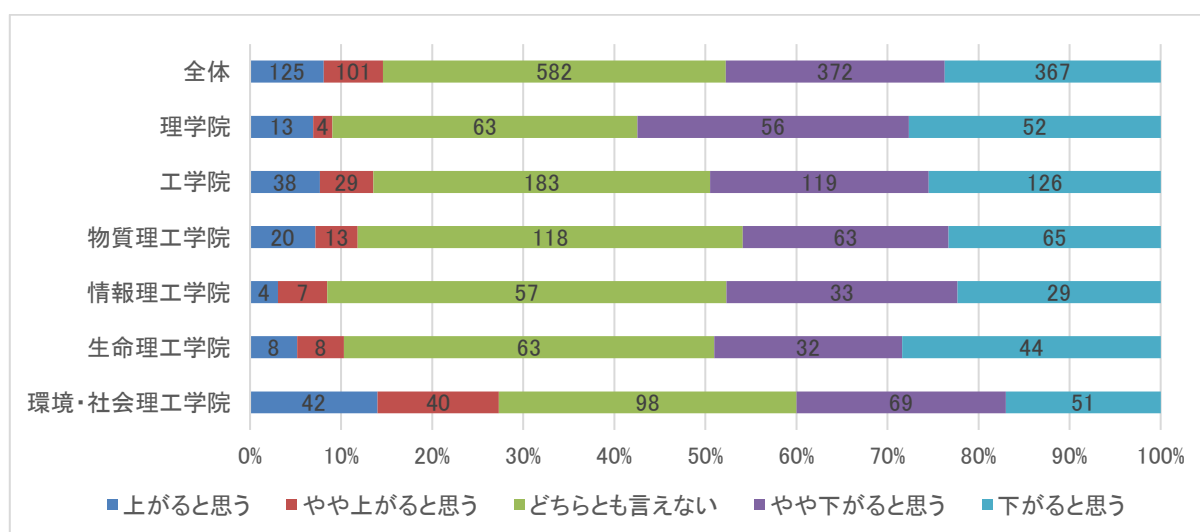


図 3-2.3 所属学院ごとの回答比率と回答数

最後に、設問番号 27「女子学生の比率が増えることについてどう思いますか」の結果と、本設問の結果の相関をバブルグラフの形で図 3-2.4 に示します。横の 5 列が、設問番号 27「女子学生の比率が増えることについてどう思いますか」について左から順に「反対」、「どちらかという反対」、「どちらとも言えない」、「どちらかという賛成」、「賛成」の回答、縦の 5 行が、設問番号 28「女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか」について下から順に「下がると思う」、「やや下がると思う」、「どちらとも言えない」、「やや上がると思う」、「上がると思う」の回答に対応し、全回答に占める設問への回答割合が円の面積に比例するようにプロットしてあります。円の中の数字は実際の回答割合を表します。回答の分布を見ると、右上がりの対角線よりも右下に多くの回答が集まっていることが分かり、女子学生の比率が増えることには賛成でも、学力については懸念している学生が存在していることが分かります。また、女子学生の比率が増えることについて中立または賛成寄りの学生からは、学力については「どちらとも言えない」の回答が一番多い一方、女子学生の比率が増えることに反対寄りの学生は学力が下がるのではないかと回答している傾向にある事が見て取れます。

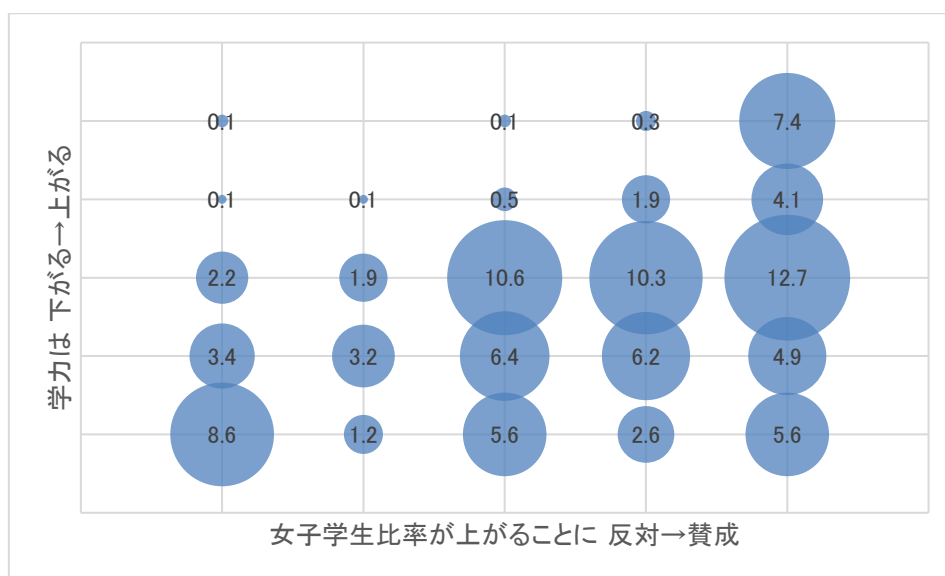


図 3-2.4 設問番号 27「女子学生の比率が増えることについてどう思いますか」と本設問の相関
円の面積が各回答割合[%](円内数値)に対応

まとめ

以上のデータをまとめると、設問番号 28「女子卒の導入によって、**学生の学力**はどうなると思いますか」についての回答から、以下のことが分かりました。

- 回答全体では「どちらとも言えない」が最多だが、「やや下がると思う」と「下がると思う」の和は回答の約半数を占める。
- 男子の方が女子よりも学力の低下を懸念している。
- 課程が上がるほど学力低下への懸念はなくなる。
- 環境・社会理工学院は学力が上がると答えた学生が多く、逆に理学院では学力が下がると思えた学生が多い。
- 女子学生の比率が増えることについては肯定的でも、女子卒の導入で学力がどうなるかについては中立、もしくは低下を懸念する学生が多い。

現状分析

設問番号 29「女子枠の導入によって、学生の研究力はどうなると思いますか」では、前設問に引き続き、女子枠導入の影響について、学生の研究力に焦点を当てて学生がどのように考えているのか調査しました。本設問についても、5 段階の選択肢「上がると思う」、「やや上がると思う」、「どちらとも言えない」、「やや下がると思う」、「下がると思う」からの選択形式でデータを収集しました。

まず、全回答者ならびに女性のみ、男性のみ、性別について「回答しない」と回答した学生からの回答データを図 3-3.1 に示します。回答全体でみると、研究力の低下への懸念が 3 割ほどあるものの、研究力が上昇するという回答が約 2 割あったことに比べ、大きな差はないことが分かり、代わりに「どちらとも言えない」が大多数の回答を占めていることが分かります。また、男女差については、男性の方が研究力の低下を憂いており、傾向としては設問番号 28「女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか」と同様の結果が得られているということが出来ます。

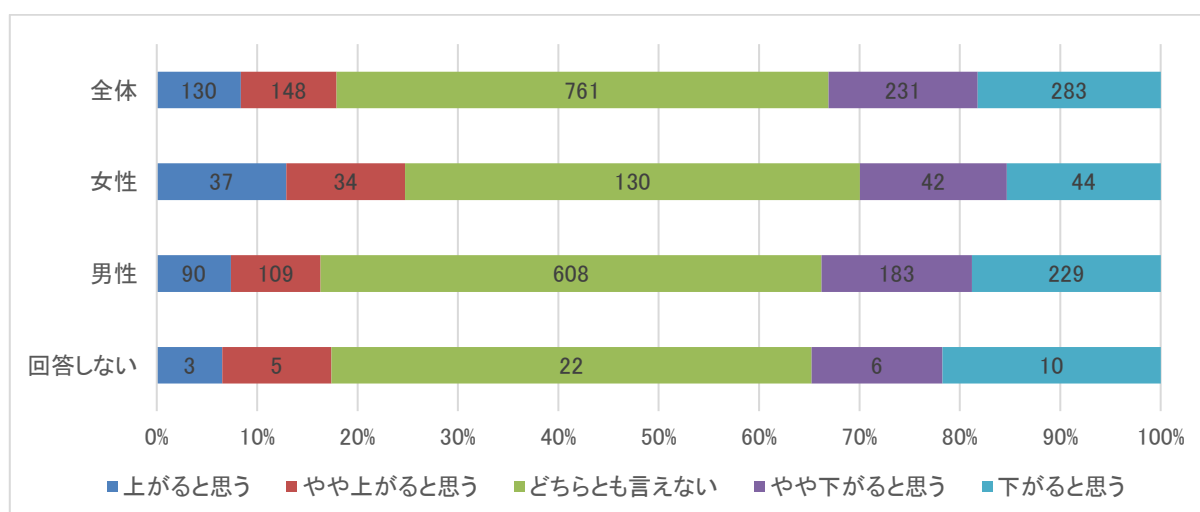


図 3-3.1 回答全体と性別ごとの回答比率と回答数

次に、所属課程別（博士後期課程、修士課程、学士課程）の回答データを図 3-3.2 に、所属学院別の回答データを図 3-3.3 に示します。どちらのデータについても、「どちらとも言えない」の回答が設問番号 28「女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか」より増えている以外、大局的な傾向としては同じで、課程が上がるほど研究力の低下への懸念は少なくなり（博士後期課程ではむしろ向上するという回答が多く）、学院別では環境・社会理工学院所属学生は研究力向上と考えており、逆に理学院所属学生は研究力が低下すると考える傾向にあることが分かります。

図 3-3.4 のように、設問番号 28「女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか」の回答を横軸に、本設問の回答を縦軸にとって回答割合を面積に比例させたバブルプロットを描くと、右上がりの対角線上に多くのデータが存在し、2 つの回答が似た傾向にある事が分かります。しかしながら、学力が低下するのではないかと答えた学生については、研究力についてはどちらとも言えないという中立寄りの回答をしているものも多く存在している（図 3-3.4 左下の領域）ことが分かり、学力と研究力について違いが見られます。

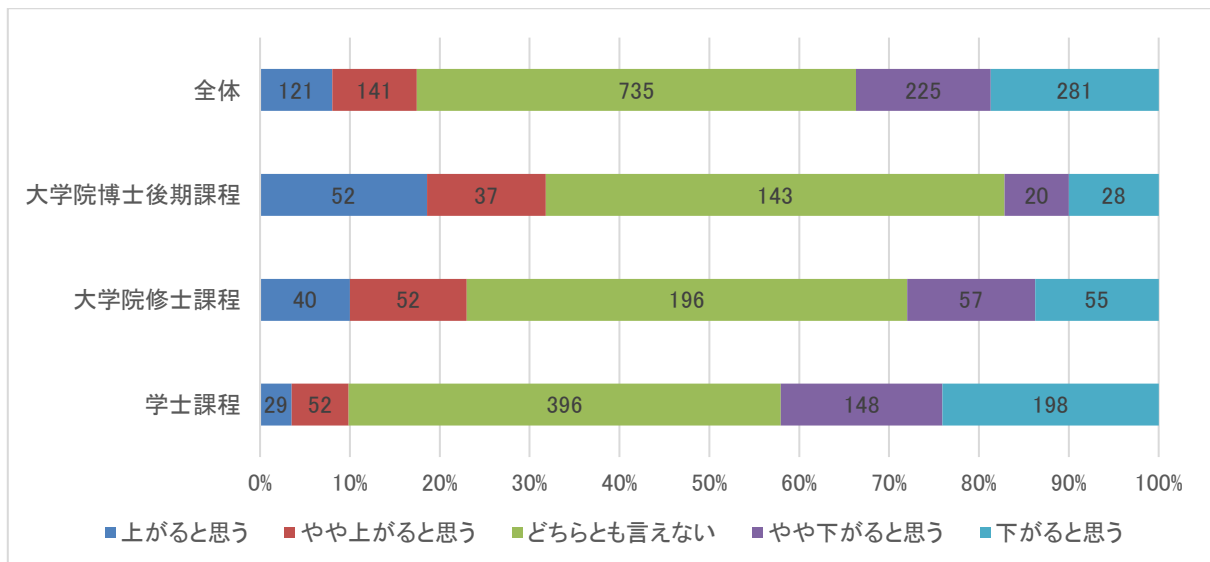


図 3-3.2 所属課程別の回答比率と回答数

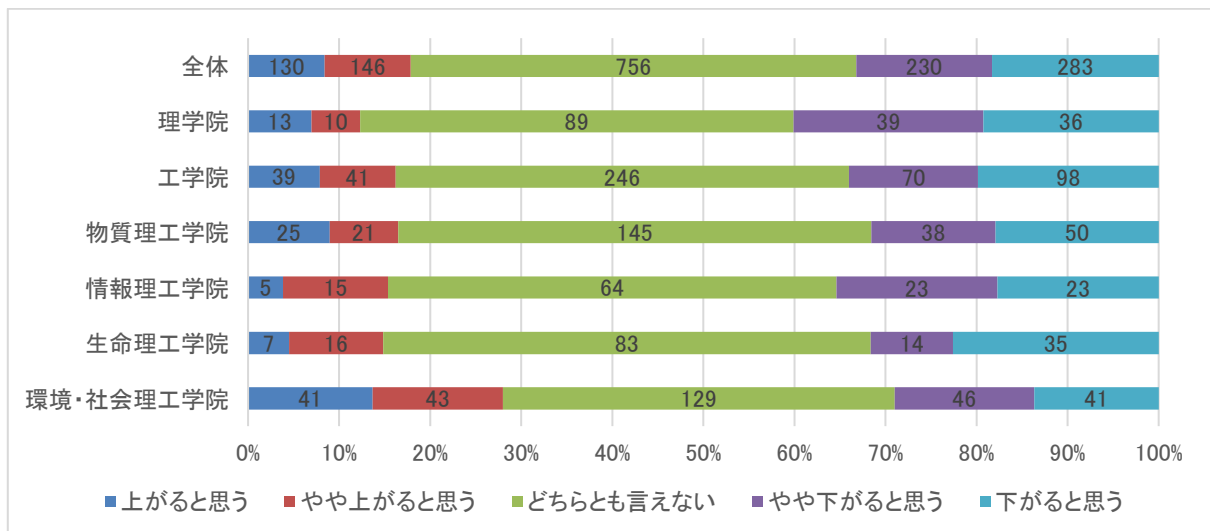


図 3-3.3 所属学院別の回答比率と回答数

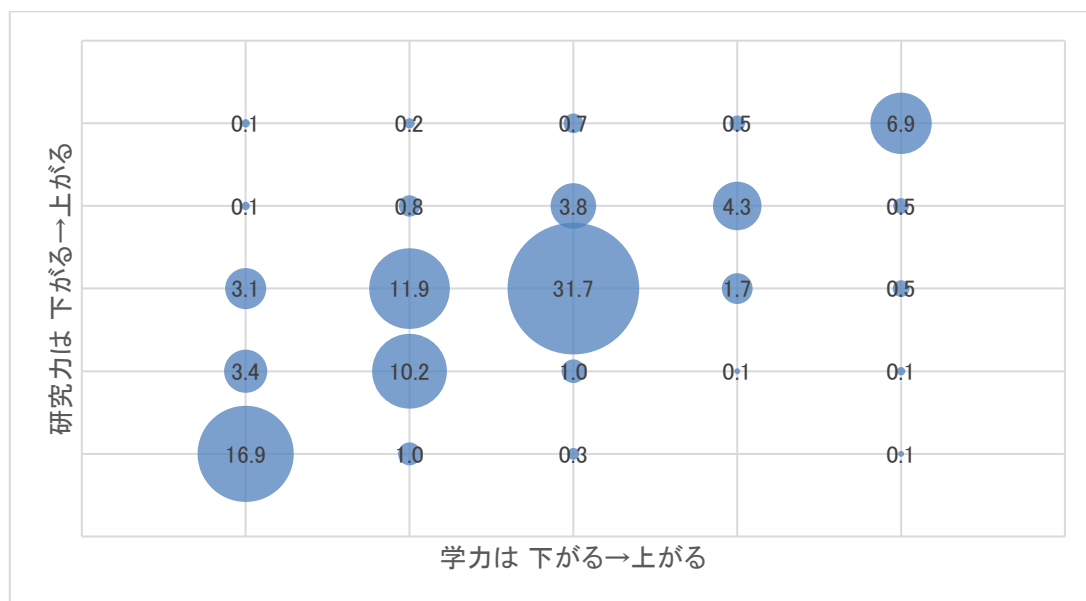


図 3-3.4 設問番号 28「女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか」と本設問の関連円の面積が各回答割合[%](円内数値)に対応

まとめ

以上のデータをまとめると、設問番号 29「女子枠の導入によって、学生の研究力はどうなると思いますか」についての回答から、以下のことが分かりました。

- 回答全体では研究力がどうなるかについて「どちらとも言えない」という回答が多い。下がるか上がるかでは下がると考える学生の方がやや多い。
- 男子の方が女子よりも研究力の低下を懸念している。
- 課程が上がるほど研究力低下への懸念はなくなり、博士後期課程では上がるとする回答が多くなる。
- 環境・社会理工学院は研究力が上がると答えた学生が多く、逆に理学院では研究力が下がると答えた学生が多い。
- 設問番号 28 で扱った学力についての変化と、回答傾向はおおよそ同じだが、研究力の方が「どちらとも言えない」の割合が増えている。

女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、
女子枠を導入するという取り組み全体について
どう思いますか

現状分析

設問番号 30「女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子枠を導入するという取り組み全体についてどう思いますか」では、ここまでの設問番号 27 から 29 を受けて、総合的に女子枠という取り組み自体についての賛否を調べました。本設問についても、5 段階の選択肢「上がると思う」、「やや上がると思う」、「どちらとも言えない」、「やや下がると思う」、「下がると思う」からの選択形式でデータを収集しました。

結果を図 3-4.1 に示します。回答全体で見て、「どちらかという反対」と「反対」という回答の和が過半数を占めています。「賛成」と「どちらかという賛成」の和については回答のおよそ 3 割という結果になりました。また、女性のみ、男性のみ、性別について「回答しない」と回答した学生からの回答データについても 図 3-4.1 に示します。男女で比較してみると、どちらも反対寄りの回答比率(男性:51.1%、女性:54.9%)の方が賛成寄りの回答比率(男性:28.2%、女性:34.6%)よりも高くなっていますが、女性の方が賛成寄りの回答も反対寄りの回答も多くなっていることが分かります。

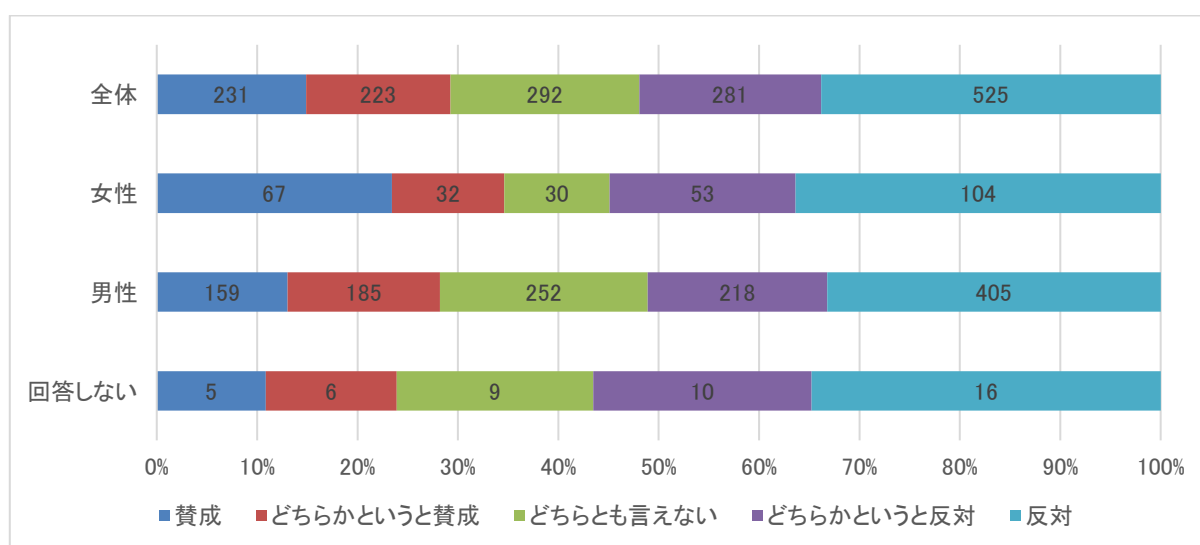


図 3-4.1 回答全体と性別ごとの回答比率と回答数

次に所属課程別（データ数の十分な博士後期課程、修士課程、学士課程について）の結果を図 3-4.2 に示します。結果から、学士課程所属学生の回答では6割を超える回答が反対寄りとなっていることが分かります。課程が上がる则回答は女子枠について肯定的になる傾向にあり、博士後期課程所属学生については賛成寄りの回答が4割強、反対寄りの回答が3割と、賛成が反対を上回っています。課程が上がるごとに肯定的になるという傾向は、設問番号 27 から 30 まですべてに見られる傾向でした。

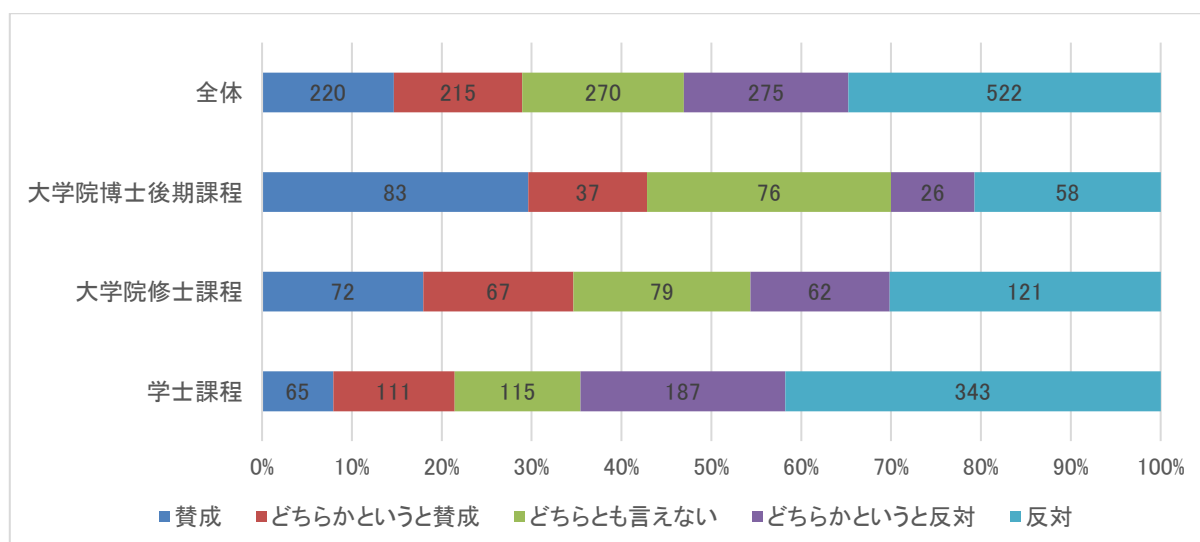


図 3-4.2 所属課程別の回答比率と回答数

次に、所属学院別の回答データを図 3-4.3 に示します。この結果についても、設問番号 27 から 29 と特徴は同じで、環境・社会理工学院は賛成寄りの回答が 4 割近くと最も多く、逆に理学院は反対寄りの回答が 6 割以上と最も反対が多くなっていました。そのほかの学院については、賛成寄りがおおよそ 3 割、反対寄りがおおよそ半数で大差はありませんでした。

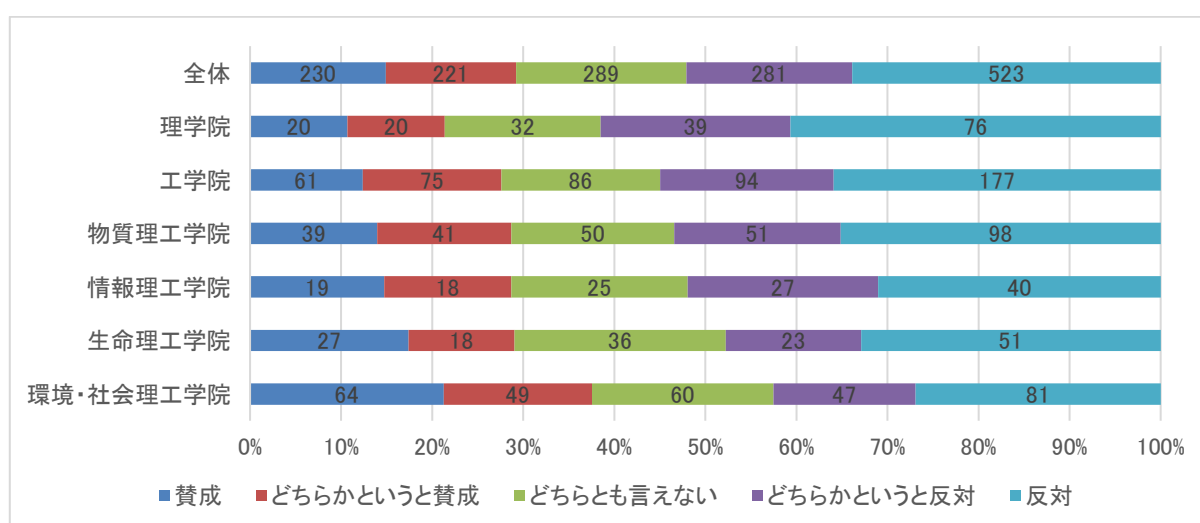


図 3-4.3 所属学院別の回答比率と回答数

以下では、女子枠についての設問(設問番号 27 から 29)と本設問への回答の相関を、男性と女性に分けて調べます。まず、図 3-4.4 は、設問番号 27「女子学生の比率が増えることについてどう思いますか」と本設問の回答をバブルグラフで示したのになります。横軸が左から右へ比率が増えることについて「反対」、「どちらかという反対」、「どちらとも言えない」、「どちらかという賛成」、「賛成」の順で、縦軸が下から上に、女子枠について「反対」、「どちらかという反対」、「どちらとも言えない」、「どちらかという賛成」、「賛成」を順に表します。各円の面積とデータラベルが回答割合を表しています。図 3-4.4 左図が男性からの回答、右図が女性からの回答となります。

両者に共通する特徴としては、右上がりの対角線よりも下側にデータが多く分布している点が挙げられます。この領域は、女子学生の比率が上がる事には賛成だが、女子枠には反対するという回答を示しています。このことから、取り組みの目指すところについては理解が得られている一方、女子枠の導入という方法論について反対意見が多いことが数値的に見て取れます。また、男女差については、男性の回答では 1 番右上(女子学生比率が上がる事にも女子枠にも賛成)と 1 番左下(女子学生比率が上がる事にも女子枠にも反対)の 2 つの点にデータ数のピークが存在するほかに、両方の質問について「どちらとも言えない」という回答をした、中央の点にも多くのデータが集まっていることが分かります。一方で、女性の回答では、右上と左下のピークは変わりませんが、男性の回答にはあった中央の点のピークが存在しておらず、男性に比べて中立的な意見を持つ学生が少ないことが分かります。また、女性については、女子枠に反対する学生は、女子学生の比率増加に反対から賛成まで広く分布している一方、女子枠に賛成する女性は多くが女子学生の比率増加に賛成していることも分かります。

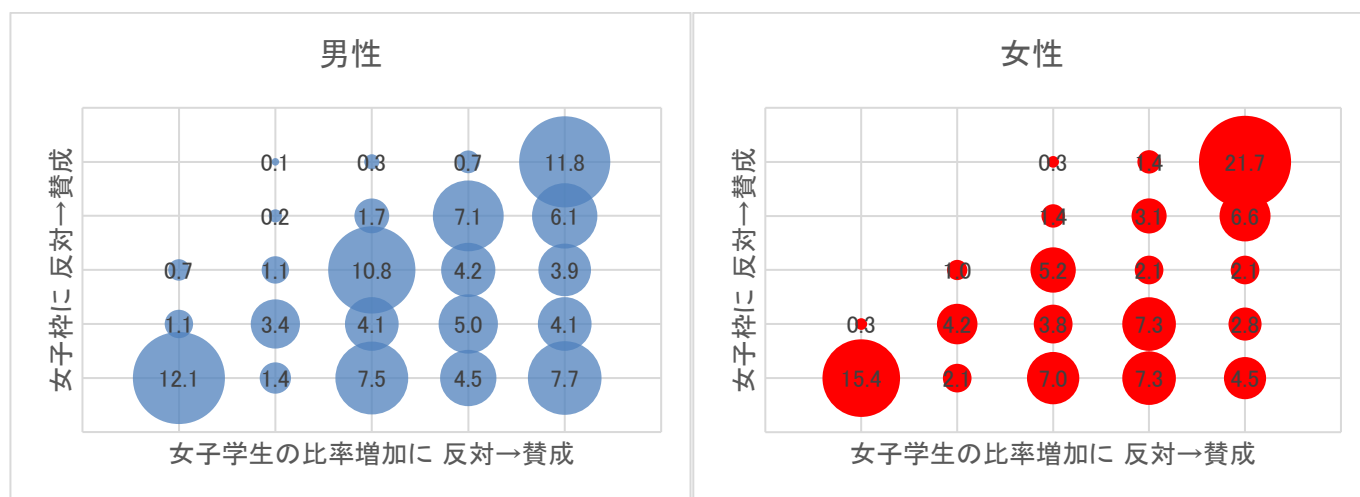


図 3-4.4 設問番号 27「女子学生の比率が増えることについてどう思いますか」と本設問の相関
左図が男性からの回答、右図が女性からの回答(数値は回答割合[%])

次に、設問番号 28「女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか」と本設問について、同様に男女別の回答データをプロットしたものが図 3-4.5 になります。全体的に見ると、右上がりの対角線の周りにデータが分布しており、女子枠の導入によって学生の学力が上がると思っている人は女子枠の導入に賛成し、学力が下がると思っている人は反対しているとみることができます。一方で、男女別に細かく見てみると分布の仕方に差がある事が分かります。男性からの回答が対角線についてほぼ線対称であるのに対して、女性からの回答では、学力が「下がると思う」や「やや下がると思う」と答えた学生は多くが女子枠の導入に反対しており、「上がると思う」や「やや上がると思う」と答えた学生は女子枠に賛成していることが分かります。このことから、女性については男性以上に女子枠への賛否と学力の向上・低下を密接に結びつけていると考えられます。

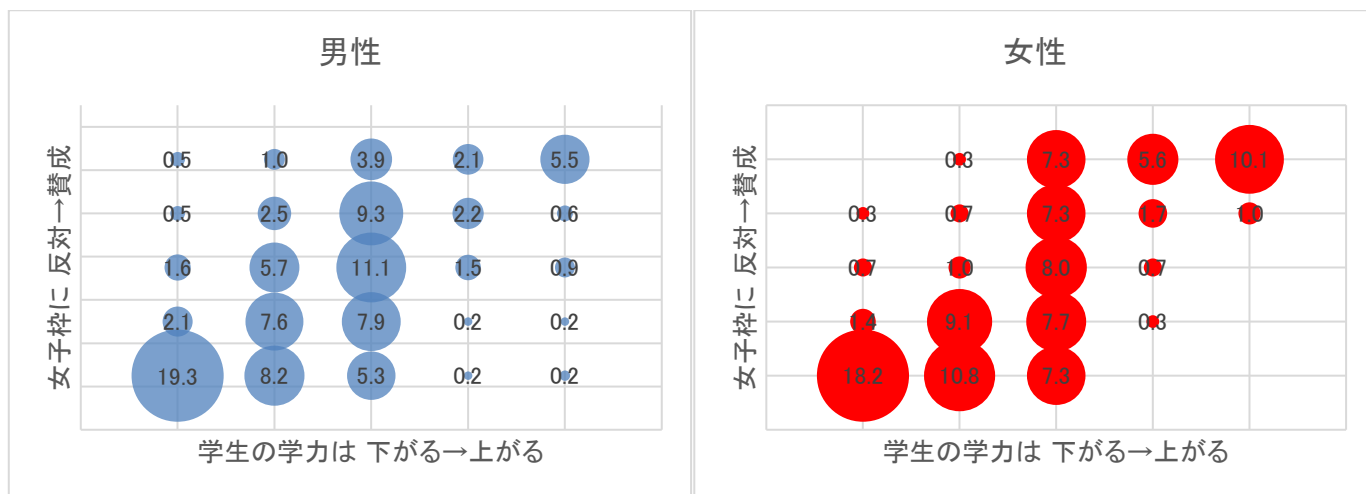


図 3-4.5 設問番号 28「女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか」と本設問の相関
左図が男性からの回答、右図が女性からの回答(数値は回答割合[%])

最後に、設問番号 29「女子枠の導入によって、学生の研究力はどうなると思いますか」への回答と、本設問への回答の相関を調べるため、同様のバブルグラフを図 3-4.6 に示します。傾向としては図 3-4.5 と同様、研究力が上がると考えている人は女子枠に賛成し、下がると考えている人は反対する傾向にあります。しかし、男性の回答について、図 3-4.5 と異なり、研究力が「下がると思う」、「やや下がると思う」と回答した人は女子枠へ反対する人が多く、「上がると思う」、「やや上がると思う」と答えた人は女子枠に賛成する傾向にあり、男性は学力よりも研究力の向上・低下と女子枠への賛否の関連が強いのではないかと推察されます。一方、女性の回答傾向は図 3-4.5 と似ており、研究力の向上・低下も女子枠への賛否と関連があるものと考えられます。一方、異なる点としては、学生の研究力について「どちらとも言えない」と答えた学生(中央の列)の回答が、女子枠への反対寄りの回答をしていることが挙げられます。この特徴は図 3-4.5 で学力がどうなるかについて「どちらとも言えない」と回答した学生が女子枠についての賛否に明確な傾向を持たなかったことと対照的であり、女性の考える「学力」と「研究力」の意味合いの違いが表れているのだと考えることができます。

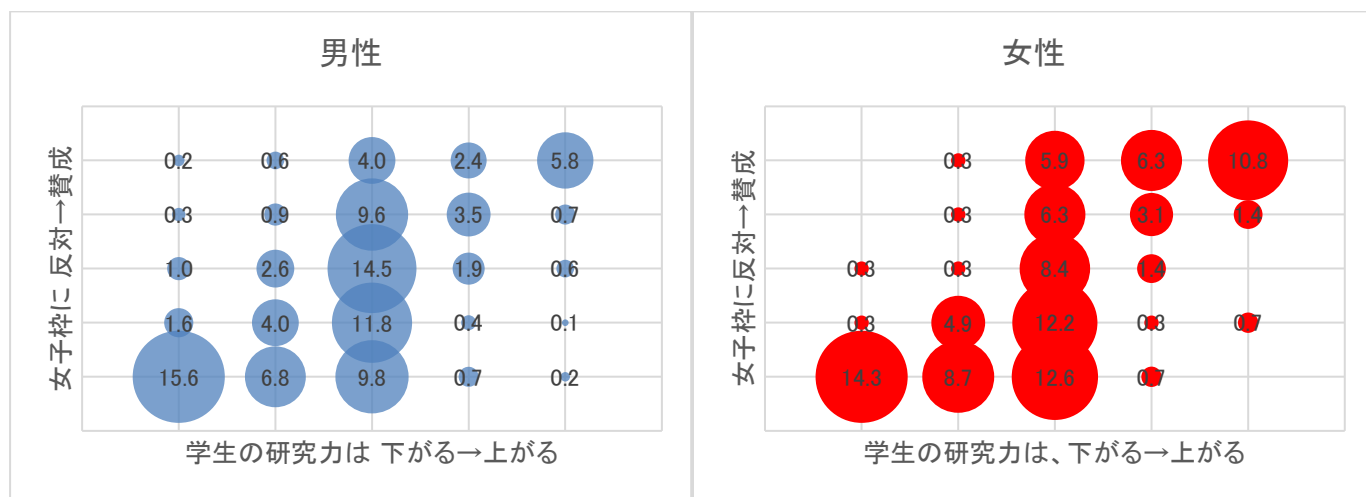


図 3-4.6 設問番号 29「女子枠の導入によって、学生の研究力はどうなると思いますか」と本設問の相関
左図が男性からの回答、右図が女性からの回答(数値は回答割合[%])

まとめ

以上のデータをまとめると、設問番号 30「女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子枠を導入するという取り組み全体についてどう思いますか」についての回答から、以下のことが分かりました。

- 女子枠の導入については、男女ともに過半数が反対している。
- 女性の方が男性より賛成も反対も多く、「どちらとも言えない」の回答が少ない。
- 課程が上がるほど女子枠に肯定的な学生の割合が増加する。
- 環境・社会理工学院所属学生は女子枠に肯定的で、逆に理学院所属学生は女子枠に否定的
- 設問番号 27 との相関から、女子枠の目的(女子比率を上げる)には賛成だが、方法論としての女子枠に反対する学生が多い。
- 設問番号 28 との相関から、学力の向上・低下についての予測と女子枠導入への賛成・反対の意向の関係は、女性の方が男性よりも強い。
- 設問番号 29 との相関から、研究力の向上・低下に関する意向は、男女ともに女子枠への賛否に関する意向と関係がある。

現状分析

本設問は、「女子枠によるダイバーシティ&インクルージョンが促進されるか」を問うた質問であり、統合についてのセクションと女子枠についてのセクションで唯一共通した設問です。「非常にそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「そう思わない」「全くそう思わない」の 5 段階と未回答の(空白)の 6 種類の回答が得られました。

図 3-5.1 を見ると「どちらとも言えない」「(空白)」という判断を留保する層が 30.4%、「非常にそう思う」「そう思う」という肯定する層が 35.1%、「全くそう思わない」「そう思わない」という否定する層が 34.5%でした。大きく肯定派と否定派に分けた場合結果は拮抗していましたが、「非常にそう思う」は 13.8%、「全くそう思わない」は 20.7%と否定派において強い意見を表明している学生が多かったです。

図 3-5.2 を見ると、女性と男性では総計とほぼ同じ割合となりました。また、性別を回答しないとした集団では、判断を保留する層が 31.9%、肯定する層が 27.7%、否定する層が 40.4%となり否定する層の割合が多くなっています。

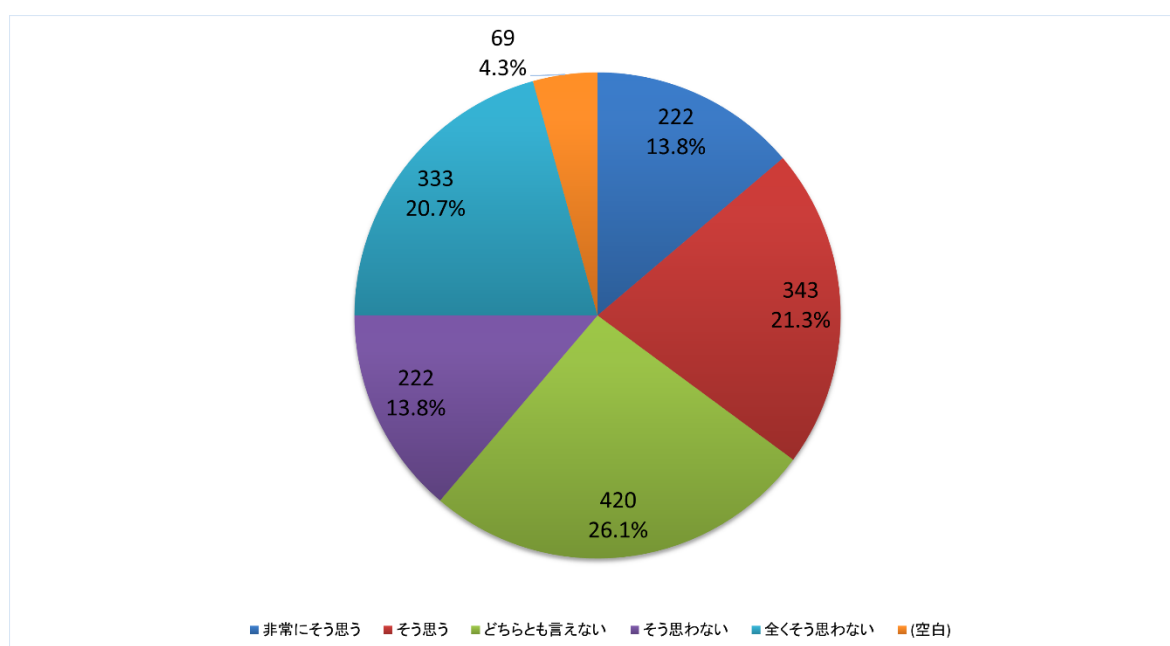


図 3-5.1 設問番号 31「女子枠によるダイバーシティ&インクルージョンが促進されるか」 総計

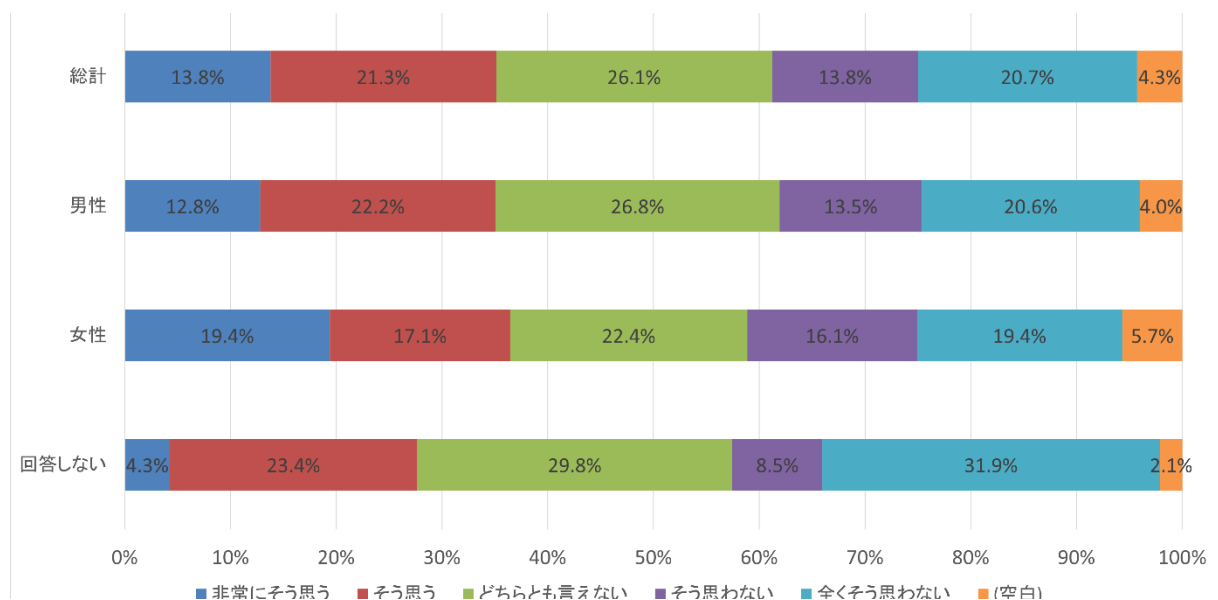


図 3-5.2 設問番号 31 性別による区分

図 3-5.3 を見ると、学院別では、工学院、理学院では肯定派がそれぞれ 33%、30%で否定派が 38%、39%と総計と比較して肯定する層が少なく、否定する層が多くなっていることがわかります。一方、環境・社会理工学院では、肯定派が 43.7%、否定派が 25.8%と肯定する層が多く、否定する層が少なくなっています。情報理工学院では、肯定派が 29.5%、否定派が 34.1%、判断を留保する層が 36.4%と総計より肯定派が少なく、判断を留保している学生が多いようです。

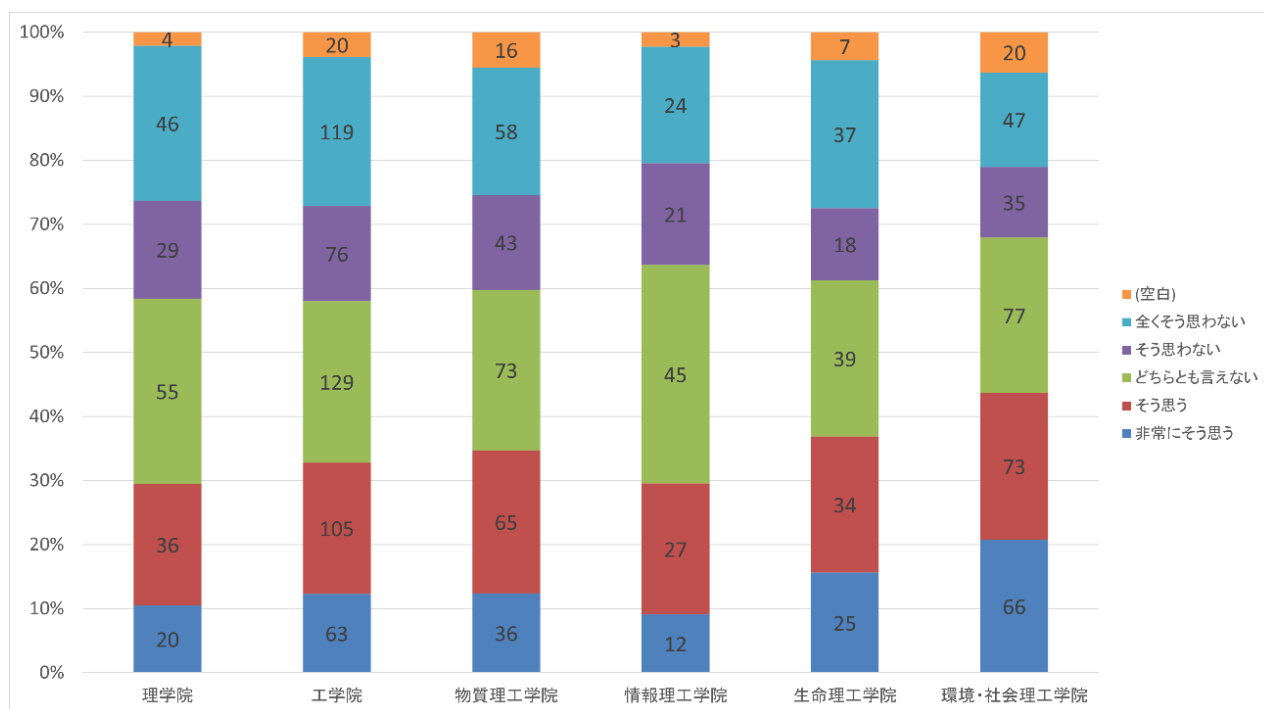


図 3-5.3 所属学院クロス集計

図 3-5.4 は設問番号 25「統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか」と設問番号 31「女子枠の導入によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか」をクロス集計した結果です。縦軸は設問番号 25 の回答結果を表しており、横軸は設問番号 31 の回答結果を表しています。0は、空白(未回答)、1 から 5 は順に「全くそう思わない」「そう思わない」「どちらとも言えない」「そう思う」「非常にそう思う」を表しています。

どちらにも「どちらとも言えない」と回答した件数が最も多く、196 件、どちらにも「そう思う」と回答した件数が 181 件、統合に「そう思う」女子枠に「どちらとも言えない」と回答した件数が 137 件、統合に「どちらとも言えない」女子枠に「全くそう思わない」と回答した件数が 118 件と続きます

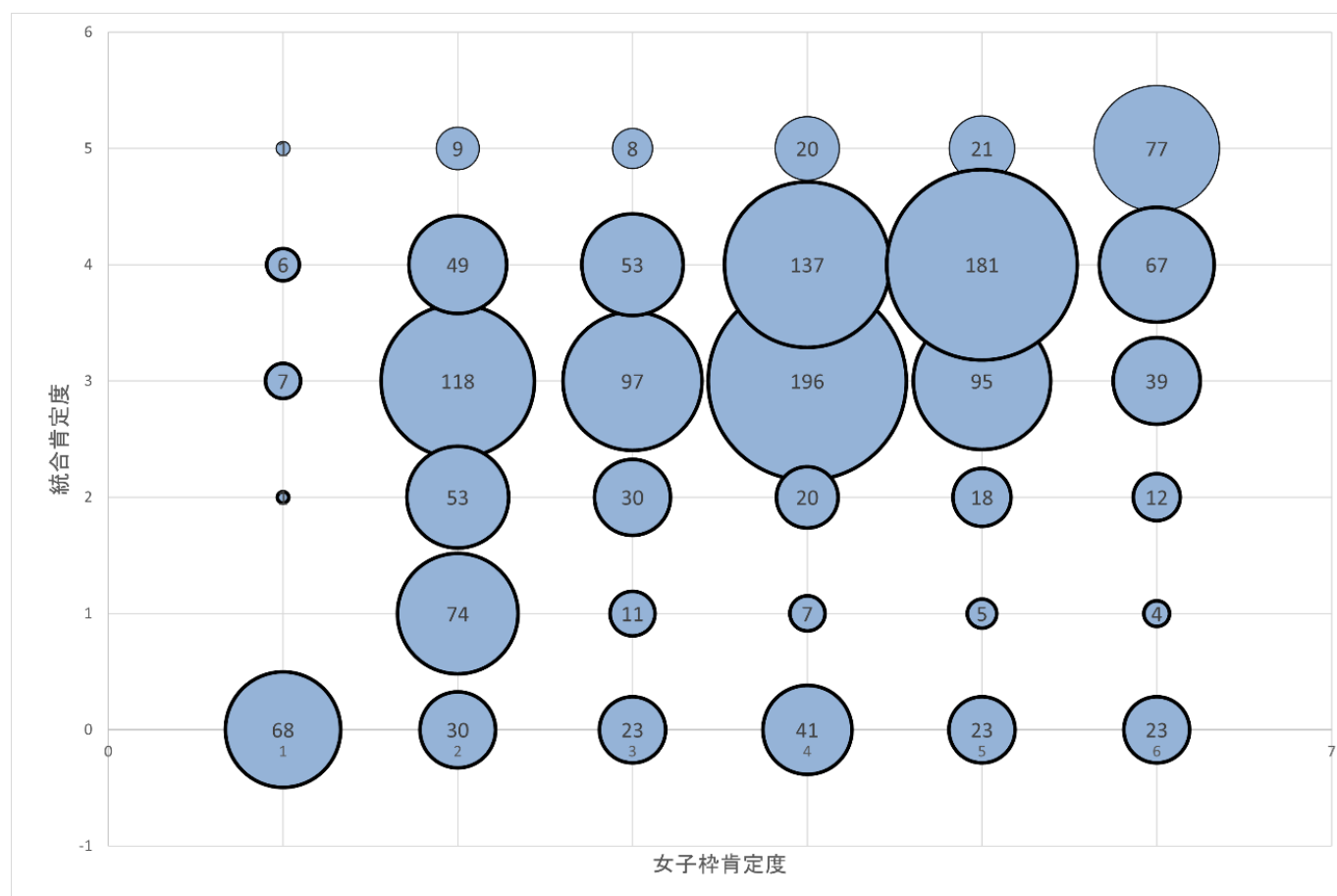


図 3-5.4 設問番号 25 と設問番号 31 のクロス集計

数字: それぞれ 0 は(空白)、1 は「全くそう思わない」、2 は「そう思わない」、3 は「どちらとも言えない」、4 は「そう思う」、5 は「非常にそう思う」、を示す。

まとめ

女子枠のダイバーシティ&インクルージョン(以下 D&I)については、総計において肯定する層と否定する層が 35%で拮抗しており、判断を留保する層は 3 割程度という結果になりました。男女別において結果は総計と大きく変わりませんでしたが、学院別では肯定と否定の均衡が崩れる学院もありました。また、統合と女子枠における D&I の肯定度の関係を見ると互いに関係があることがわかりました。今回の調査が女子枠の導入による D&I の充実を図るうえで有用なものになることを願います。

全体

設問番号 32「女子枠の導入について、意見があれば自由に記入してください」に対する自由記述には 646 件の回答をいただきました。この追加調査における他の自由記述式の設問と比べると、回答件数は最も多く、また、1 つ 1 つの回答における文章の長さが非常に長く、女子枠導入に対する学生の関心が非常に高いことがうかがえます。

具体的な意見は以下の通りです。

- 一般入試の人数削減や理学院・工学院の女子枠以外の総合型選抜の廃止は男性の入学機会を損ない、男性は不利益を被る (同様意見 121 件)
- 大学全体の学力低下につながる (同様意見 108 件)
- 「女子枠」のイメージがつくことで東工大の女性が不利益を被る (同様意見 89 件)
- 女子枠の導入自体が性差別である、性差別を広げるものである (同様意見 84 件)
- 理由があいまいで強引な方法を取っているように感じる (同様意見 71 件)
- 女子枠の実施方法を検討すべき (同様意見 55 件)
 - うち、面接内容として「女性活躍社会に貢献するために…」を問うことに対する意見 (同様意見 21 件)
- ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みとして不適切 (同様意見 41 件)
- 女性学生に対する支援の拡充や大学施設の整備の取り組みを優先すべき (同様意見 35 件)
- 学生や受験生に対する説明が不足している (同様意見 31 件)
- 女性が興味を持つよう、理系や大学自体の魅力向上・発信といった取り組みを優先すべき (同様意見 30 件)
- 研究力の低下につながる (同様意見 26 件)
- 取り組み全体の効果検証を行うべきである (同様意見 20 件)
- 大学自体の評判、ブランド力の低下につながる (同様意見 19 件)
- 他の女性学生が増えると思われる入試改革を試すべき (同様意見 19 件)
- LGBTQ、性的マイノリティへの対応を考えるべきである (同様意見 16 件)
- 女子枠導入後、それ以外の施策をきちんと打つべき (同様意見 12 件)

上記の意見を 4 項目へ大別し、分類した項目ごとに分析しました。

1. 女子枠導入への懸念

女子枠導入への懸念の声が多く寄せられました。具体的には、学力低下(同様意見 108 件)、研究力低下(同様意見 26 件)、性差別の拡大(同様意見 84 件)、大学のブランド力の低下(同様意見 19 件)などへの懸念が挙げられました。また、男性(同様意見 121 件)、女性(同様意見 89 件)共に不利益を被るのではないかとという声が挙げられました。

追加調査実施時点(2022 年 12 月 27 日から 2023 年 1 月 27 日)では、理学院・工学院の一般枠の総合型選抜が廃止されると発表されていたため、男性の総合型選抜での入学機会が失われることに対し、男性が不利益を被るという懸念の声が多く上がりました。2023 年 4 月の発表では、理学院・工学院にて女子枠導入予定の 2025 年 4 月入学の入試から女子枠との併願ができない一般枠の設置が発表されており¹、男性の総合型選抜での入学機会が失われるという懸念は解消されました。一方、一般入試の枠を削減し女子枠に充てる点についても男性の総合型選抜での入学機会が失われるという意見が多く挙げられました。女性が不利益を被るという意見の中には、東工大の女性に対し「女子枠で優遇されて入ってきた人」というイメージがつくことで、学内での男性からの差別が広がることや就職活動時の企業からの印象に悪影響をもたらすことへの懸念が多く寄せられました。

¹ 2024 年 4 月以降の入学対象の総合型・学校推薦型選抜(2023 年 4 月版): <https://www.titech.ac.jp/news/pdf/news-32328-32374-pd2.pdf> (最終閲覧日: 2023 年 6 月 29 日)

女子枠導入後の学力低下や性差別拡大への懸念から、女子枠での入学者に対するサポート体制の構築(主に数Ⅲの知識を中心とした学力面でのサポートや偏見・差別に対するケア、キャリア支援など)や、ジェンダー論について学び議論する機会を設けるなどの施策を打つべきという意見も寄せられました。

2. 女子枠導入以外の取り組みを求める声

女子枠導入以前に、女性がより理系に進みたくるようにするための、理系の魅力発信活動(同様意見 30 件)や、女性支援のための制度拡充や、施設整備に取り組むべきという意見(同様意見 35 件)も多く寄せられました。理系の魅力発信活動としては、小中学生に対する発信活動や、女性が理系に進むと婚期が遅れたり、出世できなかったりする等の不利益を被るイメージを払拭すべきという意見が挙げられていました。また、女性対象の奨学金制度導入等の経済的負担に対する支援を進める方が女性比率の向上につながるのではないかと、女性学生比率が増えたとしても研究者としてのキャリアを進む上での支援やトイレや休憩所等の大学施設の整備に取り組まないと理系の職に就く女性や女性研究者を増やすことにはつながらない、という意見もありました。

「女子枠」を設けずとも、他に女子学生が増えると思われる入試制度改革を先に試すべきという意見も多くあげられていました(同様意見 19 件)。具体的には、生物科目を用いた入試の導入、英語や国語の配点比率を大きくする、総合型選抜を増やす、といった施策についての意見が寄せられました。

ダイバーシティ&インクルージョンを推進する上での施策として女子枠の導入は不適切であるという意見も多く寄せられました(同様意見 41 件)。具体的には、性別を男女のみで分けていることや、男女格差を男女の割合という数字だけで評価していることを問題視する意見、男女格差よりも地方と都市部の格差是正を行うべきという意見などが寄せられました。東工大で女子枠を導入するだけでは、別の大学に入るはずだった女子生徒が東工大に来るだけであり、国内全体としての理系の女子比率を上げることにはつながらないという趣旨の意見もありました。

3. 選抜方法への意見

選抜方法の見直しを求める意見も多く寄せられました(同様意見 55 件)。「女子枠」というネーミングの見直しを求める意見や、一般入試で女子枠を設けるべきという意見も見られましたが、最も多かった意見は、工学院、物質理工学院、情報理工学院で面接や志望理由書にて「女性活躍社会に貢献するために」¹⁹ 学びたいことを問うことへの疑問や、反対の意見(同様意見 21 件)でした。「女性活躍社会に貢献するために」¹⁹ 学びたいことを問うことは、女性だけが女性活躍社会に貢献するものと捉える行為であり不信感がある、女子生徒に女性としての意見を求める行為であり押し付けがましく感じる、不適切であると感じるという意見が寄せられました。

また、LGBTQ、性的マイノリティの人への対応の方針が明確に定まっていないことを問題視する意見もありました(同様意見 16 件)。

4. 執行部の進め方への不満

女子枠導入に関しての理由があいまいで強引な方法を取っているように感じるという指摘(同様意見 71 件)や、学生や受験生に対する説明が不足している(同様意見 31 件)という意見が挙げられました。具体的には、女子枠導入以外にも考えられる策がある一方で、女子枠導入に踏み切るまでの議論の経緯が知りたいという意見や、学長による説明会での質疑対応が不誠実ではぐらかされているように感じた、本音を語っていないと感じたという意見がありました。今の大人たちが残した負の遺産の解消をするために我々学生たちに我慢しろというのはおかしいといった趣旨の意見も寄せられました。

女子枠導入の効果検証を行い、取り組みの評価をするべきであるという意見も挙げられています(同様意見 20 件)。導入に向けての説明だけでなく、導入後も継続した説明を求める声が挙がっています。

まとめ

女子枠導入に対して多数の意見が寄せられました。学力や研究力の低下や性差別拡大を危惧する声、入試、学内外からの印象などあらゆる観点において男女ともに不利益を受けるのではないかという懸念の声が多くあがっています。学長による学内説明会が開催されていてもなお、女子枠導入の理由があいまいで、強引であると感じている学生は多いです。

女子枠導入よりも優先すべきダイバーシティ&インクルージョンへの取り組みがあると感じている学生が多いことから、女子枠導入に至った経緯の説明や導入後の学生との対話を継続していただきたいです。

特定の学院の入試制度に対する改善意見も挙げられています。理学院・工学院の一般枠総合型選抜の廃止に対する意見や工学院、物質理工学院、情報理工学院の志望理由書、面接で「女性活躍社会に貢献するために」学びたいことを一女子生徒に求める試験内容についてなどは多く指摘されています。内容について改めて検討していただきたいです。

また、性差別の拡大を危惧する声が多く上がっていることから、女子枠導入により達成したいダイバーシティ&インクルージョンの形を学生に説明し続けることのみならず、女子枠で入学する学生へのケアについても検討していただきたいです。

4. 調査資料集

本章では 2022 年 12 月 27 日から 2023 年 1 月 27 日にかけて行われた学勢調査 2022 追加調査の集計結果を掲載します。ここに掲載する集計結果は、自由記述の調査項目以外の結果全てです。集計結果のグラフや表中の数字は、該当選択肢への回答者数です。今回の総回答者数は 1623 名です。なお、一部の調査項目は、表記の都合上、実際の質問文とは表現が異なる場合があります。

4.1 基本情報

設問番号 1: 現在あなたの所属している課程を教えてください。

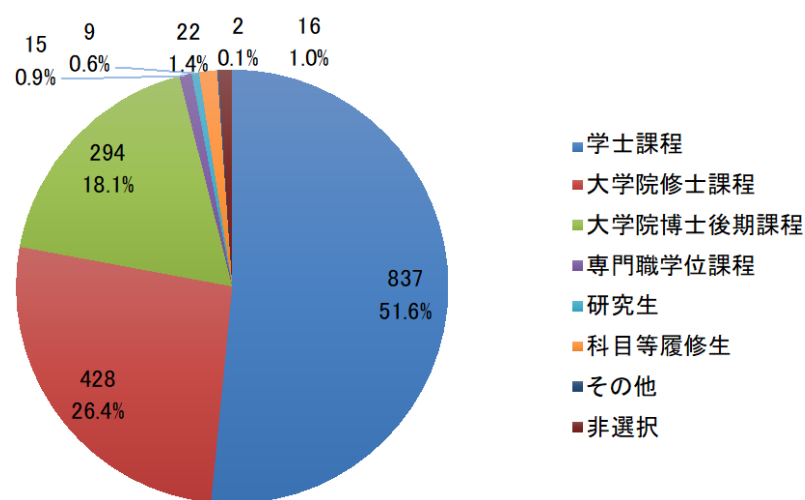


図 4-1.1 所属課程

設問番号 2: あなたの受験方式を教えてください。

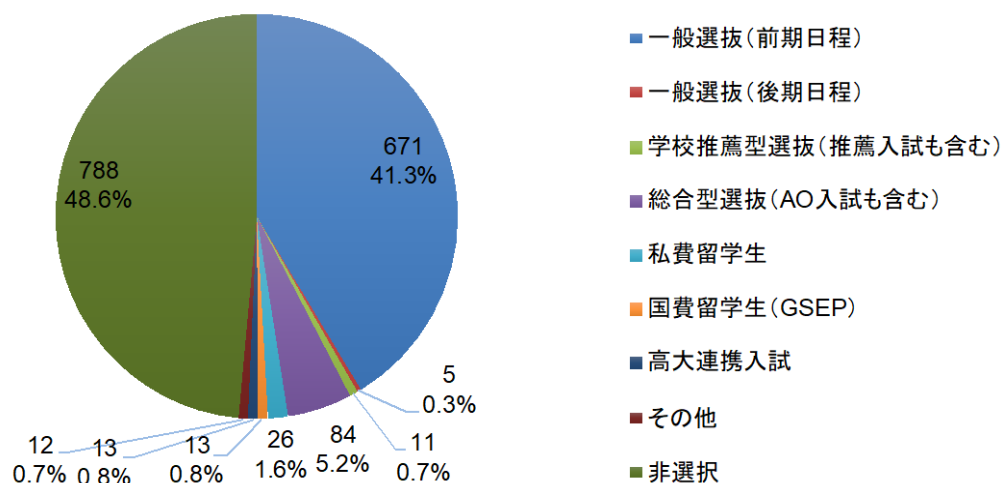


図 4-1.2 受験方式

設問番号 3: 現課程への入学年度を教えてください。

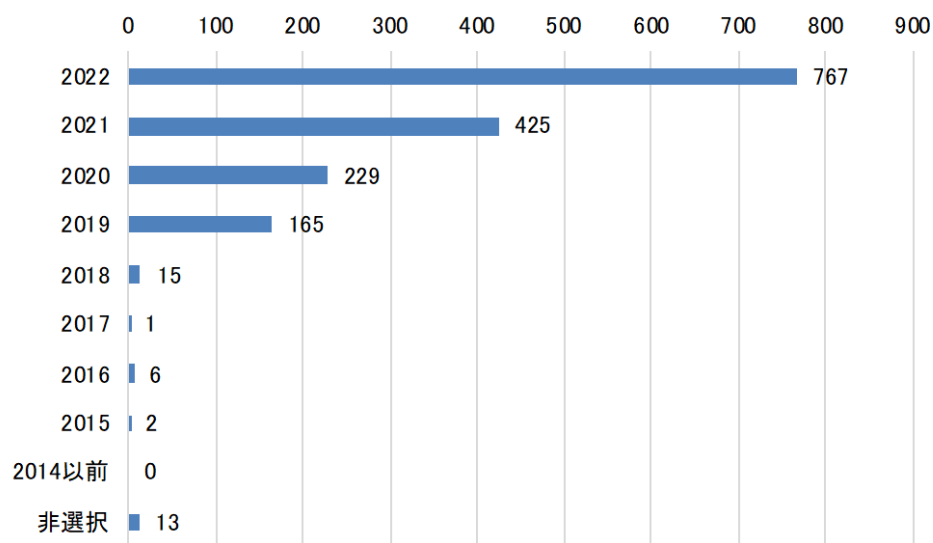


図 4-1.3 現課程への入学年度

設問番号 4: 高専や他大学に在籍していたことがあるか。

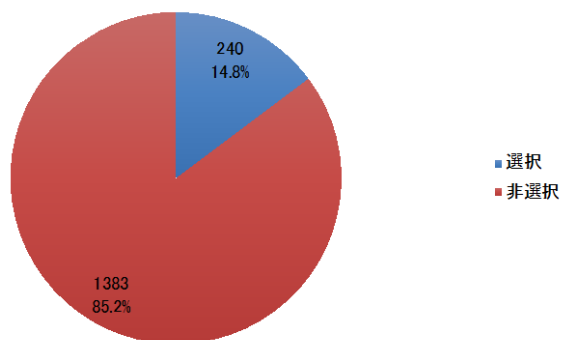


図 4-1.4 高専・他大学への在籍経験

留学生であるか。

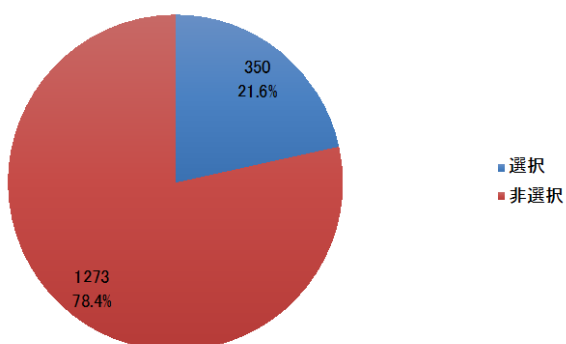


図 4-1.5 留学生であるか

設問番号 5: あなたの所属する学院を教えてください。

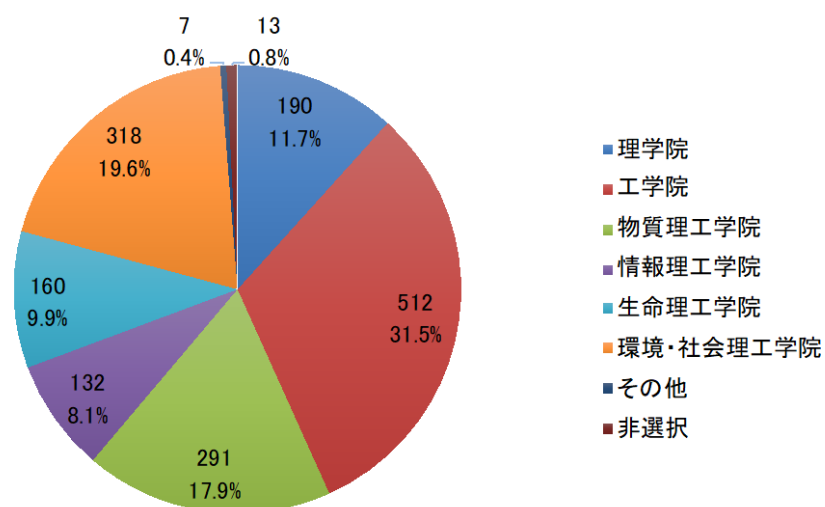


図 4-1.6 所属学院

設問番号 6: 性別

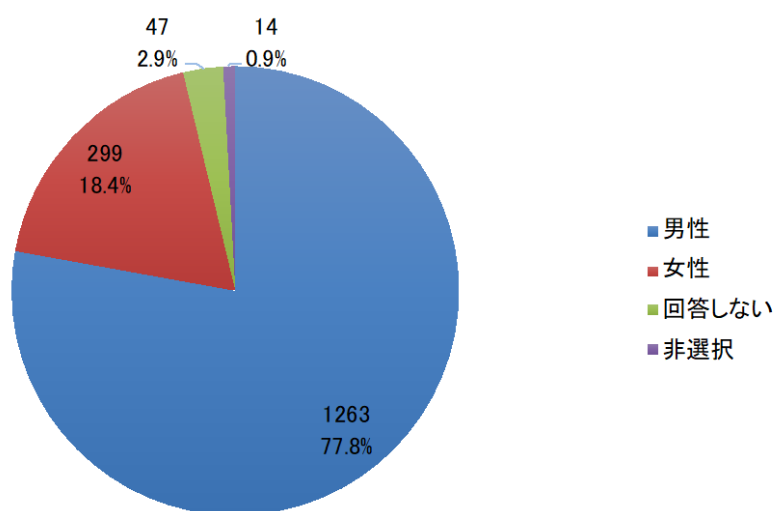


図 4-1.7 性別

設問番号 7: サークル等の課外活動について、参加しているものがあれば教えてください。（複数選択可）

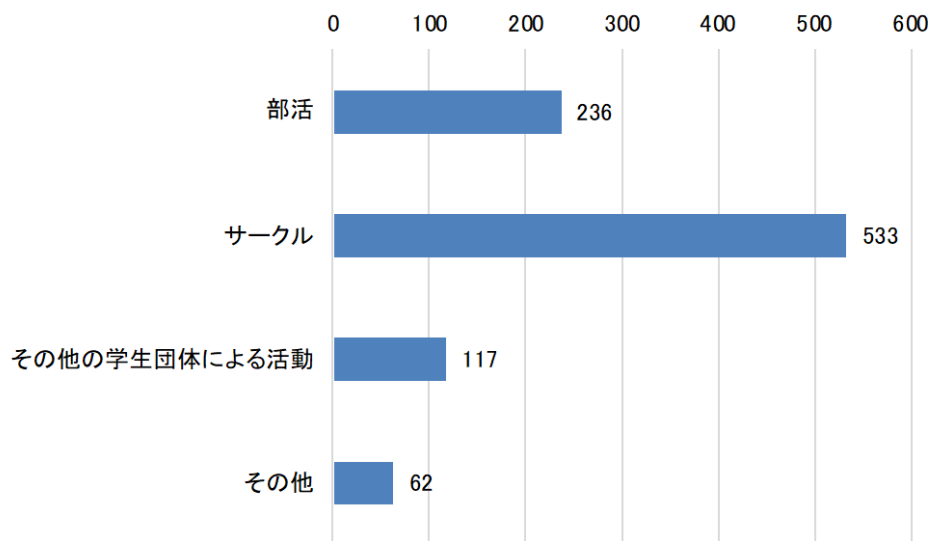


図 4-1.8 部活・サークル・その他の学生団体への参加の有無

設問番号 8: 2024 年度に大学が統合後、在籍予定ですか。

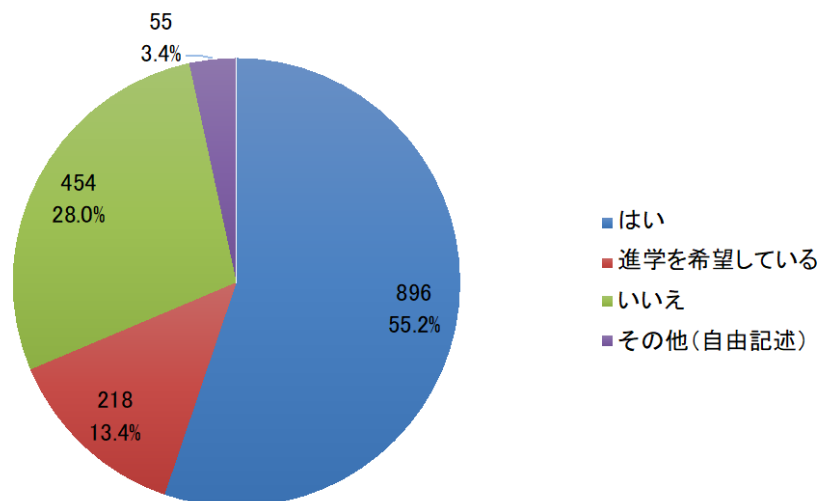


図 4-1.9 2024 年度に大学が統合後、在籍予定であるか

4.2 東京医科歯科大学との統合

設問番号 9: 統合後の新大学はどのようにあるべきですか。（複数選択可）

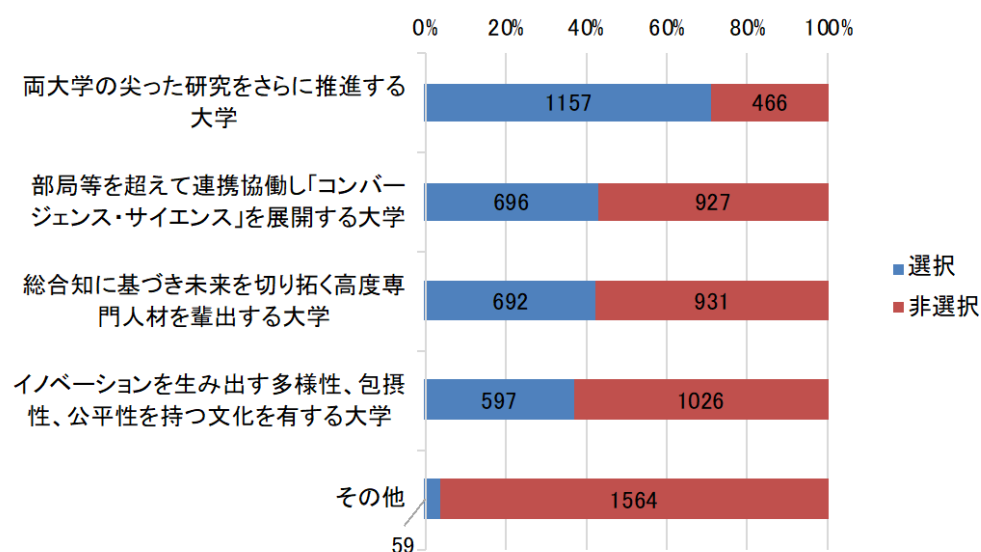


図 4-2.1 統合後の新大学はどのようにあるべきか

設問番号 10: 統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性を教えてください。（複数選択可）

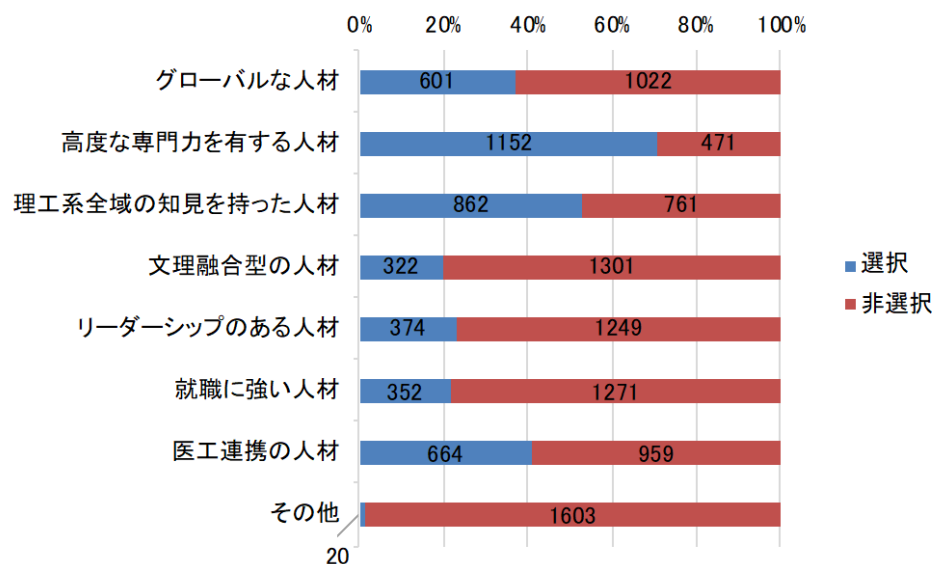


図 4-2.2 統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性

設問番号 11: 統合による、あなた自身にとってのメリットはどこにあると思いますか。（複数選択可）

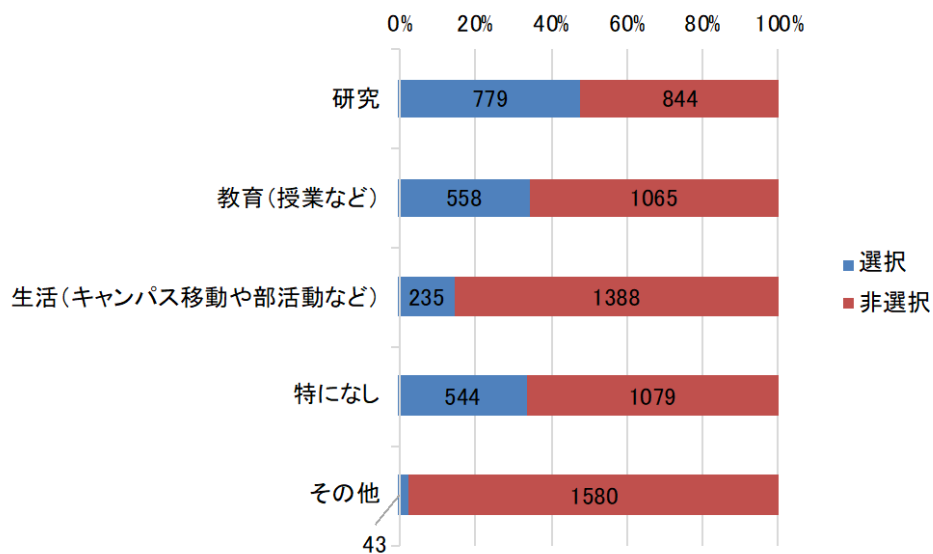


図 4-2.3 統合による、あなた自身にとってのメリット

設問番号 12: 統合による、あなた自身にとってのデメリットはどこにあると思いますか。（複数選択可）

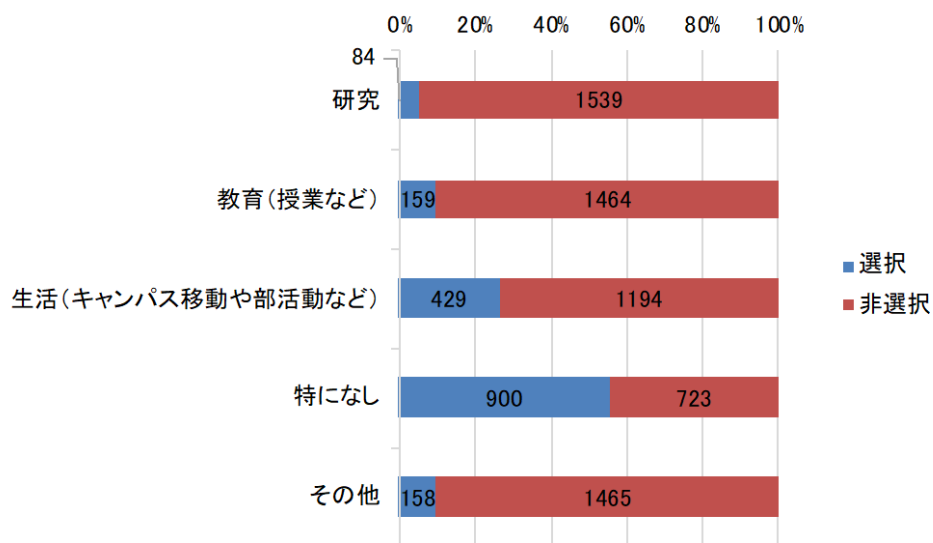


図 4-2.4 統合による、あなた自身にとってのデメリット

設問番号 13: 東京医科歯科大学で行われている部活・サークル・学生団体などの活動について知っていますか、また参加したい活動はありますか。

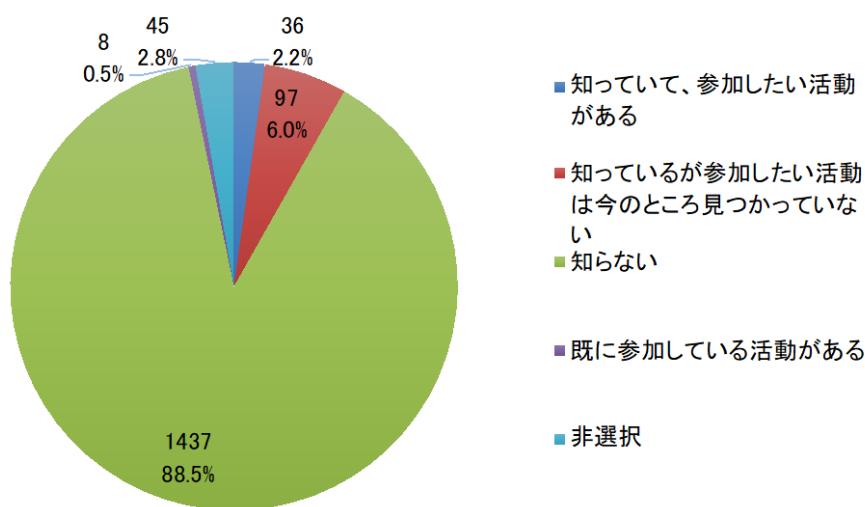


図 4-2.5 東京医科歯科大学で行われている学生活動について知っているか、参加したいか

設問番号 14: 統合によって学士課程入試の受験倍率は現在の東京工業大学と比べてどうなると思いますか。

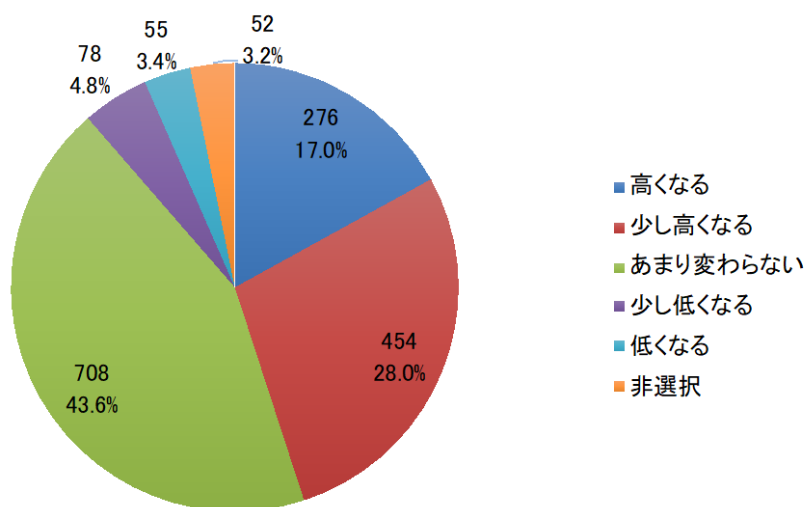


図 4-2.6 統合によって学士課程入試の受験倍率は現在の東京工業大学と比べてどうなると思うか

設問番号 15: 統合によって世界大学ランキングは現在の東京工業大学と比べてどうなると思いますか。

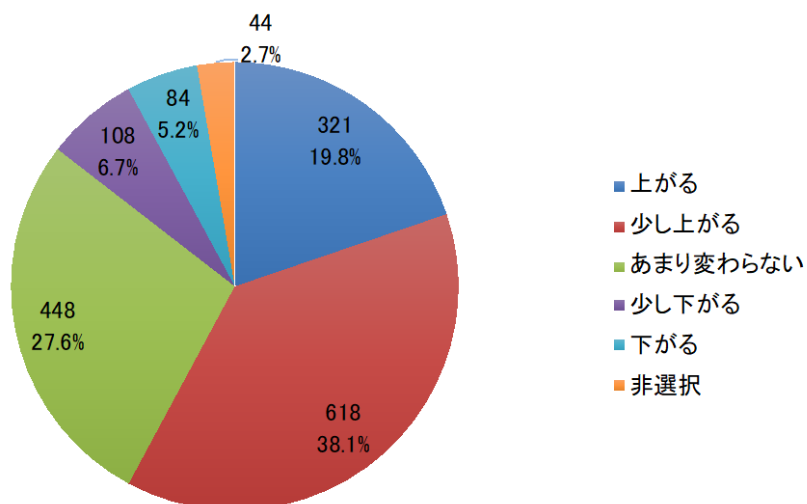


図 4-2.7 統合によって世界大学ランキングは現在の東京工業大学と比べてどうなると思うか

設問番号 16: 統合はあなた自身の就職活動に良い影響を与えますか。

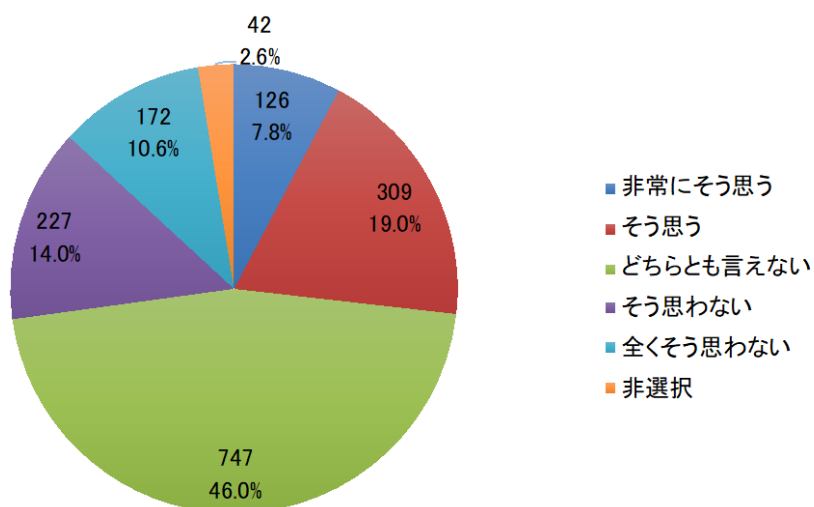


図 4-2.8 統合はあなた自身の就職活動に良い影響を与えると思うか

設問番号 17: 統合後の新大学が学外に対して積極的にアピールするべきだと感じるポイントを教えてください。（複数選択可）

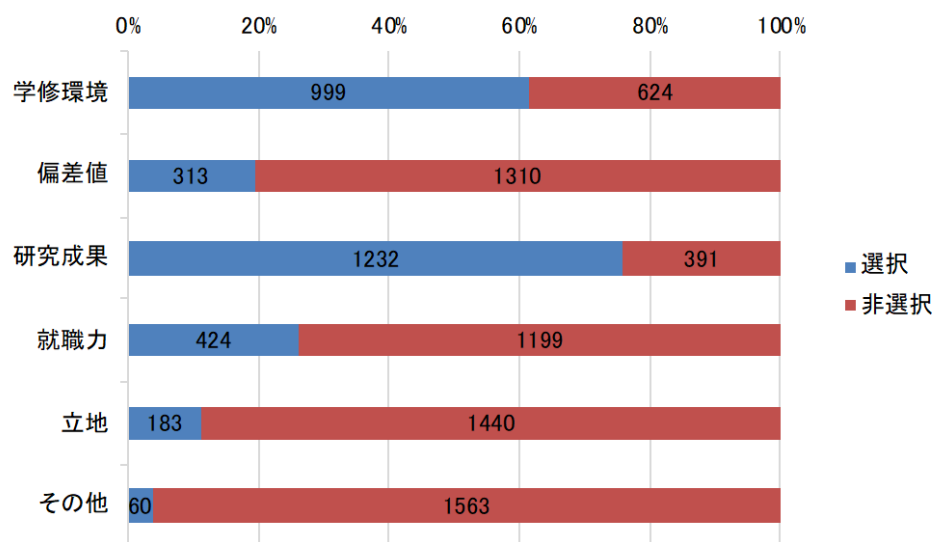


図 4-2.9 統合後の新大学が学外に対して積極的にアピールするべきだと感じるポイント

設問番号 18: あなたは統合を楽しみにしていますか。

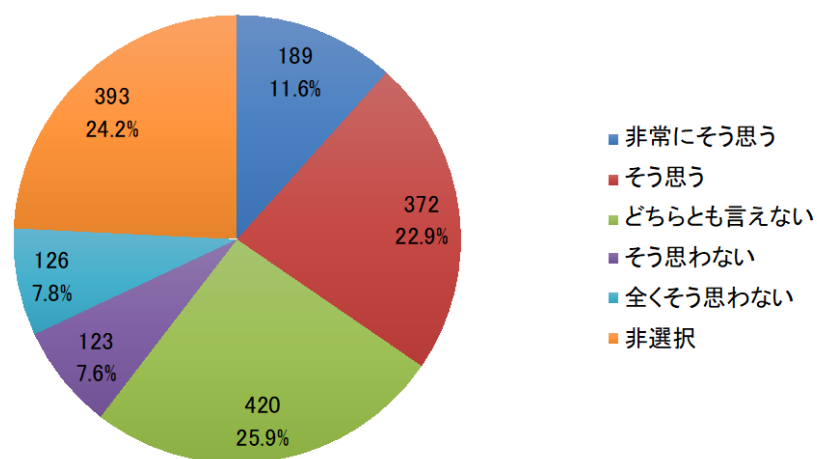


図 4-2.10 統合を楽しみにしているか

設問番号 19: 統合に対する周囲（東工大生以外、家族など）の反応は好意的だと思いますか。

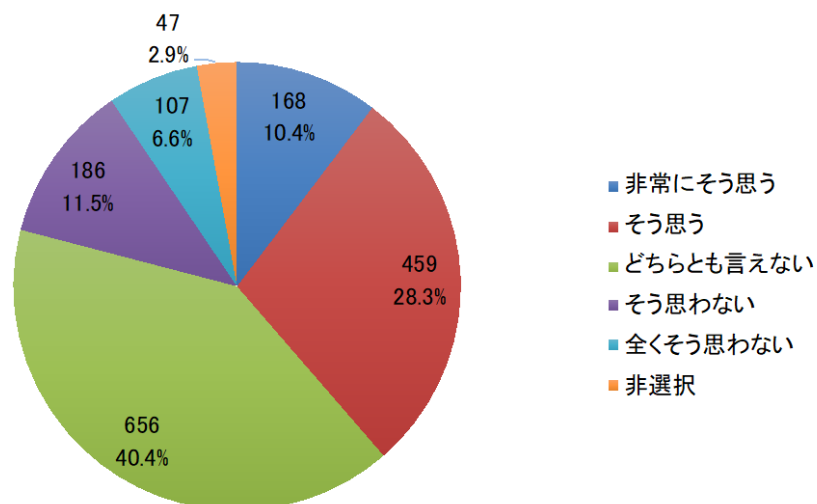


図 4-2.11 統合に対する周囲の反応は好意的だと思うか

設問番号 20: あなたは東京工業大学という名称が変更されることについて受け入れていますか。

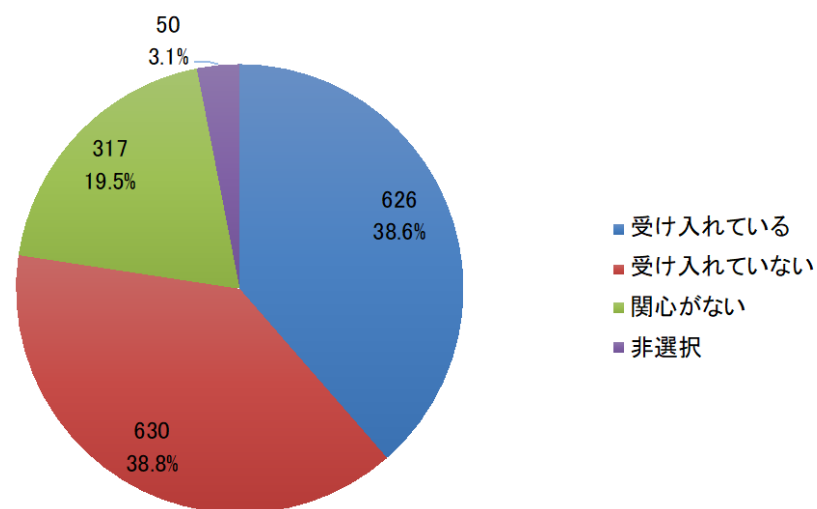


図 4-2.12 東京工業大学という名称が変更されることについて受け入れているか

設問番号 25: 統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか。

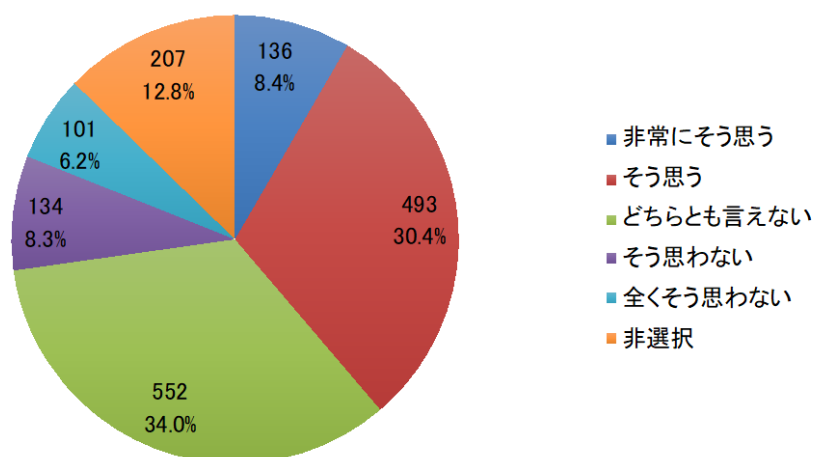


図 4-2.13 統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思うか

4.3 女子枠導入

設問番号 27: 女子学生の比率が増えることについてどう思いますか。

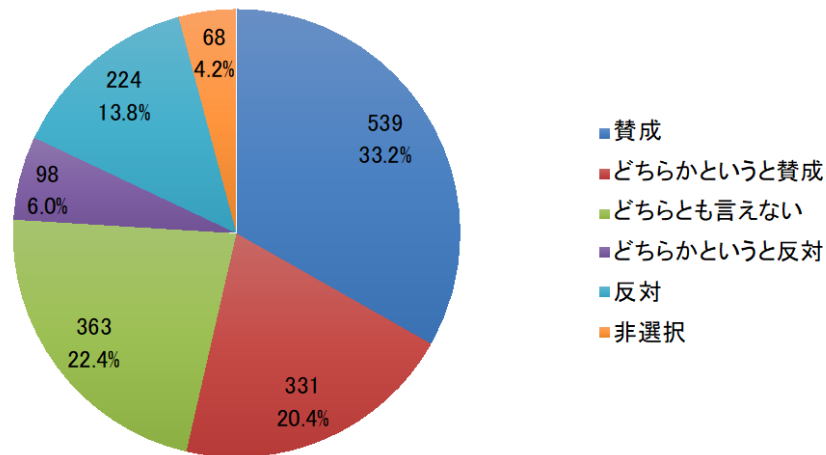


図 4-3.1 女子学生の比率が増えることについてどう思うか

設問番号 28: 女子枠の導入によって、**学生の学力**はどうなると思いますか。

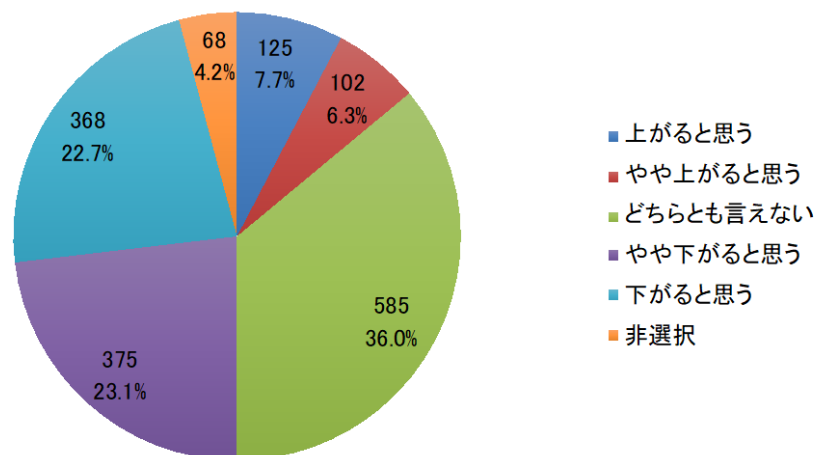


図 4-3.2 女子枠導入によって、学生の学力はどうなると思うか

設問番号 29: 女子枠の導入によって、**学生の研究力**はどうかと思いますか。

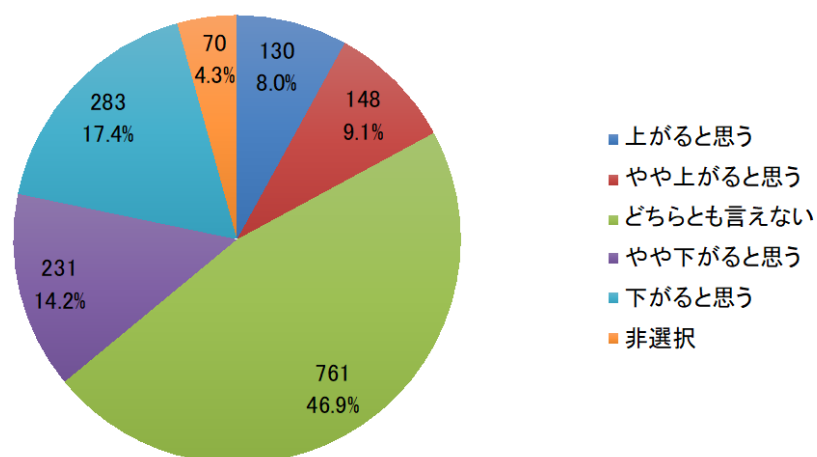


図 4-3.3 女子枠の導入によって、学生の研究力はどうかと思うか

設問番号 30: 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、**女子枠を導入する**という取り組み全体についてどう思いますか。

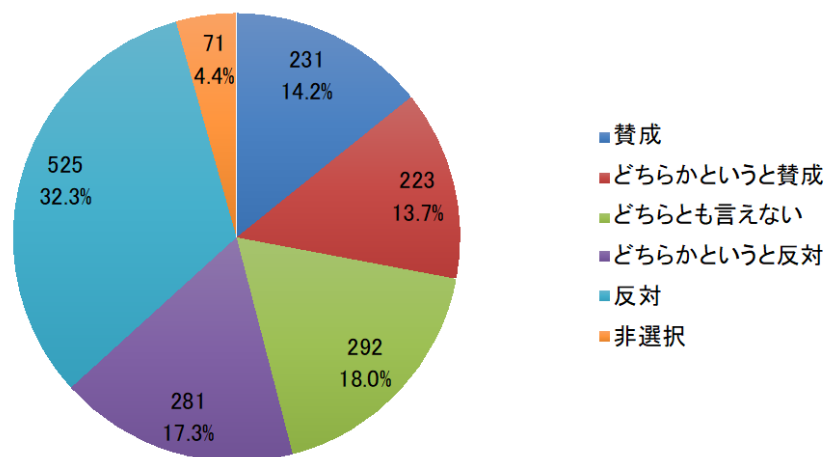


図 4-3.4 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子枠導入という取り組み全体についてどう思うか

設問番号 31: 女子枠の導入によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか。

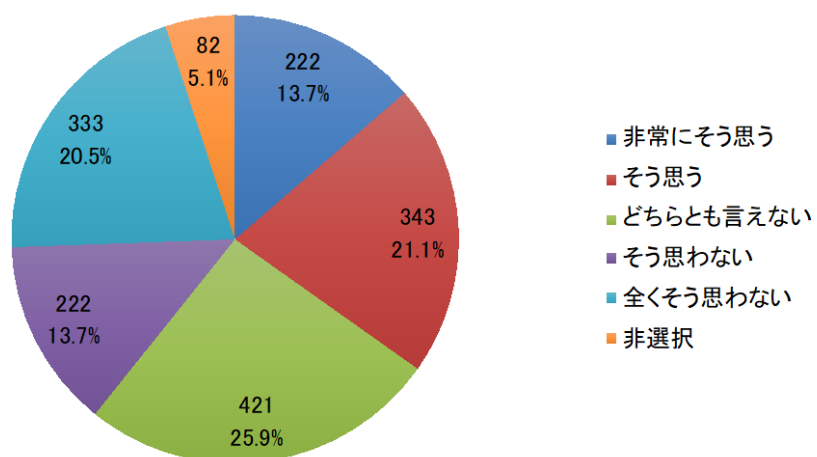


図 4-3.5 女子枠の導入によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思うか

4.4学勢調査 2022 追加調査 設問一覧(日本語)

○:ラジオボタン □:チェックボックス

I. 基本

設問番号 1 現在あなたの所属している課程を教えてください。

○学士課程 ○大学院修士課程 ○大学院博士後期課程 ○専門職学位課程 ○研究生 ○科目等履修生 ○その他

設問番号 2 あなたの受験方を教えてください

○一般選抜(前期日程) ○一般選抜(後期日程) ○学校推薦型選抜(推薦入試も含む) ○総合型選抜(AO 入試も含む) ○私費留学生 ○国費留学生(GSEP) ○高大連携入試 ○その他

設問番号 3 現課程への入学年度を教えてください

○2022 ○2021 ○2020 ○2019 ○2018 ○2017 ○2016 ○2015 ○2014 以前

設問番号 4 以下に該当する方はチェックを入れてください(複数選択可)

□高専や他大学に在籍していたことがある □留学生である

設問番号 5 あなたの所属する学院の所属を教えてください

○理学院 ○工学院 ○物質理工学院 ○情報理工学院 ○生命理工学院 ○環境・社会理工学院 ○その他(自由記述)

設問番号 6 性別

○男性 ○女性 ○回答しない

設問番号 7 サークル等の課外活動について、参加しているものがあれば教えてください(複数選択可)

□部活 □サークル □その他の学生団体による活動 □その他(自由記述)

設問番号 8 2024 年度に大学が統合後、在籍予定ですか

○はい ○進学を希望している ○いいえ ○その他(自由記述)

II. 東京医科歯科大学との統合

東京医科歯科大学との統合についてお聞きます

大学統合に向けての情報や資料は、本学 HP 東工大ニュース「国立大学法人東京工業大学と国立大学法人東京医科歯科大学の統合に向けた基本合意書を締結」(<https://www.titech.ac.jp/news/2022/065089>)に掲載されています。

設問番号 9 統合後の新大学はどのようにあるべきですか

以下の 4 つは大学側が提示しているものですが、賛同するものにチェックを入れるとともに、学生の皆さんが考える大学像があれば「その他」の自由記述へお願いします(複数選択可)

※「コンバージェンス・サイエンス」とは

歴史的に異なる複数の学問領域が融合し、これが単なる加算(1+1=2)ではなく、収斂後に新しい学問領域を生み出すことで未知の課題を発見し、社会課題を解決していくアプローチ(1+1>2)をコンバージェンス・サイエンスという。(東京工業大学「法人統合および大学統合について」<https://www.titech.ac.jp/news/pdf/tokyotechpr20221014-integration2.pdf> より引用)

□両大学の尖った研究をさらに推進する大学

□部局等を超えて連携協働し「コンバージェンス・サイエンス」を展開する大学

□総合知に基づき未来を切り拓く高度専門人材を輩出する大学

☐イノベーションを生み出す多様性、包摂性、公平性を持つ文化を有する大学

☐その他(自由記述)

設問番号 10 統合後の新大学が人材育成において目指すべき方向性を教えてください(複数選択可)

☐グローバルな人材

☐高度な専門力を有する人材

☐理工系全域の知見を持った人材

☐文理融合型の人材

☐リーダーシップのある人材

☐就職に強い人材

☐医工連携の人材

☐その他(自由記述)

設問番号 11 統合による、あなた自身にとってのメリットはどこにあると思いますか(複数選択可)

☐研究

☐教育(授業など)

☐生活(キャンパス移動や部活動など)

☐特になし

☐その他(自由記述)

設問番号 12 統合による、あなた自身にとってのデメリットはどこにあると思いますか(複数選択可)

☐研究

☐教育(授業など)

☐生活(キャンパス移動や部活動など)

☐特になし

☐その他(自由記述)

設問番号 13 東京医科歯科大学で行われている部活・サークル・学生団体などの活動について知っていますか、また参加したい活動はありますか

☐知っていて、参加したい活動が

ある ☐知っているが参加したい活動は今のところ見つかっていない ☐知らない ☐既に参加している活動がある

設問番号 14 統合によって学士課程入試の受験倍率は現在の東京工業大学と比べてどうなると思いますか

☐高くなる ☐少し高くなる ☐あまり変わらない ☐少し低くなる ☐低くなる

設問番号 15 統合によって世界大学ランキングは現在の東京工業大学と比べてどうなると思いますか

☐上がる ☐少し上がる ☐あまり変わらない ☐少し下がる ☐下がる

設問番号 16 統合はあなた自身の就職活動に良い影響を与えますか

☐非常にそう思う ☐そう思う ☐どちらとも言えない ☐そう思わない ☐全くそう思わない

設問番号 17 統合後の新大学が学外に対して積極的にアピールするべきだと感じるポイントを教えてください(複数選択可)

☐学修環境

☐偏差値

☐研究成果

☐就職力

☐立地

□その他(自由記述)

設問番号 18 あなたは統合を楽しみにしていますか

○非常にそう思う ○そう思う ○どちらとも言えない ○そう思わない ○全くそう思わない

設問番号 19 統合に対する周囲(東工大生以外、家族など)の反応は好意的だと思いますか

○非常にそう思う ○そう思う ○どちらとも言えない ○そう思わない ○全くそう思わない

設問番号 20 あなたは東京工業大学という名称が変更されることについて受け入れていますか

○受け入れている ○受け入れていない ○関心がない

設問番号 21 現行の東工大の制度のうち、統合後も変えないで欲しい制度は何かありますか、またそれはなぜですか(自由記述)

例:学修カリキュラム、系・研究室所属システム、大学院入試システム(A,B 日程など)、T2SCHOLA 等学修システム、留学制度など

設問番号 22 現行の東工大の制度のうち、統合を機に変えて欲しいものは何かありますか、またどう変わって欲しいですか(自由記述)

例:学修カリキュラム、系・研究室所属システム、大学院入試システム(A,B 日程など)、T2SCHOLA 等学修システム、留学制度など

設問番号 23 統合後、異なる所属の学生間の交流を推進するために継続または新設してほしい制度はありますか(自由記述)

例:ユニット制、転系制度など

設問番号 24 統合後、情報基盤システムに関して何か要望はありますか(自由記述)

例:ドメインネーム、東工大ポータル、T2SCHOLA、Slack、Box 等は残してほしい

設問番号 25 統合によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか(自由記述)

※ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)については、本学 HP「東工大ダイバーシティ&インクルージョン」([\[https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion\]](https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion))を参照してください。

○非常にそう思う ○そう思う ○どちらとも言えない ○そう思わない ○全くそう思わない

設問番号 26 統合について、意見があれば自由に記入してください(自由記述)

Ⅲ. 女子枠導入

女子学生を増やすための入試制度である女子枠導入についてお聞きます

女子枠導入に関する情報や資料は、本学 HP 東工大ニュース「東京工業大学が総合型・学校推薦型選抜で 143 人の「女子枠」を導入」([\[https://www.titech.ac.jp/news/2022/065237\]](https://www.titech.ac.jp/news/2022/065237))に掲載されています。

設問番号 27 女子学生の比率が増えることについてどう思いますか

○賛成 ○どちらかという賛成 ○どちらとも言えない ○どちらかという反対 ○反対

設問番号 28 女子枠の導入によって、学生の学力はどうなると思いますか

○上がると思う ○やや上がると思う ○どちらとも言えない ○やや下がると思う ○下がると思う

設問番号 29 女子枠の導入によって、学生の研究力はどうなると思いますか

○上がると思う ○やや上がると思う ○どちらとも言えない ○やや下がると思う ○下がると思う

設問番号 30 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子枠を導入するという取り組み全体についてどう思いますか

○賛成 ○どちらかという賛成 ○どちらとも言えない ○どちらかという反対 ○反対

設問番号 31 女子枠の導入によってダイバーシティ&インクルージョンが促進されると思いますか

※ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)については、本学 HP「東工大ダイバーシティ&インクルージョン」
([<https://www.titech.ac.jp/diversity-inclusion>])を参照してください。

○非常にそう思う ○そう思う ○どちらとも言えない ○そう思わない ○全くそう思わない

設問番号 32 女子枠の導入について、意見があれば自由に記入してください(自由記述)

IV. 全体

学勢調査 2022 の追加調査についてお聞きます

設問番号 33 本追加調査について、意見があれば自由に記入してください(自由記述)

4.5 Questions of Student Survey 2022: Additional Questions

☐ : radio button ☐ : check box

I . Basic information

Question 1: What is your current status at Tokyo Tech?

- ☐ Bachelor's degree student ☐ Master's degree student ☐ Doctoral degree student
☐ Professional master's degree student ☐ Research student ☐ Non Degree Students
☐ Other

Question 2: What was your path to admission?

- ☐ Regular entrance exam (first round) ☐ Regular entrance exam (second round) ☐ School recommendation ☐ Administrative admission exam (inclusive of AO exam) ☐ Admitted as a privately funded international student ☐ Admitted as a MEXT scholarship student (GSEP) ☐ Entrance exam under a high school–university collaboration ☐ Other

Question 3: Year enrolled in your current program.

- ☐ 2022 ☐ 2021 ☐ 2020 ☐ 2019 ☐ 2018 ☐ 2017 ☐ 2016 ☐ 2015 ☐ 2014 or before

Question 4: Check the items that apply.

- ☐ I have attended other technical colleges or universities.
☐ I am an international student.

Question 5: Which school are you affiliated with?

- ☐ School of Science ☐ School of Engineering ☐ School of Material and Chemical Technology ☐ School of Computing ☐ School of Life Science and Technology ☐ School of Environment and Society ☐ Other (please specify)

Question 6: Gender

- ☐ Male ☐ Female ☐ Rather not specify

Question 7: What extracurricular activities, if any, do you participate in (multiple selections allowed) ?

- ☐ School clubs ☐ Student clubs ☐ Other student organizations ☐ Other (please specify)

Question 8: At the time of the university integration in AY 2024, will you be studying at your current program at Tokyo Tech?

- ☐ Yes. ☐ I plan to advance to a higher program. ☐ No. ☐ Other (please specify)

II . Integration with TMDU

See the link below for information and materials regarding the university integration posted on Tokyo Tech News:

“Tokyo Institute of Technology and Tokyo Medical and Dental University sign a basic agreement for integration”
[<https://www.titech.ac.jp/english/news/2022/065130>]

Question 9: What do you expect from the new university?

The four descriptions below are the new university's goals set by Tokyo Tech and TMDU. Please tick all options with which you agree. You can also describe your idea of a desired university, if any, in “Other” section (multiple selections allowed).

“Convergence science” is an approach in which multiple historically different disciplines converge, resulting not merely in addition ($1+1=2$), but rather the creation of new disciplines after convergence to discover unknown issues and solve social problems ($1+1>2$).

[<https://www.titech.ac.jp/english/news/2022/065130>]

- ☐ Further promote cutting-edge research at both institutions

- ☐ Develop “convergence science” through cooperation and collaboration across departmental and other borders
- ☐ Produce highly specialized professionals who will pioneer the future based on comprehensive knowledge
- ☐ Nurture a culture of diversity, inclusion, and equity to foster innovation
- ☐ Other (please specify)

Question 10: What kind of talent do you think the new university should focus on developing? (multiple selections allowed)

- ☐ Globalized
- ☐ Highly specialized
- ☐ With expertise generally covering science and technology fields
- ☐ With combination of humanities and science knowledge
- ☐ With strong leadership
- ☐ With strong advantage in job-seeking
- ☐ Capable of connecting medical sciences and engineering
- ☐ Other (please specify)

Question 11: In which areas will the university integration likely be **advantageous** to you? (multiple selections allowed)

- ☐ Research
- ☐ Education (lectures, etc.)
- ☐ Student life (traveling between campuses, extracurricular activities, etc.)
- ☐ None particularly
- ☐ Other (please specify)

Question 12: In which areas will the university integration likely be **disadvantageous** to you? (multiple selections allowed)

- ☐ Research
- ☐ Education (lectures, etc.)
- ☐ Student life (traveling between campuses, extracurricular activities, etc.)
- ☐ None particularly
- ☐ Other (please specify)

Question 13: Do you know about school clubs, student clubs, and other student organizations of TMDU? Is there any specific activity you wish to join?

○I know of some and yes, there is a specific activity I wish to join. ○I know of some, but I have not found any I wish to join so far. ○I do not know of any. ○I have already joined some activities.

Question 14: Do you think that the rate of applications for undergraduate programs at the new university will be higher or lower compared to the current rate at Tokyo Tech?

○Higher ○A little higher ○Mostly unchanged ○A little lower ○Lower

Question 15: Do you think that the new university will be ranked higher or lower in the World University Rankings compared to the current Tokyo Tech ranking?

○Higher ○A little higher ○Mostly unchanged ○A little lower ○Lower

Question 16: Do you think the university integration will be beneficial to your job hunting?

○Yes, absolutely. ○Yes, somewhat. ○Maybe. ○No, not really. ○No, not at all.

Question 17: Please tick all areas regarding which you think the new university should strongly appeal to outside parties (multiple selections allowed).

- ☐ Learning environment
- ☐ Hensachi (deviation score for academic rating)

- ☐ Research achievements
- ☐ Strengths in job hunting
- ☐ Location
- ☐ Other (please specify)

Question 18: Are you looking forward to the university integration?

○Yes, absolutely. ○Yes, somewhat. ○I'm neutral. ○No, not really. ○No, not at all.

Question 19: Are reactions from your friends (non-Tokyo Tech members), family, etc. about the university integration positive?

○Yes, absolutely. ○Yes, somewhat. ○They are neutral. ○No, not really. ○No, not at all.

Question 20: Do you feel comfortable that the name Tokyo Institute of Technology will no longer exist after integration?

○Yes ○No I have no strong feelings either way.

Question 21: Among currently available systems at Tokyo Tech, please name anything you **want to be maintained** even after the integration, and explain why.

Example: Curriculum, department/laboratory affiliation, graduate admission system (A/B schedule, etc.), learning management system (T2SCHOLA, etc.), study-abroad programs, etc.

Question 22: Among currently available systems at Tokyo Tech, name anything you **want to be improved** through integration, and explain how you want to be changed.

Example: Curriculum, department/laboratory affiliation, graduate admission system (A/B schedule, etc.), learning management system (T2SCHOLA, etc.), study-abroad programs, etc.

Question 23: Please name any frameworks of inter-department/affiliation exchanges among students you wish to be maintained or launched after the university integration.

Example: Student unit for undergraduate students, transfer of department/major

Question 24: Do you have any requests regarding the post-integration information infrastructures?

Example: Want to continue to use the domain name, Tokyo Tech Portal, T2SCHOLA, Slack, Box, etc.

Question 25: Do you think the university integration will help promote the diversity and inclusion initiative?

See the link below for "Diversity and Inclusion at Tokyo Tech":

[<https://www.titech.ac.jp/english/diversity-inclusion>]

○Yes, absolutely. ○Yes, somewhat. ○Maybe. ○No, not really. ○No, not at all.

Question 26: Please provide any comments you may have regarding the university integration.

III. Introduction of the female student quota

See the link below for information and materials regarding the introduction of female student quotas posted on Tokyo Tech News:

"Tokyo Tech to introduce new admission methods, female student quotas"

[<https://www.titech.ac.jp/english/news/2022/065243>]

Question 27: Would you support **having more female students** on campus?

○Yes, absolutely. ○Maybe. ○I'm neutral. ○Maybe not. ○No, not at all.

Question 28: How do you think that **the academic ability of students** will be affected by the introduction of female quotas?

○It will improve. ○It will improve somewhat. ○It will neither improve nor be impaired.

○It will be somewhat impaired. ○It will be impaired.

Question 29: How will **the research ability of students** be affected by the introduction of female quotas?

○It will improve. ○It will improve somewhat. ○It will neither improve nor be impaired.

☐ It will be somewhat impaired. ☐ I will be impaired.

Question 30: Would you support **the overall methodology** in trying to reach our goal of admitting more females?

☐ Yes, absolutely. ☐ Maybe. ☐ I'm neutral. ☐ Maybe not. ☐ No, not at all.

Question 31: Do you think the introduction of female quotas will help promote the diversity and inclusion initiative?

See the link below for "Diversity and Inclusion at Tokyo Tech":

[<https://www.titech.ac.jp/english/diversity-inclusion>]

☐ Yes, absolutely. ☐ Yes, somewhat. ☐ I'm neutral. ☐ No, not really. ☐ No, not at all.

Question 32: Please provide any comments you may have regarding the introduction of female quotas.

IV. Overall

Please answer the following questions about the Additional survey.

Question 33: Please provide any comments you may have overall regarding this additional survey.

5. 謝辞

学勢調査 2022 の追加調査アンケートの実施及び本報告書の作成に際し、多くの皆様にご協力を頂きましたので、ここで感謝の意を表したいと思います。

まず、アンケート調査に回答して下さった 1623 名の本学学生の皆様に厚く御礼申し上げます。皆様から頂いた声は報告書としてまとめ、東京医科歯科大学との統合・女子枠の導入に際してどのような危惧や心配事、あるいは期待を大学側へ抱いているのかなど、執行部を含む多くの教職員にお伝えします。多数の貴重なご意見をありがとうございました。

次に、ご多用の中、本報告書の作成に多大なご協力を頂いた、本学教員の皆様、職員の皆様に深く感謝いたします。学勢調査実施後に追加調査をおこなう初めての試みに際し、柔軟に対応くださり、沢山のご指導を賜りました。皆様のご協力なしには、本報告書の完成はありませんでした。ありがとうございました。

2023 年 7 月

学勢調査 2022 学生スタッフ一同

6. 学勢調査 2022 学生スタッフ

追加調査リーダー/学勢調査 2022 副代表

環境・社会理工学院	融合理工学系地球環境共創コース	修士 1 年	渡部 晃子
-----------	-----------------	--------	-------

学勢調査 2022 代表

生命理工学院	生命理工学系	学士 4 年	長谷川 義人
--------	--------	--------	--------

学勢調査 2022 副代表

理学院	物理学系	修士 2 年	吉田 拓暉
-----	------	--------	-------

班 員 工学院

機械系エンジニアリングデザインコース	修士 2 年	野村 彩乃
--------------------	--------	-------

班 員 物質理工学院

材料系材料コース	修士 2 年	伊藤 龍寿
----------	--------	-------

班 員 環境・社会理工学院

建築学系建築学コース	修士 2 年	高井 峻
------------	--------	------

班 員 生命理工学院

生命理工学系	学士 3 年	松本 淳弥
--------	--------	-------

班 員 工学院

システム制御系	学士 3 年	吉村 亮哉
---------	--------	-------

班 員 工学院

情報通信系	学士 2 年	東 翼
-------	--------	-----

班 員 生命理工学院

生命理工学系	学士 2 年	山崎 彩佳
--------	--------	-------

班 員 物質理工学院

応用化学系	学士 2 年	川上 夏香
-------	--------	-------

所属・学年は 2023 年 7 月現在

7. 学勢調査 2022 WG 教職員スタッフ

環境・社会理工学院	教授	鍵 直樹（主査）
リベラルアーツ研究教育院	教授	弓山 達也
リベラルアーツ研究教育院	教授	猪原 健弘
科学技術創成研究院	准教授	長谷川 純
国際教育推進機構	特任教授	太田 絵里
保健管理センター	教授	齋藤 憲司
保健管理センター	准教授	高田 純
学生支援センター	教授	伊東 幸子
学生支援センター	マネジメント准教授	山田 恵美子
学生支援課	課長	平山 隆広
学生支援課支援企画グループ	グループ長	田中 寿弥（～2023.3）
	グループ長	岡村 純（2023.4～）
学生支援課支援企画グループ	スタッフ	高際 紋歌
学生支援センター	事務支援員	吉江 綾子
学生支援センター	事務支援員	小黒 七葉
超スマート社会卓越教育院	特任教授	西原 明法
教育・国際連携本部 アドミッション部門	特命教授	篠崎 和夫

索引

医工連携等異分野間の交流	2-1 , 2-2 , 2-3 , 2-4 , 2-9 , 2-14 , 2-15 , 2-18
課外活動(部活・サークル・イベント).....	2-3 , 2-4 , 2-5 , 2-13 , 2-15
学院制	2-13
学士課程入試.....	2-6 , 2-9 , 2-13 , 2-14 , 2-18 , 3-6
学生間交流	2-3 , 2-4 , 2-5 , 2-14 , 2-15 , 2-18
カリキュラム.....	2-1 , 2-2 , 2-3 , 2-4 , 2-9 , 2-14 , 2-15 , 2-18
キャンパス移動.....	2-3 , 2-4 , 2-9 , 2-13 , 2-18
教養科目(英語科目、文系教養科目).....	2-13 , 2-14 , 3-6
クォーター制	2-13
系所属(転系制度)	2-13 , 2-14 , 2-15 , 2-18
研究室所属	2-13 , 2-14
修士課程入試.....	2-13 , 2-14
ダイバーシティ&インクルージョン(D&I).....	2-1 , 2-17 , 3-5 , 3-6
東工大ポータル	2-14 , 2-16
ドメインネーム(m アドレス).....	2-13 , 2-14 , 2-16
名称関連(知名度、ブランド力、就職力).....	2-3 , 2-4 , 2-7 , 2-8 , 2-9 , 2-12 , 2-13 , 2-18 , 3-6
留学制度	2-13 , 2-14
ユニット制度	2-13 , 2-15
Slack/BOX	2-16
T2SCHOLA	2-13 , 2-14 , 2-16
LGBTQ 関連.....	3-6
改革執行部への意見	2-1 , 2-2 , 2-12 , 2-13 , 2-14 , 2-18 , 3-6
学生の疑問・提案	2-12 , 2-13 , 2-15 , 2-18 , 3-6